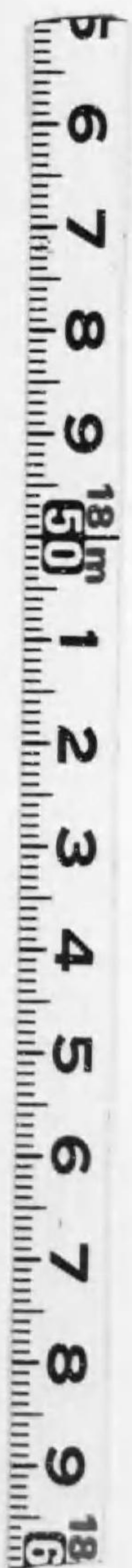


始



15.10.2

ルロア・ボリユー原著
法學士原田光三郎譯

經濟學原論

全

東京 有斐閣書房

572-112

11 7



ルロア・ボリユー原著
法學士原田光三郎譯

經濟學原論

全

東京 有斐閣書房



譯者序言

大戰終了後文化生活の高唱と共に歐米の名著にして我國語に翻譯せられ普く紹介せられたるもの少しとせず然るに佛國の經濟學書にして翻譯せられたるもの曩に飯島幡司氏のチード氏經濟學原論あるのみこれ予が淺學菲才をも顧みず佛國經濟學思潮の一端を窺はんとする人の一助にもと思ひ本譯書を公にする所以なり。

原著の傑作たることは世既に定評あり譯者これを贅せず思ふにルロア、ボーリュー氏は佛國經濟學者の最後の古典派に屬するものなれ共氏の經濟思潮は今日の佛國經濟學發達の基底をなせるものにして同國の經濟學思潮を窺はんとするものは必ず同氏の著書に待たざるべからず本原書は一八八七年の發行になり經濟原論を最も平易簡明に記述し立論正確引證剴切にして氏の學說を窺ふに最も恰好のものなり、

抑々翻譯の業たる容易にあらず原文に忠ならんとすれば文章難澁となり文意を捕捉するに努むれば原文の眞價を傷く虞あり今稿成り本譯書に對するに文章悔澁讀むに堪へざらしむ凡て譯者不文の致すところにして原著金玉の文字を害し碩學に對し禮を失するの大なるを愧づ然も尙本譯書を公にする或は盲人蛇に恐れざるの類か庶幾は讀者譯文の拙なるの故を以て原著の價値を捨つる勿れ。

恩師河津博士は公務御多端なるに拘らずこの拙譯に對し啻に校閲の勞を惜まれざりしに止らず卷頭に先生の序詞を掲ぐるの榮を與へられしことは實に譯者の感佩措く能はざる所なり又譯述上法學士桑原龍興氏の助言に負ふ所尠しとせず今本譯書を上樟することを得たるは總て恩師並に學友の賜物に外ならず茲に特記して厚く謝意を表す。

大正十一年四月五日

荏原郡平塚村の寓居に於て

譯者識

序言

人あり予に勸むる簡明なる經濟學の公刊を以てしたり。

當時予は浩瀚なる著作に従事中なりしを以て稍躊躇せしも遂に本書を公にするに決したり。經濟學に對しては誤謬偏見愚說今尙廣く行はるるを以て世人を啓蒙するは予の責務たるを感せり。

近時經濟學は教科細目に入れられ又吾國に於ては府縣會、國會、各行政廳の議決を採用し又は實行せんとするもの少からず而して議決の可否は社會の進歩を助け又は阻害すること大なれば一般的に必要にして而も廣く知られざる經濟學につき世人に教ふる所あるは強ち無益の業にあらざるべし。

本書は簡明を旨とし微細に亘り特殊の著述に見るが如き煩鎖なる叙述はこれを避けたり。予の欲する所は實際と簡明のみ。

一派の學者殊に獨伊の學者は經濟學を氣取りて模糊たる形而上學或は無味乾燥なる一種の哲學となし英の學者は經濟學をして天賦の抽象があるにあらざれば近づくこと能はざる複雑なる代數學の一種に變化せしめたり。

本書に於てかくの如き問題を生ぜず。

他日予は過去四年間に佛間蘭西學院に於てなしたる講義の複製とも見るべき詳細なる經濟學解説を公にすべし。

予は本概論に於ては世人が平易に會得し得る要領を提供するに努めたり。勤勉なる世の青年諸君本書を一讀し富の生産及び移動に關する實際的にして簡明なる概念を會得せば予の光榮これに過ぎざるべく他に報償を望むものにあらざるなり。

一八八七年十月五日

モンブンジールに於て

著者識

經濟學原論 目次

緒論

經濟學の目的——經濟學と精神科學との關係。

第一部 富の生産

第一章 生産の目的——生産作用に協力する諸要素

自然勞力及び資本

第二章 生産に對する自然及自然力の職能

經濟上より見たる自然の定載自然恩惠の不公平なる分配
氣候、風土、地上、地下自然恩惠の大部分は人類全般に對し共通的のものにも非ず又無償にも非ず。

第三章 勞力

勞力の定義生産的勞力及び不生産的勞力——身體的勞力
智能的勞力——勞力及び産業の分類人間勞力の異なる

目次

一

二

第四章

資本 本……………三

範疇に於ける生産の特性——人類職業の比例及公平。
資本の性質——貯藏及び器具——資本の發生及發達——
資本維持の二根源——節約及發明——近代の節約と古代
の節約との差異——常に資本を形成し増加する社會の一
般的性質——資本形成の種類、固定資本と流動資本——
資本形成の利用。

第五章

資本の種類……………四〇

固定資本と流動資本

第六章

資本に及ぼす原因……………四五

資本の豊富と其の職能とより見たる社會の三時期——資
本の蓄積を増進し又は制限する原因、安寧、教育、家族
制度、相續制度、人工的組合法制の影響——個人に代り
國家に節約の義務を負擔せしめ得るや。

第七章

資本の管理と企業者の職能……………五〇

第八章

分業……………六〇

資本と勞力との協力——小生産者又は自治生産者——企
業者の管理を資本に歸屬せしむる原因——工業企業者に
必要なる智能的精神的條件。

第九章

機械……………七〇

勞力の組織——勞働者の協力或は勞力の結合——分業又
は仕事の分割——領土的分業——世襲的分業——分業の
條件とこれに對する批評——産業組織の改善。

第十章

大生産と小生産——生産増加に對する妄想……………八一

近代の大生産を發達せしめたる條件——大生産の利益——
其の弊害——生産に對する制限——經濟の實際上の進歩
は外見上の進歩より後ろ——經濟的進歩に對する幻想の實例

第二部 富の分配

第一章 近代社會に於ける分配の一般的條件——自由と所有權

經濟の各作用——生産物の分配は全く立法者の專斷に依るものなりと信する謬説——近代社會の發達を支配したる一般的條件、自由と所有權——個人自由の繼續的發達——個人的所有權の進化及發達……………九三

第二章 所有權の起源及び基礎——相續の効用と公正……………九六

所有權の理論——土地所有權の起源及び發達——所有權の歴史的階段——私有財産の社會的關係——土地所有權に對する論評——土地所有權は國家存在の基礎なり——私有財産永續の理由——相續……………九六

第三章 小作料と地代——大地主と小地主……………一〇六

地代理論の説明——學者の結論に對する辯駁——國家が土地を占有すべしとなす社會主義者の系統——大小地主の各効果……………一〇六

第四章 利子分配に於ける資本の作用……………一二七

利子附貸借の性質——利子は資本の性質上必然的に生ずる——利率に影響を及すべき條件——利率に對する文明の一般的傾向……………一二七

第五章 企業主の利潤——利潤の原因及び要素……………一三五

企業主の役目——利潤要素の性質——企業大利潤の特殊要素——ある種の企業主が例外的利潤を得るは其の企業が社會全體に對し利益を與ふる證據及び結果なり——社會主義者の企業主の職能に對する説明の矛盾——利潤低下の傾向……………一三五

第六章 分配に於ける労働者の分前——賃銀——賃銀決定の方法——利益配當加入……………一四四

賃銀の性質及び其の通有性——賃銀は事物の性質より生……………一四四

す——賃銀契約の労働者と企業主に對する各利益——賃銀契約の順應性、賃銀の配合は無限なり——累進的賃銀——完全賃銀の實例——賃銀率決定の原因——賃銀に最も影響を及す原因は労働者仕事の生産力なり——人口の賃銀に及す影響——賃銀契約に對する社會主義者の反對——利益配當加入制度——本制度の一般適用を妨ぐる原因——各種職業により賃銀に差異を生ずる原因

労働者の結社——シンデケート——同盟罷工——協力組合………一六〇

結社の性質と其の二制度——結社の危険——獨占主義と舊制度の結社——閉鎖的職人組合の弊害——英國の労働者組合又はツレードユニオン——同盟罷工——労働者のシンデケート——協力組合………一七〇

第三部 富の循環

第一章 交易——價值——價格………一七五

第二章 貨幣………一八五

交易は人類の本能的事實なり——交易の二起源——交易の發達——交易の種類——價值の觀念——人類社會に於ける價值の順位——價值の變動を決定する原因——競争——競争に對する例外專賣——競争の效果——價格

物々交換の不便——貨幣其の二大作用——良貨たる必須條件——金屬貨幣は特に文化國に適應す——貨幣の種類——名目、合金、銅貨——單本位制度と複本位制度——貴金屬價值の變動と貨幣

第三章 信用——信用の性質………二〇三

信用の性質——對人信用と對物信用——信用は資本を創設するものにあらず——信用の三效用——消費信用——信用は節約を助長す

第四章 銀行………二二二

銀行の起源、其の業務——商業割引、約束手形と爲替手

形——商業證券の割引は銀行の基本的業務なり——小切
 手振替と手形交換所——兌換券——兌換券の利益——兌
 換券濫發の危険——兌換券と貨幣との差異——佛蘭西銀
 行——銀行各種業務——土地擔保貸付會社——農業銀行
 と動産擔保貸付銀行——信用に對する空想と幻覺——庶
 民銀行

第五章

公債

公債の種類、償却——公債の替換——兌換券と政府紙幣
 の強制通用力——公債に有利なる條件——公債——有價
 證券取引所

二三四

第六章

内國商業と外國商業

商業上の恐慌

二四一

商業競争——競争に對する例外——商業に關する新舊學
 說——大商業と小賣商業——内國商業に對する國家の關
 涉外國貿易存在の理由——輸出と輸入——爲替相場と其
 の變動——爲替相場の不利なるによる割引率の昂騰——

第七章

商業上の恐慌

二六九

商業上の恐慌の性質——商業上及び一般農業上の恐慌の
 諸原因——經濟上の恐慌に對する救濟策——恐慌は往々
 喜ぶべき結果を生ずることあり

第四部 富の消費

二七九

第一章

節約

二七九

人類が其の生産力の増加を爲し得る方法四あり——餘暇
 及び生産の増加——節約の作用——節約に對する世人の
 偏見、浪費者と節約者——必要品の破壊は商業を盛なら
 しむるものなりとする誤れる思想——佛國に於ける節約

の強さと國家所得との比例——節約の強さを増進する原因——資金の利用法——保險と其の種類——貯金管理局——相互救済組合——節約の方便としての産業組合——有價證券取引所が節約の形成と其の迅速なる利用に對して及ぼす影響

第二章

奢侈

二九四

奢侈の定義——産業の進歩は往時に於ては奢侈的消費とせられたる多くのものを民衆化せしめ之を一般に普及せしむるにあり——奢侈に對する偏見——奢侈の抑壓は社會の進歩を阻止す

第三章

人口——貧困——慈善

三〇一

人口に關する重要問題——マルサスの學說——マルサスの學說は世界の實際の狀態に適せず——國內人口の増加に過ぐるものの弊害——移民及び植民——人口靜止的なる國家、これに對する實際上の危險——貧乏、貧民は徐

第五部

國家と財政

三二五

第一章

國家の本質と其の職能

三二五

國家の定義——國家の能力に關する偏見と誇張——國家に對立するものは單り個人のみにあらず、即ち私的組合あり——國家の主たる權限——國家の原動力は適度なることを要す——國家は人類社會を進歩せしむる主要能因にあらず

徐に減少する傾向あり——法律による慈善と私設の慈善

第二章

租税——比例税、累進税、直接税と間接税

三三三

租税の性質——租税は貧民を除きては凡ての人民により納付せられざるべからず——比例税と累進税、租税の單一及び複數、課税の基礎としての資本及び所得——租税の歸着——直接税其の長短——間接税並に其の長短

第三章

豫算——公債

三四四

豫算定義——豫算の編成と提出——豫算の款項と豫算の特質——追補定額と臨時定額、歳入豫算と財源の評價、歳出と歳入は總て年度豫算に含まるべきものなりや——歳出の年度議決、ある國に於ては此の規則に對する例外あり、豫算に對する兩院の研究、豫算が有せざるべからざる主要特質——豫算及び公債の膨脹——償却義務

結論

目次終

經濟學原論

ルロア・ボリユー原著
法學士原田光三郎譯

緒論

經濟學の目的——經濟學と精神科學との關係、經濟學の目的——人類は社會に生活し其生存に必須なる物又は嗜好に適應する物を生産し交換し消費す此等を富と云ふ。

生産者は自己が生産する富を直に消費せずして更に自己に對し便宜とする物と交換するを常とす生産物か他の産物の若干量と交換せらるる性質を有する能力を價値と名く。

經濟學は考證に依り生産、分配、富の循環、消費を支配する一般的原理を蒐集する科學なり。經濟法則は普通工、學と稱せらるるものと共通の法則を研究するものにあらず例へば經濟學は大麥の播種法、製鐵術、貨物の運搬加工等につき指示するものにあらずして更に高等確定普遍的なる原則に關し研鑽する處のものなり。

經濟學は仕事を生産的ならしむる一般條件如何、資本の利用とは何ぞや、貨幣の價值を増減する原因如何、賃金及利子の高低に影響を及ぼすべき社會的原因如何、利率を上下する條件如何等に付處理するものとす。

特定社會の生産又は富の移動に關する現象は單に偶然の事情に委せらるるものにあらずして殆んど確定的秩序に依る、經濟現象は物自體の性質又は人性不變の基底を指示する同一の原因に基きて類似的に其影響を受くるものとす。

貨幣が一定の限度以上に蒐集せらるるときは其價值又は購買力を失ひ節約か生産を増加するときは社會は一段の進歩をなし賃銀方法をして労働者の勤勞に應じ正確に増加せしむるに至らしめば仕事に快活と活氣とを添ふ以上は偶發的一時的のものにあらずして國と時代に依り異なる眞理にあらずしての國民人種年代に通じ其法則は同一に行はるるものとす、經濟學が單に慣例の學にあらずして一の科學を組織する所以實に茲に存す。

經濟學は生産及富の移動に關する法則を抽出し依て人類社會に對し其蒙を啓き奉仕を爲し有害なる誤謬と高價なる育探又は不利なる排列を避けしめ政治家の過失及世人の所謂立法者の罪過を未然に防止或は矯正するに努むるものとす。

又同様にして人類社會に幸福と平和を齎すに寄與するものなり。

經濟學の起原は最近に屬す太古以來二三の學者なきにあらず殊にアリストートルを以て最と

せらるれども廣汎にして眞に確乎たる一團の原則を組成するに至りしは十八世紀のことにして佛國に於けるケネー・ツルゴー特に英國のアダムスミスを推すべし。

經濟學なる新科學の發生に對し異論起り之が價值を疑ふものありしは當然にして多數重要な自然科學例へば化學が他の學者間に議論を招きたると同一の境遇にありしなり。

化學はラボアチエ、ブリエストレー、シエーレー等に依り經濟學が發生したると同時代即ち十八世紀の後半に於て其の萌芽を見たりしなり。

以上三大學者が同時に化學の基底を作りしに先つこと遙以前に於て人類は其經驗と實際化學の結合に従事したりしと雖吾人人類にして化學の原理と原則に習熟したりとせば誤謬、勢力の濫費及時と金の勞費を避け得たりしこと大なりしなり。

又人類は數世紀に亘り物理學と應用機械學とを區分したりしも自然現象を支配する理論的法則を知得せしならば其結果は實に良好なりしなり經濟學に於ても同一なるは誠に明にして人類は世界開闢以來應用經濟學に付き絶えず之が模索を試み時には人類の本能に従ひ又推測に依り行動し裏切られたりしと雖も人類にして經濟學の原則に通じたりとせば其進歩は正確にして方法の不統一を減少せしこと大なりしならん。

經濟學が最近に於て其發達を見たる所以は經濟學の研究範圍に屬する現象が社會に現はるる最も複雑なる現象中に存在すればなり又社會は一方に奴隸制度を維持し他方に於て農奴制度、

團體權又は特權に對する制限的制度を採りしに依る而して之等の事實は自然經濟の方則を遵守するに不都合を生じたるを以てなり。

經濟現象は單り政治の專制に左右せらるるが如きも經濟學が適當にして掃除せられたる土盤に建設せらるる爲には或程度の自由權能及政治的自由制度を必要とするものなり。

經濟學と精神科學との關係——單り生産及富の移動の研究に當るの故を以て經濟學を不道德の學と爲すべからず經濟學は世人の思惟する如く利己主義の原理を研究するものなりとの非難は當らざるなり。

經濟學は同情的感情を參酌す一般科學たることを期するものにあらずして其一部分を成すに過ぎず又他の社會科學と相容れざるものにも非ず、例へば倫理學とは總ての點に於て相提携するものとす道德に反し又は道德と無關係なるものとなすにあらざるや遠し經濟學は社會に對し高等道德の感情、確乎たる經濟上の利益を現出し、紀律の維持に依り生産を良好ならしめ、無秩序なる投機的行動を牽制し、富の分配、各人權利の確保に對し節制と公平を齎らし、消費に對する識見を付與し、浪費を戒め人類をして節約の念を抱かしめ、利害關係に誠實ならしむると同時に團結の慣習を發達せしむ

道德の大部分は經濟上の德義に一致すべし例へば仕事勞働に對する趣味、節制、忍耐、持久、正義、先見、家族趣味の如し家父は自己生活の狹隘なる範圍のみに局限するものにあらずして

將來子孫の計を立つることを考ふるものなれば獨身者に比ぶれば遙に優良なる經濟的原動力を有するものとす。

哲學は個々の事實より大體の觀念を抽出し各種の系統に依り世界の一般的調和なる同一の結論に到達するものなり史學は人類指導の爲め過去より教訓を抽出し一時的時代を嚮導する爲め數世紀間の經驗を付與す統計學は大なる勞力を要する仕事にして社會の事實を蒐集し學者に對し有益なる結論と規則を指導する爲め之等社會の事實を一團と爲すなり經濟學は以上諸科學の力に依るにあらざれば之を理解することは能はざるものとす。

經濟學は以上諸科學より考證と省察を促すべき材料を抽出すると雖之等に支配せらるるものには非ず就中歴史を尊重するものなれども總ての史實が正當にして賞讃の價值あるものにして過去の人々の意見が常に眞理なりとの斷案を下すものにはあらず。

吾人は宗教戰爭の避け得べかりしものなることを空想し得ると等しく佛國革命時の *Maximum* 及び *Maximum* の法律をも避け得たりしことを想像し得るなり。

法律學と經濟學とは特殊の關係を有す兩者は共通の根底と同一の基調に立つ法律學は二大原則即ち自由と所有權を結合する個人的責任の上に建設せらるるものなればなり。

今茲には天啓的信教につき論ずるにあらざるを以て予輩は責任觀念即ち自由と所有權を二大信條なりとは主張せざれども經濟學の研究と經驗の示す所に從へば二者は科學的眞理を包含す

るものなりと斷定し得るなり。

法律は社會の複雑と發達に従ひ其の實際上の適用を變化す經濟學は慎重なる態度を以て法律が漸次有益に其適用を變化せんことを指示するものとす。

經濟學は自ら他の諸科學の覇者たるを標榜し其絶對權を以て世界を指導せんとするものにあらず隨て善美の助言を與へ又或場合には國民或は政治上の狀況に鑑み經濟學理の應用に付一定の猶豫と節度とを以てせんことを勸告するものとす。

今試に醫學に付きて考ふべし醫學は都市生活か田園生活に比して衛生上有害なることを教え又大工場内の労働は家内工業の労働に比し更に有害なることを述べれども之を以て工場と都市を破壊せんと欲するものと爲すべからず。

醫學上の必要よりは他の必要の爲め吾人は醫學上の法則を犯さざるべからざるも尙此法則に違背せる事實は記憶せざるべからず經濟法則に付ても之と同様にして吾人は往々政治上又は實際上の狀況に鑑み經濟原則を犠牲に供せざるの止むを得ざることありとするも經濟原則を犠牲に供したる結果の害あることは之を忘るべからざるなり。

經濟學に對する嘲笑すべき推測は之を却け過大の謙讓は之を去り經濟學が思想界及事實界に對して保持すべき職能を考ふる時は其態様種々なるも之が區分を爲す時は生産分配富の循環消費となすべし。

四部分類法に對しては改革者の異論ある處なれども之最適當なるものにして經濟現象の研究に従事するに方り迷路を避け進行に付き二重路の勞を省くを以て此分類法が常に是認せらるべきものなりとす。

第一部 富の生産

第一章 生産の目的—生産作用に協力する諸要素、自然勞力及び資本

生産の目的、人類の慾望——人類は其慾望を満足せしむるが爲め生産す原始的のものにせよ言はば先天的のものにせよ文明に従ひ發達せるものなるにせよ一般的のものなるにせよ人類全般に共通のものにせよ著明の人間の有するものなるにせよ或人類に特有のものなるにせよ總て慾望は其源を人性に發す。

人類の慾望は不確定の基礎に立ち無限に包擁的にして變動のものなり。

慾望を分類して自然的慾望人工的慾望となすものあり更に營養慾衣服慾住居慾裝飾慾教育慾娛樂慾等に分つ。

之等の慾望は一として其根底を人性に發せざるものなし例へば裝飾に對する慾望の如きも單り文明人に固有のものにあらずして一の例外なく總ての野蠻人中にも純朴にして奇異の狀態に於て表現せらるることを見得るなり。

言はば人類慾望の伸張力は文明により確定せられたる經濟上の一大現象なり。
哲學者倫理學者は人爲的又は人工的慾望と呼び之に反對すと雖も其批評は正當なることあるも往々にて誤れることなきにあらず。

常に精神を苦しめ不安を興へ安樂と富裕の環境にありても休養と純然たる快樂を味ふこと能はざる人間の限りなき貪欲と再生する苛酷なる慾望を枯渴せしめんとする場合には正當なり又各種の満足を得んがため他人に倚賴し卑屈又は邪惡なる性質の富を満足せんとする手段に對して批難するも又正當なるを失はざれども合理的手段により満足せんとする欲求又は希望を有する人類の趣味性に對し確固不變の限界を定めんとするは誤れるものなりと言はざるべからず。

本書中奢侈の發達に付ては後に述ぶる處あるべきを以て今茲には之を論ぜざるも慾望の複雑多様なるは人性に弱點あり瑕疵短處ある憑證にあらずして寧ろ人性の高尙雅美雄大なる證左なりと云はざるべからず。

下等動物は高等動物に比し其慾望少なく野蠻人は半開人よりは慾望の程度低く半開人は文明人に比較し慾望の程度又低きものとす。

文明の發達による慾望の増加は三能因に依りて行はる三能因とは模倣心習慣遺傳之なり。

文化の程度低き人類又は民族と是より文化の程度高き人類又は民族とを互に接觸せしむるときは前者は曾て有せざりし趣味を後者より借り來り生活するに至るべし。

斯くして個々の慣習を生ずるに至り遂には遺傳をなすに至る遺傳は慾望を決定的に確定し數世紀以前の人民に取りては無用の長物と見做されたるものも今日に於ては最早其必要缺くべからざるものとなりしことを會得すべし。

家庭用器具の大部分衣服化粧品の多數例へば靴下靴手巾石鹼食料品の大部分は云ふも更なり書籍雜誌樂器等に至りては人類の慾望性が漸次増加擴大したる適例なり。

生産の主要素——人類は種々の慾望を満足する爲め通常富源を單り自然中に求むるものにあらず自然は人類の基本的慾望例へば空氣に對する慾望の如きものを生ず又或る諸國に對しては全一箇年を通じ他の數國に對しては一年中の或期間人類の慾求する溫熱を供給するものなり人類慾望の大部分に至りては自然を助成し又は之を支配する人類の努力に待たざるべからず以上の事實は人類發生以來の眞理にして家族の員數少なく廣大なる面積を占有する家族制度の時代に於てすら生活の資料を得んが爲めには大なる勢力を用ひざるべからざりしなり野生の果實を採收し狩獵魚漁家畜牧場の如きものと雖太古吾人の祖先に對し常に繼續的努力にはあらざるとするも一時的には非常の緊張を以て大なる活動を要求したりしなり。

人類は其慾望を満足せしむるが爲め自然と協力せざるべからず兩者の協力なくしては生産すること能はざるなり、自然は意識なき力にして普遍にして種々なる材料より成る自然は人類が額に汗するに依り之を豊饒ならしむることを得るものなり人類の智識に依りて自然を支配する

を會得し觀察と省察が人類に暗示し漸次完成せしめたる器具に依り自然を開拓するものとす。

生産に對する人類の協力は之を二種類と爲すことを得べし協力の一は純筋肉又は精神の努力に於ける實際上の勞働なれ共これのみを以てしては大なる結果を擧ぐるに足らざるなり文明の曙光にある人類は其の筋力と知識に大なる力を與ふる手段を用意するに至る即ち後顧の患なくして數日、數週、又は數月の後にあらざれば成果を收むる能はざるが如き長時間を要する事業に従事するため貯藏をなすものとす次に物それ自體に於ては人類の慾望を毫も満足せしむること能はざるも其慾望を満足せしむる手段を容易ならしむるに助力する物體を製作するに至る其の物體とは器具、弓矢端艇捕魚網鶴嘴鋤犁より精巧なる器械に至るまでの如きものなり。

以上の貯蓄及器具は吾人が資本と呼ぶものにして開闢以來人類は資本を創造したりしなり所謂石器時代原始人類に對し其要を爲したる磨石は恰も今日の機械蒸氣鋤の如き資本なりしなり人類は器具を製作する本性を有す人類の發達に比例して器具は夥多となり其種類も多く複雑となる今日に於ては精神作用を補助し又は補足する爲め計算器の如きものを作るに至れり。

斯くして原始時代の人類に付きて見るも生産は三要素に依りて行はる第一自然第二勞力第三資本之なり。

第二章 生産に對する自然及自然力の職能

經濟上より見たる自然の定義、自然恩惠の不公平なる分配、氣候、風土、地上地下、自然恩惠の大部分は人類全般に對し共通的のものにも非ず又無償にも非ず。

へ生産に於ける自然の職能——自然は生産の第一要素なり自然なる語は單に土地地上を包含するに止まらず人類を圍繞する環境及そか包擁する勢力の全體を含むものとす

人類は近來地球が直接生ずる勢力の源泉に其富源を求むるに止まらず寫眞製作に日光を利用し工業上の用途に太陽熱を使用するに至れり

へ自然は生産に對する關係より次の三要素に分類することを得べし。(一)氣候及地形。(二)地質的構成即ち土地土壤及地盤。(三)自然作用力例へば風力水力瓦斯の膨脹力及物理又は化學上の結果の應用力なり

學者往々生産に對し自然は消極要素にして人類の勞力は積極要素なりと云ふ者あり。

此定義は嚴格に論ずれば正確ならず自然の如く積極的なるものは他に比類なきなり自然は須臾も休止したることなく勞力に於けると等しく常に變化し活動す其著明なる實例は植物の發芽に付き之を見ることを得風力水力蒸氣力の如き自然力は常に活動的なり。

今引用したる定義は純理より見れば幾分不正確なる嫌あるも限定的意味に於ては比較的眞理なりとして考ふることを得べし自然を定義せんに自然は常に積極的なりとするも一般に規則的普遍的にして自然の儘に増減せられざるに反し人類に至りては其努力と恰憫とを以て生産の爲め人類の活動力が其欲望と豊富に適應せしむる影響を與へ得るなり土地を耕作し播種し刈取し高所に風車を掲げ運河疎水を開鑿し種々の化合に依り數種の瓦斯を分離し又は結合し自然を捕えて訓練し自然の無盡藏なる活力を特種の物に變形し人類生活の維持と美化とに努む。

一派の經濟學者は文化の發達に従ひ生産に對する自然の作用は漸次減せらるるものなりと説明するものもあるも其見方は明かに誤れり

物質上より見る時は文化とは組織を善良にし自然を完成し變化せしめ之を種々に利用するにありて文化の目的と結果は人類の自然に對する協力を密接ならしめ法則に従はしめ意識的ならしむるにあり。

自然恩惠の不公平なる分配——自然の富及力は地球の表面に亘り劃一的公平に分布せらるるものにあらず。

單に食糧品の生産と云ふ點より見るも總ての土地は平等に豊饒なるものにあらずポメラニア沙漠はロアール又はローヌの肥沃なる流域に比し農業上の生産力遙に劣る中央アジアの平原はセイヌ沿岸の牧地に比し豊饒の點に於て劣る同一國內に於てもローゼル、カントアルの山地はフ

ランドル・ラリマー・チュドゥベルニュ平原に比し其價値の及ばざること遠し。

こは實に土地の豊饒に付きてのみならず他の主要なる自然に付きても國に依り不平等にして各々異なるものとす文化に終極的影響を與ふるものは土地生産物の種類地勢及風土なるを常とす。

土地の配置は人類に對すると等しく民族に對しても天性の素地を成し又職業の種類を按配す例へば航海業者及商人としての民族とも云ふべきフエニキヤ人、カルタゴ人、希臘人、ベネチヤ人、和蘭人、英國人を造れり然れどもシラス人、ベルシャ人、露國人の如き海岸に接すること容易ならず水流に依り連結せらるる網を有せざる大陸に住居する者にありては優秀なる航海業者又は商人たること能はざるなり。學者氣候及風俗が人體の組織に影響を及すべきことを論じたりそは一理ある處にして過度特に高熱の連續は身心を壓迫し熱帶國に於ける大なる困苦地震旋風の如きは人心を阻喪せしむるに至る。

人類が勞せずして容易に必要な欲望を満足すること例へば食糧品住居衣服の如きを容易に満足せしめ得る天産の豊富にして自發的なる熱帶國に於ては人類の有する活動趣味と發明力を麻痺せしむるは歴史の證明する處なり。以上述べし處は特に奇とするに足らざれども之に依り吾人は重大なる經濟上の結果を抽出し得るなり。

吾人は自然界に單り生産物植物光熱大氣中の微温等の如く直接慾望を満足せしむるに足る生

産の特質を利用するに止まらず労働に用ふる器具道具の如く自然自體を使用せしむる自然の特質をも用ふるものなりとす。

人類の直接利用し得るが如き物を殆んど自然の儘に豊富に生ずる時は身體を痲痺せしめ人心を痴鈍ならしむ之に反し自然が有する後天的特質例へば人類が相當の努力により慾望を満足するにあらざれば役立たしむる能はざる鐵鑛、炭礦、交通、灌溉、動力として用ひらるる水流の如き自然の第二分類に屬するものが豊富なることは人類の勢力と聰明とを進歩せしむるに付き大なる利益あるものとす。

北國及温帶國は直ちに利用することを得べき生産物を供給すること尠し自然は材料又は勢力を浪費し又は付與することなく人類の努力に對してのみ讓渡するものとすこれ北國又は熱帶國に位置する人類が徐々に其大を爲す所以なり。

文化を完成するに當り自的發に發達する能はざる國は外部より資料の輸入を爲さざるべからず人心は氣候に依りて痴鈍となり自然の産物豊饒なるが爲め幾分抑壓せられ總ての發明、明智、文化の進歩に必要な資本の蓄積等を爲す能はざるなり殖民の目的は結局不利益なる狀況にあり自然は浪費せられ文化の完成は自然的に發達し之が開花を見る能はざる國に對し最も活動的なる國民の技術と資本とを輸入するに在るなり。

自然は總ての人類に共通なるものにあらず又之が使用を爲すに當り何等の對價を要せざる無

價財にもあらず海水及河流は總ての人類に對し共通のものなりとなすものあれども誤れり領土の僅少部分のみか海洋より遠かり領土全體に比する時は極めて廣き海岸線を有する國あり一方廣莫たる連山より成る大陸の一部を占め遠く海洋より離れ或は接續せる海洋の一部は結氷により一年の大部分航海を閉鎖せらるるものあり前者は後者に比し自然經濟上優勝の國にして文化速に發生し漁業發達し商業繁榮し貨物及住民の移動容易にして運賃低廉なり。

長方形の島國に在りては其利益高度に達す例へば大英國キューバジャバ日本等の如し經濟上優勝の地位に立てる國民に對し經濟上の利益を得せしむるものは此の優勝なる地位なること明かなるべし人類労働の努力が平等なる國に在りては其結果更に多く生産的なるべく生産の總費用殊に運送賃は低廉にして他の狀況平等なりとせば資本は極めて有利なるべし自然上の特權を有する國に取りては一定の領土に於て多數人類を養ひ大なる餘裕を以て賃銀及利潤を高騰せしめ依て稠密の人口を維持し得るを常とす。

島國的位置にあらず海洋に接近せざる國に在りても良好に配合せられたる河流網を有し勢力を要せざる大航行河流又は河口より遠き上流に至るに勞少なく互に接近するものにおいて運河に依り結合すること容易なり支那北米合衆國佛國に於ては有利なる狀況に在り以上の諸國はアマゾン上流に位せる南亞米利加の一部亞弗利加大陸及びイスパニア露西亞の如き歐洲に在る國々に比し經濟上優勝の地位に在るものとす。

自然の有利なる地位を占むる諸國にありては自然の有利は經濟的價值を有するものとす此自然の利益は資本を蓄積し又は形成する勞を省くものなれば恰も一種の資本に相當す何となれば水流なければ水流を結合せしめざるべからざるべく道路を開通するには多額の出費を要するものなれば其結果は負債又は租税の力に依らざるべからざればなり。

又地質の外地勢及氣候に付て見るも生産に於ける自然の職能は尙表はるものとす。

單に人口を領土の廣狹に比較するは不正確なる觀念なり例へば吾人が白國は一キロ平方哩に付き二百人の住民を有し英國は一百六人を有し佛國は七十一人を有すとすは局限せられたる狹隘なる見解を持つものと云はざるべからず生産物の交換は極めて容易なるものなれば一國民は單に其土地又は地下則ち其所有する炭礦石礦金屬礦石油礦に依りてのみ其生計を立つるものにあらざるなり二種の白國英國ありと云ふを得べく太陽に依り照らさるる白國あり又左程良好に太陽熱を受けざる白國あり礦山を有するものあり物資の豊富なる地下を有するものあり英國に付きても其理同じ佛國はイスパニヤに比し石油礦山を有すること極めて少なく前述の二國は農産物に對し豊饒の土地を有すると同時に地下には礦業用の原料を有すること豊富にして他の諸國に比して著しく自然の利益を享有するを以て更に多數の住民を養ひ容易に人民に對し餘裕を確保せしむるを得るなり又自然の財産は到る處不平等に散布せられ生産物の異なるが爲め交換交易を生ず異種の生産物あるは總ての人民及國家が平等に付興せられざるが爲なり。

平等と云ふことは單に人類の觀念に他ならず自然は不平等を何國に對しても實現したる譯には非らざるなり自然の恩恵に浴すること大なる國家及人民あり同一國の内部につき見るも人類の一團は自然より外界の賜を不平等に賦與せらるるものあるを見るされはジロンド洲セイムアンセリウール洲の如きは明にゼール又はバツヌアルプス洲に比し自然の恩恵を蒙ること良好なり。

世人は通常總て自然の賜は無償に使用し得るものとして總ての人民に共通的のものなりと思惟するが如し此思想は根本的に謬見たるを免れず眞に唯一の無償の自然の賜と云ふべきは等しく總ての文明社會に散布せらるるものにして正確に無償なりとは云ふべからざるも唯一の適例と見るべきものは文明社會に散布せらるる呼吸に適する空氣の如きものなり。

地球の表面に分布せらるる他の總てのものは其ものを享用し更に高率の利潤を擧げ或は運搬に必要な資本經濟として表はれ又は工業用の補給品に變形するものなれば其人民に對しては夫自身に於て價值を有するものにしてこれ等のものは常に交易又は人民の所得となりて優良品に變形せらるるものとす。

一の人民が占有する總ての自然的財産は當然其所有に屬すとすも正義と人道は他の人民に對してもこれ等の自然財を分與するを許容すべきを要求するものとす而して此要求は二の方法に依り行はる即ち國內交換及政治上及外部よりの歸化條件の下に自國に比し特權を有する他國

に住居することを得るにつき外國人に賦與せられたる權能之なり。

自然に付き一瞥して吾人は生産事業に對する協力の勢力大なることを明にせり自然財の雜多なることと不平等なることは國家間に交換殖民移住の自由を生せしむる結果となれり。

吾人は自然を論ずるに當り單に生命を有せざる外界の自然をのみ考慮すべからずして人間自體の自然につきても考へざるべからず人間は國により人種により各國人により其種類雜多にして不平等なるものとす成年に達したる人間は種々の要素の集合より成る即ち身體の健康遺傳教育固有の性質意思等は人間を造る上に於て全體として貢獻するものとす人間は數千年を経て自然の手により成りしものにして體質上にせよ遺傳にせよ數百年代間の種々の影響が各人民及び各個人を現在在るが儘の状態に作出するに付き貢獻したるものなり意思是個人的努力によりて生じ既得の素質に加工し人間を變更し又は矯正することあり然れども人民間に於ても人類間に於けると同じく體力智力道徳的慣習訓練傳統の點より見るも種々不平等にして此ことより人間價値の自然の分類を生ず此分類は常に絶對的決定的のものにあらず個人的又は團體的努力は或る程度迄人間を矯正するものにして此個人的又は團體的努力を生産に適用する場合に努力なる名稱を付す。

第三章 勞 力

勞力の定義生産的勞力及び不生産的勞力——身體的勞力智能的勞力——勞力及び産業の分類人間勞力の異なる範疇に於ける生産の特性——人類職業の比例及び公平

勞力の定義——人類の勞力は生産第二の要素なりこれ有力なる要素にして自然を指導し其豊饒に付加し法則を探究し材料が賦與せられたる生産力を人類獨占の利益に轉せしむるものとす

勞力とは何ぞやこれ人類活動の一形式にして人類活動の總ての形式なりと云ふ能はず食事を取る人は活動す又散歩する人も活動すれどもこれ等に對して勞力ありと云ふことを得べきか。

通常の見解に依れば勞力の觀念は勞力(注意)を包含す多數の人大技術者美術家田野を愛する農夫は勞働を喜ぶ者なることは明なり。

他の總ての目的を排除して一定の目的に人類の活動を集中する努力なる觀念は勞働の觀念に一致することは眞なり勞力が人類に對し或意味に於て苦痛ならざりしならば總ての經濟現象は今日の如くならざりしなるべしと世人の言へるは洵に一理あり人類は苦痛を厭ひ勞力を節約せんと努むこれあるが爲め機械の發明に止まらず仕事の結合を見總て産業の進歩を促したるなり

謂はば一定の結果を得るが爲め最少の努力を以てする最少活動の原則は全經濟生活を支配するものなり。

同一の行爲と雖も其行爲の目的實行せらるる行爲の規則的なることに従ひ娛樂となり又勞力となるこれ世人の所謂素人と職業者との差異を認むる所以にして斯くして舞踏人と舞踏の師匠、遠足者と登山案内者、娛樂の爲の畫家と繪畫を職業とする者、祭日の遊船客と水夫、散步者と郵便配達人との區分を生ずるなり。

同一の行爲が或人に取りては娛樂となり他の人に對しては勞力となるは何故なるか勞力なる語が經濟的意味を有するが爲めには別個の條件を要す第一人類の努力は手段にして目的にあらざることを含み又努力が分離せられずして行爲が總て連續すること秩序的の活動一定の目的を有することを意識せざるべからず吾人は努力は總ての苦痛が生産的成果を得る爲め行はるるものにして換言すれば人類の慾望を満足せしむるものなりとして考へざるべからず。

勞力は二の異なりたる性質を有す肉體的智能的これなり今日に於ては尙筋肉的精神的と呼ばる智能的勞力は文化の發達に従ひ其範圍を益々擴大せんとする傾向あり人類の追求する目的は勞力其者にあらずして努力の結果ならざるべからず人類は多くの慾望を有するものなれば其満足を得んがためには最少の努力を用ひ一の慾望の満足に用ひたる時間と努力との餘りを他の慾望の満足に用ひざるべからず。

人類が財貨を獲得する點より見るときは勞力が一種の免債なりと云ふべきも努力自體より觀察するときは一の煩瑣なりと言はざるべからず。

生産的勞力及不生産的勞力——勞働は總て生産的なりと云ふべからず左れば改築せんが爲め墻壁を破壊して自ら慰み又は再建せんが爲め家屋を焼毀し製作せんが爲め杯皿を破壊するが如きは無益に努力を浪費し人類の富に毫も加ふる所なきものなれば愚行なりと云はざるべからず。

人類に必要又は有望なる財貨を増加せんが爲め協力する場合に在りては努力は常に生産的なりと云ふことを得。

肉體的及智能的勞力——指導宜しきを得たる智能的勞力は筋肉勞力と等しく生産的なり科學の研鑽に依り蒸汽機關の輪機を組合せたる技師は機械を製作したる鑄物工組立工汽罐を管理する火夫機關手と共に生産者なり。

規模を定め材料を組立て建造物の設計を爲す建築技師は煉瓦工家根職と等しく生産者なり。仕事の配置を爲し協議を遂げ缺陷を修理する管理者又は工長も職工と同じく生産者なりとす。

會計係は秩序整然たる正確なる記帳を爲す者にして言はゞ生産は如何なる状態に在るかを明にする者にして吾人はこれに依り何時にても生産力か節約して行はれつゝありや浪費せらるる

ことなきやを計算することを得るものなれば會計係も亦單純なる作業手工と共に生産者なり。新奇を好む盲信又は迷信は以上の明白なる真理に對し暗影を投せんとす往時或る階級の者は筋肉労働者階級を蔑視したるものなるが今日に於ては精神的勞力に従事する者を蔑視するに至りたるが如し。

此種新奇の謬想に従へばヴァイオリンを製作する職工は生産者なるもこれを享樂する藝術家は生産者にあらず圖書の印刷に従事する者は生産者なれども著術家は然らず藥劑師の書生は水藥を調劑するを以て生産者なれども處方箋を作成する醫師は生産者にあらざることとなる譯なり。

○然れども吾人が智能的又は無形の勞力に對し大なる注意を拂ふ時は智能的又は無形の勞力は筋肉勞力に比し遙に永續的にして廣汎なる結果を有するものなることを認むべし。

教師の授業を一椀のコーヒーを飲むに比較する時は生徒の精神に永續性を與へ其心情を變せしむること遙に大なるものあり。

精神的勞力の内二種類は明白に生産的なりと云ふことを得第一は發見及發明の勞力にして第二は管理及指揮の勞力なり。

純粹なる筋肉勞力は材料の弱點を補足するのみ材料が組成する部分を変更する結果を生産するに止まり同時に二の點を作為すること能はず時と時間と空間により局限せらる。

之に反し發見及結合の勞力は精神的のものにして其勞力は直に世界全般に傳播せられ數世紀間に亘り無限に反射するものなり。

左れば智能的生產は以上の如き強烈さと計るべからざる永續性を有す蒸氣機鐘電信機織機械ベッセメ網織機械の發明は數年ならずして地球の全體に亘り傳播せられ又これ等に比し影響なき他の幾多の發明も同様の結果を齎したるなりこれ等技術を完成せしめたる天才又は聰明なる個人の貢獻は人類に對し常に大なる感動を與へたり太古の人民は發明家を以て英雄又は半神に擬したることはツクブトレームに於て見るが如し近來自由主義の經濟學は國家より何等干渉を受くることなく自然法則を應用して富の分配を爲すに當り自然の法則が重要な職能を有するものと爲したり。

勞力及産業の分類——學者人類勞力の分類を爲す者尠ながら其内最も合理的なりと見らるべきものは (一)採取産業、自然の内部より有益なる物質を少なくとも其主要部分の變形を爲すことなく採取するものにして例へば野生の果實を採取すること漁獵森林の伐採炭礦石礦の採掘等は皆之に屬す (二)農業、地中より有用の物資を抽出するものなれども自然を人類の行爲及行爲の有する法則の智識に依り支配するものなり (三)製造工業、人類の手工或は物理及化學の協力を以て採取産業及農業が人類に供したる物體に加工し又は變更を爲すものにして織物製造冶金工業其他各種の製造工業は總て此の部類に屬す (四)商業、商品を集合し保管し

此の如きものなれば會計係も亦單純なる作業手工と共に生産者なり。新奇を好む盲信又は迷信は以上の明白なる真理に對し暗影を投せんとす往時或る階級の者は筋肉労働者階級を蔑視したるものなるが今日に於ては精神的勞力に従事する者を蔑視するに至りたるが如し。

各消費者に分配し又は小賣するものなり (五) 運送業、商業と大なる關係を有するものなれども運送業は近代の發達に係り人及物の位置を移動する重要なものなるを以て學者之を商業と區分せり (六) 精神的勞務、官公吏の勞務自由職業等にして例へば醫師辯護士著術家音樂家の如きこれなり。

一派の學者は社會的に重要な理由により技術家職業的學者單純なる個人によりなされたる發見及發明に對し特種の分類を爲すものあり發明家、人類に對し最も有用なる驚くべき生産者が社會に對し爲たる奉仕は縱令著名なりとするも前に述べたる、六分類に屬せしむべきものと云ふべし家庭的勞務の如き單純なる人間の勞務は之と大に異なる處ありと雖も亦此部類に關連せるものなり。

○採取産業農業製造業が純然たる生産的性質を有することにつきては少なくとも現代に於ては争ふべからざる所なり。

○之に反し運送業商業自由職業及官公吏の職業が生産的性質を有するものなりや又自由職業及官公吏の職業は眞の生産者に依頼して生活する寄食者の部類に屬すべきものなりやにつきては議論の在る處なり。

人間勞力の異なる範疇に於ける勞力の特性——要するに生産勞務の範圍は無限に擴大せらるべきものとす然れども吾人が前に引用したる職業階級に於ては田園及び工場勞働に比し過剩

の問題を生じ得べし。

○運送業が生産的なるは明なり多くの貨物は過多に生産したる國より該貨物に缺乏しこれを有せざる爲め苦める他の國に向ひて輸送せらるる状態に在るにあらざれば之が利用を爲すこと能はざるものとす棉花コーヒ石油鐵金屬建築用木材其他につきて見るが如し。

運送業は各國に對して均しく自然が與へたる生産物を引渡し交易の方法に依り他の生産物を得せしむるものなれば明に生産的なりと云はざるべからず又運送業は人力に加工するものにして七十五年以來世界の表面に大なる變化を與へたるは實に此の運送業ありしが爲めなり。

人の移轉につきて見るも貨物の運送に於けると同じ蒸汽船は獨逸愛蘭より多數の移民を北米に移送し依て生産的作業を爲せり之等移民は祖國に於ては職業を求むること能はずして窮乏又は貧困裡に生活せざるを得ざりしも新世界の新鮮なる土地に於ては壯麗なる收穫を爲し得るなり直接利益を齎すもの、外他國の山水に親しむを得せしむる爲め慣習的滞在を爲す巡遊者を乗する列車も亦經濟上の意味に於ては生産的なりと考へざるべからず人間に對し愉快教訓健全なる娛樂を與ふるものなれば生産的なりと言はざるべからず。

無益に競合する鐵道線路を敷設し相互に利益を侵害せざるを得ざる港灣を多數に開設し規則的交通を維持すること能はざる國に對し更に高價なる鐵道に多くの經費を投じ之が敷設を爲し依て運送業を濫用するものありこれ等の濫用は該事業に要する出費を租税の生産に依り補給せ

んとする國に於て見ること多し。

運送に付き述べたる處は又商業に移して論ずることを得經宜しきを得たる商業は明かに生産的なり商人は全世界の生産の指導者又は組織者なりと考ふることを得べし商人は國狀の異なるにより富源の必要に従ひて配合の勞務を爲す異種貨物の需要供給を公平に各場合に應じ出來得る限り迅速に實現せしむる様各國間に生産物の分配を爲す勞務に従事するものなれば廣大微妙必要缺くべからざる作業なりと云ふべし。

小賣商人に於ても生産的作業に關與す小賣商人は先づ商品を保管する者にして保管は或る程度迄生産に該當す次に各人の需要に従ひ商品の數量を按配す又通常商品に對し手間を加ふ例へば食糧品商は砂糖を箱詰めとなしコーヒを干燥せしめ獸肉販賣商は牛肉を細切す小賣商人にして或る程度の産業或る程度の手間を混せざる者はなし顧客が欲望を達するに至る迄に之に對し轉置と面倒とを節せしむれば商業が生産的なることは疑の餘地なし、然れども茲に重要な注意を拂はざるべからざるは商業は一定の條件と程度とにあるにあらざれば生産的なりと云ふこと能はざることなり、恰も機關が極端に多き時は却て時間と勞力とを浪費すること大なるが如く商人の數多きに過ぐれば其弊に苦しむ二十米置毎に麩屋肉屋食糧品商等多く極めて美麗に裝飾せられたる店舗を有する小賣商人が軒を並ぶることは必要なきなり小商人の極度の競争は概して經費の負擔を大ならしめ其顧客の範圍を狹隘にし商品の價格を低廉ならしめずして却て騰

貴せしむこれ巴里に於ける麵麩牛肉につきて見る處なり又小賣商人と取次商人との過度の増加は品質を下落せしむ。

大商店又は組合に對する小商店主の葛藤と不平あることはこれを忘るべからず然れども大商店及組合の組織は小賣商人が寄生的なることを防止するに付正當なる干涉を爲すものなりと云ふべし。

勞務の生産的なりやに關すると同一の問題は自由職業、官公吏家政的業務の如き個人的奉仕に付ても之を見る以上の人々の勞務は社會全體より見て生産的不生産的の何れと見るべきか。

多少の疑なき能はずと雖も要するに此種勞務者の階級も少なくとも極端に其數を増加せざる場合には生産に参加するものと云ふべし。

假りに佛國に於ける四萬の憲兵と六七千の裁判官を廢止したりとせば各人は其耕作地の周圍の警察に備ふる爲め自ら罪人を訴追し逮捕し懲戒するが爲め武装せざるべからざるに至らん然り而して市民は自ら私設憲兵を養ひシンジケートを組織することを協商する恰も中世イスパニヤに於てセントヘルコントと名けられたる有名なる警察講社を見たるが如くなるべし斯くて個人を自ら裁判し其執行を爲すこと尙北米合衆國の半殖民的領土内に苛酷なる先驅者として私刑適用の名の下に行はるゝ即決執行を爲すに至るべし。

警察及び裁判なき時は農業者商人をして武装の手續及巡邏に無限の時間を浪費せしむるを以

て生産は著しく混亂せられ常に不安定にして屢々阻止せらるべし其損害は生産者が憲兵巡查及裁判官に支拂ふ俸給より更に大なるものあらん。

同様に少なくとも實際上に於ける濫用を避くるに於ては行政官官衙の職員醫師辯護士教師音樂家詩人の職業も社會的生產の性質を有することを會得すべし理論的に云ふも以上のものは人類の間に存する困難を排除するに付き協力し一般的利益の手段となり人性の弊害を治療し人性を教育し有益なる娛樂を興ふ和親健康愉快に生産の良好なる條件を爲すものなり教師及び學者は學識を傳播し陶冶し増加するものにして筋肉労働者と等しく文化の發展に必要缺くべからざる經濟的機能を有するものなり。

家政的勞務につきても同様なる考察を爲すことを得合理的範圍に於ては家政的勞務も明に生産的のものにして料理人小間使は商人醫師學者に對して各自が家事に要する注意に對する時間を節約せしめ給仕は其行爲に依りて住居を氣持よく優雅ならしむるものなれば食糧品商の丁稚唐木匠の職人と同一の資格を有する生産的勞務者なり中流又は上流階級の生活の美化及幅員が社會的生產の歩度に影響を興ふることを説明するには奢侈を論ずる章下にこれを述べし。

○人類各種職業の比例及衡平——最後に述べし職業即ち商人運送業者官公吏自由職業に従事する者召使丁稚の如き個人的奉公人に對しては之が留保を爲して考察せざるべからざるものあり要するに以上の者は其職能が經濟的説明を有し其仕事は社會的利益を有する理由あるを以て生

産的の者なりと云ふを得べきも各自が負擔する社會的職能と總人口に對する員數の割合とは生産的なりや否やを決するに付問題となるなりこれ以上の職業と農業とが異なる所以なりとす。

農耕に従事する新なる労働者も總て價值を生産す嗜犂の新なる一打も亦穀類葡萄の草取の如き手業も明に其爲したる割合に依り人類に對し有用なるものを生産す。

然れども郡長官署の吏員一般の官公吏辯護士醫師召使商人は其數已に増加し過多に達せる者なれば此部類に屬する人々に付きては農業者と同一に論ずること能はざるなり農業労働者及び一部の工業者と先に列擧したる職業の管理者助手との間に存する差異は前者の仕事は無限にして人類は食糧品又は幾多人類需要の爲め製作せられたる物品が過多に生産せられたりと云ふことはなきに反し商人官公吏自由職業に従事する者の個人的事務は生産物を分配し管理し生産の間接指導を爲し又は補助するに止まる者なれば限定的勞務にして其範圍局限せられ機關の數過多なるに苦しむことあるなり。

約言すれば間接の生産者たる指揮者監督補助者の數は農業及工業労働者の數に比し或る程度迄中庸の比例を保たざるべからざるものとす。

前世紀に於ける佛國重農主義と呼べる、經濟學者は他の職業が活用する材料を供給する土地の勞働のみを以て眞の生産的勞働と認めんと欲したり此學說には誇大の嫌なきにあらざれども一面の眞理を有する種子を包含せり。

土地の勞働換言すれば地上及地下の開拓は實に生産階梯の第一義を爲すものにして總ての他の職業に對し原料を供給するものなれば或程度迄其後に表はるべき總ての仕事が採る範圍を決定するものなり又工場内に於ける紡績業者の仕事は機械織工染色業者羅紗壓搾水車持主及仕上工が爲す勞務の範圍を限定するものなることを記憶せざるべからず。

又農業生産に基礎を置く各種産業の發達は人類の趣味と娛樂とを増進せしむることを得べし然ども農業自身が生産を増加するに非れば各種産業の進歩は人類の條件を變更する能はざるなりされば農業を他の技術の上位に置くことに一致したる古人の意見にはある根據なきにあらずアメリカ、オセアニア、アフリカの新しき國々が舊國に對し多くの食糧品と原料品を供給する能はざりし社會に於ては以上の事實を認め得べし。

如上の考察による實際的結果を見るに誤れる教育制度取引所の誘惑により田園生活者の多數を商業或は自由職業官公吏に引付けるが如き人民は其永久の利益に反して行動する者と言はざるべからず人類各種職業間に存在する衡平を破壊し其結果多大の損害を齎す間接生産勞働者の數を増加し之が損害を直接生産勞働者に歸せしめ國民の永久的勢力に對し害を與ふる者なり。

第四章 資本

資本の性質——貯藏及器具——資本の發生及發達——資本維持の二根源——節約及發明——近代の節約と古代の節約との差異——常に資本を形成し増加する社會の一般的性質——

資本形成の種類、固定資本と流動資本——資本形成の利用——

資本の性質——資本は自然及勞力と共に人類生産の大要素の一なり。

資本なくんば人類は其生存を維持する唯一の方法として狩獵及漁業に従事するに止まりしなるべし以上二種の原始的職業は吾人人類が直に消費することを得べき直接生産物を給與する唯一のものなりしと雖其生産は不確定不公平にして局限せられたるものなりしなり。

狩獵及漁業より離れ規則的にして豊富なる資源を創設するが爲めには人類は貯藏を爲し器具を創造せざるべからず貯藏と器具との二種類は資本の原始的形式なり。

資本は如何にして組織せられ發達するものなるか資本は直に消費せらるべき運命を有するものに對してのみならず將來の生産を容易ならしむるものに對しても先見と發明心及勞力を適用することに依りて得らるべきものなり。

文明の各時代は其時代の器具の性質に依り文明の特性を表はせることを注意すべし斯くして人類は粗雑に細工せられたる石器以外の器具を有せずして全く野蠻の状態に在りし時代と砥磨せられたる石器を有する時代とを區別することを得次には最も有用にして廣く散布せらるる金屬が人間の力と輕敏を助くるに至れりこれを鐵器時代と云ふ終に最も複雑なる器具とも云ふべ

き機械を使用する時代來る始めは人力により動かさるるものなりしが後には動物の力により、風力水力により次には蒸氣瓦斯電氣により動かさるる完全なる機械を使用するに至れり。

これ等の器具は發明及び先見の結合に依るにあらざれば製作すること能はざりしなりそは無氣力の人間性現在の慾望に對し單純に満足する人間性を根絶し將來の計に供へ單に目前の慾望に止まらず遠き將來の慾望に對する満足を助くる見解の下に努力する爲めには人間精神及意思の努力を必要とするものなればなり。

資本の發生及發達——今試に漁業に従事する人種に於ても資本の萌芽ありしことを考察すべしこれ等野蠻人の内に在りても他の野蠻人よりは遙かに大なる觀察力を有する者は水上に樹幹を浮ぶる時は自己の身體を水中に沈めずして樹幹に依り身體を支持することの可能なるを悟り樹木を伐採し來りそれに坐して操縦し得るが如き工風を凝らすべし此仕事を爲すには相當の時間を要するものなればこれに従事する間は生活し得る糧食を貯へざるべからざるなり又其仕事を完了するが爲めには糧食を節約し自己の食慾を制限せざるべからず仕事を完了せば其小舟の所有主となり海上に浮ぶることを得るを以て漁業を容易に爲すことを得る器具の所持者となる此器具は資本なり又小舟を製作する時間中自己の身心を献ぐることを得せしめたる糧食も資本なりと云ふへし。

此資本家は其器具を處分することを得又従前よりは容易に少量の勞苦を以て漁業し多くの魚

を捕へ之が對價を得て其餘分を同種族中の他の者に讓渡することを得べし。

善良なる模範は害惡と等しく大なる傳播性を有す同一種族に屬する者の内憐惻にして活動的なる野蠻人は之に學びて又小舟を製作するに至る然れども之が爲には怠惰なる能はず小舟を製作するに要する勞力の爲め或る一定の期間中身心を献げ得る糧食を集合せざる可らず或る時期の終には其種族は二種類に區分せられ憐惻にして先見の明あり小舟を製作するに付き充分の意思力を有せし者は小舟の所有者となり他の者は前に述べし如き天資を有せざるが故小舟を所有すること能はず従て後者に比し漁獵豊富ならず富まざるは當然なりとす。

小舟の製作に依り漁業容易となりたる爲め他の器具も從て完成せらるるに至る綱舵帆の如き恐らくは其後に完成せられしものならん總ての場合に於て種族中の或者は器具の恩澤に依り現在閑暇を得て所定の仕事に要する時間の一部分を他の慾望に備ふる爲め振り向くことを得例へば風雨を避くる爲め小屋を作るが如し斯くして漸次其種族中より思慮分別ある者善良なる特質を有する者出で來り多くの生産手段を講じ幸福を齎すに至り新しき資本は獨り實際上の享樂を得る手段たるに止まらず仕事の生産を増加し此仕事の一部分は新しき資本の創造に用ひられ新しき器具新しき貯藏は進歩の手段となるものなり。

同様の進化は狩獵者の種族中にも之を認むることを得べし狩獵種族を形成する者の内に在りても或者は日々獸獵に従事すれども直に消費する目的を以て獸類を無慈悲に屠殺することなく

してこれを捕獲し其保存に注意を拂ひて馴養し其繁殖に努むる者ありとせば安全なる生活方法を爲し得んことに想到すべし然れども此結果を期するが爲には苦痛を忍ばざるべからず家畜を組成する迄には自己日々の消費を節減せざるべからざるなり。

人類歴史の最後の段階たる農業は人類に最も有用なる植物を土地より生産せしむる爲め勞力を秩序的に使用せしむるものにして同じく聰明、貯藏、保存及器具の製造によりこれを爲すことを得べし其器具は始め原始的のものなりしが漸次完成せられ鋤鶴嘴犂より現在の機械に至りしなり。

資本形成の條件——貯蓄及器具は資本の重要な二種類なり此二種類は一方に於て禁慾又は節約を他方に於て勞力を必要とす總ての資本は勞力と節約の子なり

資本の組織には常に精英なる人士ありて將來の利益は實際不確實なるものなれども外見上莫大なるべきを思ひ現在の利益に優るとして之を擇ぶ者あるを提とす即ち後日の享樂又は消費の爲め現實の享樂又は消費を犠牲にすることにあり資本の發生は一時の缺乏を忍ぶとするも之が代償として成果の増加を得永久的改良の趣味を有する將來の思想と考慮とに由つ。

先見は一日の効果に依り成りしものにあらず且つ習慣は人類が有する性質を第二の天性と爲すものなるを以て資本を創設して其價值と幸福とを認むるものは言はば資本化することを止むることなく此趣味を子孫に或は仲間傳ふ斯くして資本貯蓄及仕事を完成する器具は傳へられ

絶えず時代より時代に互り増加するものとす資本が無限に増加するは文明國の特質なり。

吾人が社會事實の紛糾を解決するを得とせば今日社會に存する總ての種類の機械及び貯藏の豊富なる資本は一として石器時代に其源を遡らざるものなきを了解し得るならん粗雑に細工せられたる燧石鐵最初の狩獵者が用ひたる矢最初の人々が土地に蒔種する時に用ひたる鶴嘴又は木製の犁等は何等説明を要せずして漸次完成せられ吾人が賞讃する便利にして複雑なる機械に變形せられたるものにして機械槌蒸氣機關車汽船刈取機械又は蒸氣裝置の打禾機となりしなり學者資本を定義して仕事の蓄積なりと云ふ者あり其用語必ずしも不當にはあらざれども不完全なるの譏を免れざるなりこれに對しては二語を加へざるべからず即ち資本とは將來の生産の爲に蓄積せられたる仕事なりと。

資本の生産力——聰明なる人にして資本が生産的なることを否認する者あり生産を爲す爲めには人類の腕力即ち勞力を必要とすることは明なれども何人と雖犁が生産的なることを否定すること能はざるべし犁を用意せる人は之を有せざる人に比し八倍乃至十倍の仕事を爲すことを得ればなり一輪腕車小舟、裁縫機械其他の器具に付て見るも又同じ自然は先づ動物に付き雌雄兩性の區別を爲したるを始めとし孤立しては生産的なる能はざるものに富めり資本に付ても亦同様にして人類を利する價值を生ずるが爲めには資本は實際の勞力に結合せられざるべからざるなり然れども勞力が生産を大に増加するものなりとするも生産は勞力機械及蓄藏の力に依り

生産せらるるものなれば單に勞力のみが生産を爲すものと爲し人類の生産につき與りて力ある資本あるを否定するとせば勞力の自負大に過ぐるものと云はざるべからず。

資本は過去現在及將來の連帶を表現し其根源を遠く過去に延長し其枝葉を將來に無限に繁茂す。

近世社會に於ける資本形成の方法——原始社會に在りて資本が如何に形成せらるゝかは已に之を明にせり進歩せる社會に付て見るも資本形成の理は敢て異なる處なし唯始め現象の複雑なるが爲め其得失單純ならざるのみ。

近世社會に於ては分業の恩澤に依り單純なる節約も之が投資を爲すに於ては資本に等しきものとす。

吾人は二様に節約することを得貯藏換言すれば金銀貨を土中に埋匿し社會より消失せしむるか又は仕事に必要な器具或は家屋等の如き産業的材料として永久的利用を爲し得る固定的富を作り其資源を社會國家に貸與し之が生産作業に使用せしむることを得べし。

されば現今の社會に在りては所得の一部分たるものにして消費せられざる部分を投資するに依り資本化することを得べし然れどもこは往々困難なる事業にして物質的活動を要せずとするも少なくとも思慮分別を要するものとす理智を以て爲されたる節約も亦資本を構成す。

吾人が或る物を用ひずして済まし得るか又は済まさざるべかざることを知るに於ては之が節

約を爲し自ら期せずして人類の新しき進歩を容易ならしむる蓄藏及仕事に用ひらるゝ器具を創造するに至るべし斯くして立派なる化粧品を求めず美食を食らす其他の消耗品を購求せずして之が節約を爲し鐵道債券不動産銀行債券礦業會社株券國家の終身年金證書を買求むるに至るべし換言すれば自己を會社又は國家の地位に置き土木事業を興し家屋を建設し運河を開鑿し下水道を開通し種々の改良事業を爲し永久的に有益なる事業に従事するに至るべしこれ即ち資本を組織するものなり。

節約者が其投資につき違算を生ずる時は節約者に對しても亦會社に對しても共に其資本は消費せらるゝものなれば此時には資本は恰も死産兒の如きものとなるなり。

節約は有益なる指揮と賦與せられたる聰明とに依り人類の勞力に表現せらる。

大なる節約を爲す社會に於ては假令普通の商品を生産すること少なしとするも多量の鐵と石炭とを生産することあるべく贅澤品を製造すること少なしとするも將來の生産に奉仕する多くの機械を生産することあるべし。

然るに時の經過するに従ひ資本は著しく人類の生産力を増加するものなるを以て多くの資本を有する國家は絶えず資本化し資本を有せざる國に比し餘裕ある生活を爲し得るに至る如斯は私生活につき見るも亦同じ假りに毎年一萬法の所得ある二人を取りて見るに一方は其所得を全く消費し他は半額を節約するとせば後者は前者に比し其餘裕少なき生活を爲す然れども二十年

後の結果につきて見る時は節約を爲さざりし者は其所得同一なるに拘はらず節約者は其財産及所得を二倍するに至る此地位に達したる時は節約を中止することなきも後者は前者と同様の餘裕ある生活を爲し得べく或は前者よりも更に大なる餘裕ある生活を爲すことを得べきなり

第五章 資本の種類——固定資本と流動資本

固定資本と流動資本——資本は其始め貯藏及器具の二種類の形式に表はるゝことを明にしたり文化の進むに従ひ資本の二分類は多くの細別により代はらるゝに至れり。

蓄藏と器具との二語は通常學者により流動資本及び固定資本なる語を以て表さる。

流動資本は又一に代替資本と名付けられ生産に一度使用し得るに止まる種々の蓄藏特に原料は此部類に屬す流動資本使用せられ一度生産を完了する時は流動資本は何等残存する處なく全く生産物中に匿れ生産物に變形せらるるものなりされば羊毛、油、機關に熱を與ふる爲め用ひらるゝ石炭等は總て生産の結果たる羅紗の一疋中に消失せらるゝものとす。

流動資本の價值は全く各生産物の増價に依り恢復せらるゝものとす即ち羅紗一疋の價值はこれに使用せられたる總ての羊毛油使用せられたる石炭其他職工の給料資本及企業主に對する報償を含むものとす。

一般的に流動資本は總て蓄藏なるがこれが増價する時は固定資本を生ず固定資本は生産に於て變形し消失することなくして永久的效用を爲すものなり固定資本は普通器具にして工場用具農業上の開拓器具家屋工場建物人類をして動作するをせしむる爲め風雨を凌ぐに足る特種の用具運河鐵道の如き大工作物又は人類の手に成る永久的施設は此の部類に屬す。

固定資本は生産物に變形せられ又固定資本を良好の状態に維持するに必要な費用及び相當の注意を拂ひしに拘はらず固定資本が其用を爲さざるに至りし場合にそれを取代ゆる爲め必要な費用は工場又は農業より年々得らるゝ生産物の價格より控除すべきものとす取代への爲め生産より得たる利益に付き年々一定の金額を控除し置くことは人類の事業に對し總て必要な處にして之を償却と名く。

近世社會に於ける資本の形成——文明人により其用を爲す爲め事物に與へられたる改良程多種多様なものは又他になかるべし最も進歩せる社會に於ては資本は多様の形式に表はるる資本の主なる種類を擧ぐれば左の如し。

- 一、土地の永久的改良、圍壁、干燥、灌漑、植樹、永久的耕作、永久的施肥。
- 二、各種の建造物。
- 三、各種の器具機械。
- 四、勞働用動物。

五、製造用原料、棉花、羊毛、工場に消費せらるる石炭。
六、現在の仕事より生産が完成せらるる迄生産に従事する人々の生命を維持するに要する食糧品。

七、貨幣。

八、才能及無形財産。

以上の用語は制限的にあらずこれを制限的ならしむることは殆んど不可能なり。

最後に述べし處に付きては説明するの要あるべし貨幣が明に資本なりや否やにつきて疑を抱ける者あり又貨幣は優秀なる資本なりと信する者あり。

貨幣につきては後に論述する處あるべし金銀は富なれども富の全部にあらず又主たる富にあらざることを會得すべしされば最も富める人民は最も多くの黄金を所有する者と云ふべからず今日英國は世界に於て最も富める國なれども他の何れの文明國に比するも貴金屬を有すること少なし而して北米合衆國は英國に次で富裕なりと雖も金屬貨幣を有すること比較的多からざるなり。

貨幣即ち金銀が資本なることは明なり貨幣は一の用具にして交換の媒介物なればそれ自身にては何等用を爲さず單に獲得の手段たるに止まるものなり貨幣は往々交通の要路に例へらる吾人は生産物の移轉を助くる爲め之を創造したるなり加之貨幣は交換を容易にし時間を節約し計

算移動を節約し依て生産に協力するものなり。

以上總ての條件は貨幣をして絶對的に資本たる資格を有せしむるものなり然れどもそは一國資本の一小部分に過ぎず交通交換の用を爲す資本としては生産の必要に應じ其量過多なるべからず人民は貨車を節約せざるべからざると等しく貨幣の節約をも爲さざるべからざるなり。

無形資本、才能、教育——無形資本なるものが存在するや否やにつきては議論の存する處なり此問題に關しては確定的にこれが解決を爲さざるべからず。

人類の有する才能は資本なりと云へるは正當なり實に教育又は修業と有形資本の形成との間には著しき類似の點あるものとす其類似點を擧ぐること次の如し。(一)先見に對する同一の思想、遠き將來の結果を思ひて努力すること。(二)將來の爲め現在を犠牲に供すること例へば將來更に大なる利益を得る機會あるが爲め普通の利益を得る可能性を放棄すること。(三)修業又は教育期間中は以前に爲したる貯蓄に依り生活を爲さざるべからざること。(四)目的の同一仕事を生産力を容易にし増加すること。(五)總ての努力が消失せられざるが爲め仕事の生産力の超過額が總ての努力及び費用を償はしむること又修業或は教育期間の満了後に於て教育又は修業期間中要したる立換金を償却せざるべからざること。

されば資本と教育又は修業との間には絶對的類似あり動機の同一手段の同一結果の同一が存在するなり。

無形資本の存在を否定するは不當なるが如し無形資本は國家に存すると等しく個人にも存在す遺傳又は教育の結果傳へられたるものにして國家に屬すると認めらるる性質は國際關係に於ても個人間の關係に於けると同様な利益を齎すものなり聲價ある生産物に貼付せられたる商標、國家の既得せる顧客、趣味と優雅とを有するものと認定せられたる名聲、産業上の熟達堪能商業上の正直等は他國と交易を爲すに當り價格を有するものなれば實に資本を組織するものなりと云はざるべからず。

美術品は資本なり——繪畫美術品が資本なりやを疑ふ者あり單純なる物質的見解によれば其性質に付異論を唱ふることを得れども一步進んでこれを考ふる時は資本の性質を有するものとせざるべからず美術品は其永久性によつてこれに對し相當の注意を拂ふ時は一般に人類の事業よりは永き期間永續せらるるものにして其特別の性質に基きこれが使用を爲すも毀損せられ又は破壊せらるることなきを以て最も不朽永久的の富の部類に屬するものにして學者之を享樂財と呼ぶなり。

例外的に大なる價值を有するこれ等の美術品は永續的に數百年間役立つ教育的効果を有するものとす美術品は趣味を造り精神を向上せしむるに止まらず國民に對し技術的産業的才能を開發す以上の觀察によれば美術品は總て他の資本に近似せる作用を有す、ルーバーン、マドリツド、ロンドン、パチカン等の博物館は其附近に對し美術思想美術趣味を普及し亞米利加又はオ

ーストラリヤ大陸の新進諸國が以上の諸國と同一程度に達するが爲めには非常なる努力を以てするも難しとする所なるなり。

其地に美術上の秀逸品なかりせばローマのみならずドレスデン、アムステルダム、ハイイミュニツヒに遊ぶ人は極めて少なかるべし果して然らばこれ等の美術品は其都市及其國に對しては間接的所得を生ずる資本なりと云ふべしイタリアに於ては凡庸の天資を有する多くの美術家は古代又はルネッサンス時代の美術品を複製し或は解説して生活を營めるものあるを見る美術的天才を有するアメリカの青年及オーストラリヤの青年とイタリアの青年との地位を比較する時は徑庭の如何に大なるべき前者に對する手段時間の損失教育に要する費用は後者に於ては全く免除せらるる譯なり古き國家が新しき國家に對し美術上優勝なる地位に在る富は永久に残存するならん美術品が貴重なる人類資本の一なることに付き疑を抱く者は其思想幼稚なりと云はざるべからず。

事物を嚴密に吟味する時は文化とは物質的・智能的・道德的・不斷の資本化が良好に行はるる現象なることを看取するを得べし。

第六章 資本に及ぼす原因

資本の豊富と其職能とより見たる社會の三時期——資本の蓄積を増進し又は制限する原因
安寧、教育、家族制度、相續制度、人工的組合法制の影響——個人に代り國家に節約の義
務を負担せしめ得るや。

資本より見たる社會の連續的三態様——生産の三要素たる自然勞力及び資本は總ての國及時
に於て同一の比例に存在するものにあらず實に人類は地球上到る處に同時に發達したるもの
にあらず又總ての民族は資本を創設するにつき同一の機能を發揮したるものにあらず即ち同一の
貯藏と用具とを有したるものにあざりしなり。

自然が富を生産するに當り人力にのみ待つ新しき國に於ては資本なきを通常とすこれ等の新
しき國は資本を注入するにより活氣を帶ぶ新進國に於ては普通の蓄藏機械原料をこれに移送す
る時は自然は總て喜色を以て満たさる。

資本缺乏するときは新しき國、即ちブラタ、ニーニュジランド、オウストラツヤ大陸に急ぎし
移民は徒食するか或は餓死せざるべからざりしなり移民に對しては食糧小屋收穫を得る爲の種
子田畑を耕する犁馱獸等を供せざるべからず若し古き住民に依り用意せられ或は舊國の資本家
により輸送せられ蓄積せられたる資源なき時は新たな小作人は痛切に困窮し爲す處を知らず
其筋力を有益に使用して自ら生活すること能はざるべく再び野蠻人に歸るべしこれ先見の明に
缺くる冒險家が無人の遠國に送るべき移民を期待すると其軌を一にするものなり無人の境に在

りても自然は自由に存在せりと雖其處に忍耐と人類の努力を助くる資本を缺く時は結局自然の
恩恵のみに依頼せらるべからざることとなるオセアニヤに於けるポルトグレットの如きは最近
殖民の悲惨事を語るものなり。

新興國に在りては人類の現實享樂せる文化を失墜せしめざらんが爲めこれに資本を伴はしめ
ざるべからざるのみならず移民が到着するよりも先に資本を送らざるべからざるものとす否ら
ざれば新たに到着したる移民は恰も原始社會を遍歴し原始人が非常なる窮乏に對し自己を維持
せざるべからざりしと同一の艱難を嘗めざるべからず而して此困難たるや近代文明國の最も貧
困なる人と雖も其苦痛と窮乏に對抗することは殆んど難事たるなり古き世界に於て除々に組織
せられたる國家即ち本國政府により造られ實際的殖民地として人爲的に維持せられたるものを
除きては三種の時期を經過す。

生産は特に自然の影響を受、自然は生産を支配する要素なればなり勞力は生産に加工すと雖
も單に之を補助するに止まり勞力の機能を意識し其適用を變化し得る秩序的活動にはあざり
しなり。

資本の存在したるは明なるも其の資本たるや基本的のものにして除々に増加せらるるに過ぎ
ず此時代は漁獵民族に於て見るのみならず牧人農業時代の始めに於ても之を見る自然は人類に
支配せられず又人類により訓練せらるることなし人類を支配し指導したるものは自然なりしな

り先取又は蓄藏なかりしを以て人類及び民族は其日暮しと云ふべからざるも其年暮の生活を營み辛ふして收穫を得たりしなり天災旱魃飢饉が民族を悲惨裡に陥れ多數の住民を滅亡したるは以上の事實を證明するものとす今日に於ても尙アルニメヤ中央アジア印度亞弗利加の土民を荒廢せしむる週期的饑饉は人類が密接に自然により支配せらるることを明にするものなりと云ふべし遠き昔に於ても見るが如く蓄藏及器具の二種類の資本のみが常に分業を生せしめ以て生産を一層規則的ならしめたるなり此種の資本は人類社會をして自然を制御し或は少なくとも自然を指導するに至らしむる行程に一躍せしむるものとす。

○人類社會の第二期は資本の一定額が已に蓄積せられたる時代なり然れども人類の勞力は第一期に比し遙に巧妙となり其種類も多く生産の重要な要素を組織するに至る小規模の産業小親方職業組合制限市場即ち唯一の販路としての地方的の位置を供ふる中世時代は此の第二期の完成せられたる典型なり廣汎なる生産的結合急速にして根本的なる進歩生産方法及手續を頻繁に變更するが如きこと等は其當時には未だ知られざりしなり社會に進化作用ありて社會を完成し發達せしめ進歩せしむるは明なれども其進化たるや洵に除々にして殆んど吾人の目に觸るること能はず一見すれば社會は不動にして凝結せるものの如し。

○次に來るは第三期なり第三期に在りては資本即ち各種の蓄藏器具及機械は甚だ豊富となり聰明なる人類の絶へざる節約に依り資本は大なる速度を以て増加し相踵で生ずる發明と發見とに

依り資本の形式は種々となる斯くして資本は集中せらるるに至り目の當り勞力を支配し之が主惱者となりて世界を活躍せしむ此時代は歐洲に於て十六世紀の末葉遠國との通商及び大航海を爲したるに始まる然れども其發達たや緩慢なりしが十九世紀に至り其特質を發揮せり親方が手工勞働者たると同時に斷片的生産の指揮者たりし小産業は全く其跡を絶つに至らざりしは明なれどもそが占有したりし幾多の領域を失ひ大産業に讓歩するに至りぬ。

これ吾人が今日見る世界の時代なり。

資本の蓄積を増進し又は制限する原因——近世社會にありては資本は生産を支配する著しき職能を有するものにして人類に對し勞力の効程を増加し富を蓄積するに付き重要な奉仕を爲すものなれば現代の民族をして古代の民族より大なる資本化を爲すことを得せしむる資本の蓄積を支配する諸原因に付き一瞥すべきは正に然るべき處なり。

今茲に其原因を決定し得る主要なる規距を述べし。

(一) 資本は現在の生産又は消費より將來を慮りて先取を爲すものなれば資本が豊富となり人類の生存に絶對的必要なるものが増加すればする程資本の組成が容易となるは明白の理なり。

安逸にして富裕なる人は貧困にして不如意なる人に比し多くの資本化を爲すことを得例へば佛人は伊國人よりも十六世紀後半の佛人は十六世紀前半の佛人に比し多くを資本化する

ことを得べく資本化の可能なることは資本が新たに組成せらるるに従ひ益々増加するものとす。

然れども資本の豊富は往々にして人心を麻痺せしめ聰明を失はしめ浪費に陥らしむることあり此憂慮すべき傾向を阻止するものは教育及風習なり。

(二) 資本の組織は將來の利益を求むる爲め現在の利益を犠牲に供するものなればこれが決定を爲すには將來に對し非常に厚き信用を拂はざるべからず節約の結果を失はざるが爲めには完全なる保障あることを要す將來の不安は總て資本組成の趣味を減少せしむ時間短ければ急激なる革命も常に此結果を生ずるとは限らず然れども無秩序の状態永きに亘り永久的無政府の場合に於ては資本の組成を破壊することあり野蠻國例へば今日回々教徒の國に於ては聰明なる人は多くの蓄財を爲す即ち貨幣又は寶石を以て他日急迫の場合に用ゆる爲め之を埋藏す然れどもこれが資本化を爲すにあらず換言すれば其資源をば新たなる價値を創造し或は産業を組織するが爲め使用するものにあらざるなり其富を世間に誇示する時は他の注目を引き畢竟間接又は直接に掠奪せらるる恐あればなり。

節約及び資本は安全と富力其所有者に對して有効に保證せられ一般に所有權が確保せらるること大なるに従ひ益々發達するものとす。

(三) 今後益々廣く節約を増大すればこれに従ひ資本は増加するに至るべく斯くして鞏固な

る家族制度と相續財産の尊重とは資本組成に對し有益なる條件を爲すものなり。

家族及相續の二制度は社會全般に對し有用なるものにして父母なく相續すべき何等の財産をも有せざるものに對しても極めて有用なり此二制度は極めて強大なる生産力を有するものにして聰明なる精神を發達せしむるに與りて力あるものにして壯年時代のみならず老年時代に於てすら犠牲的精神を振起せしむるものとす一般に獨身者は自己の生活以外に何等の憂を有せざるものなれば家父に比する時は節約を爲すこと極めて少なし。

されば家族及相續制度は資本の組成即ち社會産業進歩の大原因なりとして考ふことを得べし。

(四) 善良に指導せられたる教育は人類をして將來に對する自覺を起さしめ聰明ならしむるものなるを以て節約に對する趣味を増加せしむ 高等道德も亦同一の結果を生ず例へば節約と飲酒癖とは二の永炭相容れざるものにして他方の失ふ處を一方が獲得するなり。

(五) 或種の人工的構成即ち各種の制度は節約を容易ならしむ貯蓄銀行郵便貯金管理局學童貯金管理局退職金管理局協同組合と名けらるるものゝ如きは普通將來の計に對する組合又は博愛的組合にして此目的に協力するものなりとす無名會社の株券社債券の如き各種の動産投資三法乃至四法の利金を付する債券の如き都市又は大會社の發行する富籤券の如き各種の動産投資は一方に於て稀有の射倖的富籤を得る機會を與へ他方に於て零細なる利益を

完全に保證するものにして以上の産業及び信用の組織は節約の機會を増加するものとす往時に於ては人類は如何にして其貯蓄を投資すべきかを知らざるものなりしが今日に於ては吾人は眼前到る處之が勧誘を見るものなり然れ其他人の節約に對し巧妙なる手段を以て之を掠奪せんとする計畫を隱匿するに熱中せるものに對しては疑惑の眼を以て之を警戒せざるべからず。

(六) 法制は節約の念を阻止せしむるに至ることあり法制は二の方法により節約を阻止することを得資本及所得に對する不相當なる課税にして其種類を増加し專斷的に爲さるるものなりこれ富裕なる階級に對して嫉妬心と憎惡心を有するものにより高唱せらるる所にして間接又は時の経過するに従ひ節約を制限する結果を生ず以上の方法は實際資本の所得及富裕階級の享樂する安全を減少せしむるに等しきものとす相續財産に賦課する租税高率に過ぎ資本の所得に超過するが如き場合には特に有害なる結果あるものとす。

節約を阻止する第二の法制は資本的精神を擁塞するものなり節約は將來の利益の爲め現在の利益を犠牲に供するものなれば社會の各階級を通じ各人に對し財貨を享樂せしむるものは單り節約あることを完全に保證せざるべからざるなり。斯くして聰明ならざる人を國家又は自治團體に負擔せしむる目的を有する法制は聰明なる人をも破滅せしむるに至るものとす。

貧民に對し絶對救濟權を認むるも快適ならざる生活を爲さしめ設備貧弱にして周到の注意を缺ける慈善的の手近なる公共的救助は人類より節約即ち資本の組成を減少しこれを閉塞する作用を爲すものなり殊に誘惑的な計畫は此憂ふべき結果を生ずること多し勞働することなく自己の義務を盡さずして而も一般勞働者に比し其暮向良好にして尊嚴すべき老人と同一の待遇を受けんことを申出づる者あるに至るべし若し或人に對し今日犠牲と努力とに依り期待せざるべからざる成果を無償にて與ふべきことを約束するとせば其人は最早努力と犠牲とを拂はざるに至るべし。

國家の無謀なる寛大は節約の主たる動機を消失せしめ其資源を涸渴せしめ社會進歩の重要手段たる資本の組成を阻止するものとす。

これ資本の組成に付き國家が個人に代り得るや否やを知るべき問題に導くものとす資本を組成し得る國家あるべし然れども國家は其採れる制度如何なるものなりとするも經濟的見地より觀察する時は國家は不用意なる出費を爲す傾向あるものとす國家は負債を爲さずして單に租税の資源に依り道路を造り學校を建て土木を起し依て資本を組成することあり然れども國家が資本を組成し國民の富を増進せしむる爲めには以上の如き平和的事業を爲すに當り負債を起すことなく大なる識見を以て公權を運用せざるべからず然るに以上の二條件は國家生活に於てはこれを期すること難し。

又國家が資本組成の傾向を有すること少なきは一般的原因あるによる國家は人民の衝動に従ひて行動するものなり若し然らずとせば節約の趣味を有する個人は滿場一致は愚か過半数に依るも國家を組織することなかるべし天稟あり聰明にして秩序立ちたる資質は趣味と感情とを支配することを得以上述べたる資質より節約の趣味と節約の實行に必要な意思力を生ずる國家は多數人の刺戟に依り指導せられ又獵官者及巨費を要する事業の執行者に依りて攻圍せらるゝものなれば恰も國民中の聰明なる節約者階級が爲すが如く國家が課税に依り得たる歳入の一部分を節約することは困難なることに屬す。

國家に對し浪費せざることを要求することを得とするも之を國家に求むるは難事にして國家が忍耐心により大なる節約を爲すべきことは期すべからざるなりこれ先見と努力に依り社會の資本を増進することを求むるは個人に對して爲されざるべからざる所以なりとす。

第七章 資本の管理と企業者の職能

資本と勞力との協力——小生産者又は自治生産者——企業者の管理を資本に歸屬せしむる原因——工業企業者に必要なる智能的精神的條件

資本と勞力との協力——小生産者又は自治生産者——生産の三要素たる自然資本及び勞力の

三者は總て整理せられ結合せられ一致して活動せざるべからず先づ自然は從屬的要素即ち支配せられ又は服従せらるべき受動的要素なり自然は人類に對し神秘的作用により又往々人類の事業を困難ならしめ破壊せしむる變化を以て人類に對する服従の報復を爲すことあり洪水、地震、自然力の豫見すべからざる激動は勞力及び資本に對し自然が爲す反逆の特性を表すものとす然れども文化の進歩と勢力とは自然に對する人類領域の増大を表はすものなりされば自然は生産に對し必要缺くべからざる要素なりと雖も支配せられたる從屬物なり然れども完全に支配せらるるものなりとは云ふべからざるなり。

資本と勞力とは相互に對峙するものにして如何にして協力するものなるか又何れか他を支配するものなるか此問題を生ずることなき生産者の原始的典型と見るべきものありこれ吾人の孤立生産者又は自治生産者と呼ぶものにして小所有者、小裁縫工、小靴工、水汲人、自己の計算に依り妻又は未成年者の子の力を借る外他人の力を借らずして勞動する職人の如き者なりこれ資本家たると同時に筋肉労働者たる條件を有する者にして自己の器具と蓄財とを所有し眞に小なる資本家なりと云ふべきも資本家と労働者が同一人に合一せるものなれば二者互に諒解し何等爭議を見ることなきなり。

此典型的生産者は事物自然の性質に適するものなりと考ふる人あり平易にして通俗的なる思想に適應するものなればなり。

然れどもこは誤れり孤立又は自治生産者なる者は不可能なり第一労働の多くは孤立せる個人又は家族の力のみを以てなす能はざる處にして多くの労働は特に資本を必要とす否らざれば資本は總ての人により等しく生産せられざるべし資本の組成を助長する道徳的性質及資本の組成を可能ならしむる肉體的智能的性質は各人に對し同一の配當分を爲すものに非ず又各人に對し同一程度に在るものにあらざればなり。

斯くして或人々は資本を生産せず又これに對し何等の注意を拂はざるを以て最小限度の資本すら有せざる者あり通常の資本を有する者あり又大なる資本を擁する者あり且つ他方に於ては非常に巨額の資本を必要とする事業あり其結果總ての労働者が各自生産の三要素を所有しこれを支配する孤立又は自治生産者たることは不可能なり。

企業管理を資本に歸屬せしむる原因——資本と勢力とが有利に結合して作用し運轉せらるる爲めには生産事業に於て二要素の一が他に從屬する組織を取らざるべからず。

企業管理が資本又は資本を代表する者に歸屬するは正當なる理由を有するものと云はざる可らず。

現在の状態は如何なるものなりとするも工場を經營し生産を爲す者は其經歷により又は自己が處理し得る資源を有するにより或は冒し來れる危険により企業者たる資格を獲得し得たるものなり。

社會組織に於て工業商業農業の主腦となるものを企業主と名く企業主の何たるか及び企業主が單純なる労働者と異なるは明なり。

企業主の職能は種々の作用を包含す第一に企業主は特殊の生産を掌り生産要素を結合するに付き創意を有する人ならざる可らず石炭礦を經營し溶解爐を設備する國に在りては自然の經濟的條件は此種の産業に適應するものなれば石炭及び廉價なる鐵を生産し懸て其販路を確實にすることを得るものなり企業主は生産價格と賣價との配合を爲さざる可らず又永久に忍耐強き精神労働に従事しこれ等の計畫の組立を爲し計畫が正確なりやを審査せざる可らず且つ事業の遂行中と生産期間は智能的労働に身を献げざるべからざるなり生産に於ける企業主と労働者との關係は恰も身體に於ける頭腦と四肢との關係に於けるが如し。

次に企業主は生産の各要素を結合せざるべからず即ち資本と手間これなり資本とは蓄藏器具各種の原料建造物機械燃料等總て商品の製造に必要なものなり商品は未だ完成せられ販賣せられざる迄は毫も獲得する處なきを以て生産期間中労働者の生活に必要な總額を要す企業主が資本家なることは必ずしも絶對的要件ならず企業主が資本を有せざる場合には單に資本の管理に對する經驗と周到とに依らざるべからざるものなれば企業主が同時に資本家たることを可とすれども嚴格に云ふ時は左迄重要な條件にあらざるなり企業主は資本家より信用を得依て資本の前借を爲すことを得ればなり企業主は各種類の手間を得ざる可らず單に其筋力を供給す

る者のみに止まらず職業を知得し收得せる者才能ありて忠實なる職工長監督者より各自其事務に適應せる能力を有する會計係使用人等に至る迄これを必要とするものなり。

以上三要素中其一を缺き或は其適合宜しきを得ざる時は企業は總て危険に陥る企業にして其基礎強固なるに至らば企業が弛緩し瓦解するを防ぐ爲め不斷の注意を必要とす。

企業主は年度末に於て回収せる入費に對する終局的超過額即ち賣價が原價に對する關係に依り生産の要素が果して良好に使用せられ結合せられたりやを明にし浪費又は損失なかりしやを併せて注意せざる可らず企業主の精神は生産の要素及結果を反影する鏡の如きものなり企業に對し全責任を負ふ者も亦企業主なり企業主は賣價の原價に超過せる部分を利得し原價の賣價に超過せる結果の不足額は單り之が負擔を爲さざるべからざるものなり企業主の役目を單に監視人獄吏寄生動物の外に出でざるものとして描寫したる獨逸一派の社會主義者の繪畫は實に眞理を距る事遠きものなりとす。

企業主は單に資本又は信用に依り得たる處を生産の爲め出資するに止まらず智能的労働組織及結合の才幹巧に購買し巧に賣却する商業的手腕を有せざるべからず又他の要素即ち名譽を活動せしめざるべからず生産蹉跌し最終の結果が損失に終れば企業主は破滅す履行を爲し能はざる契約を締結する時は破産するに至るこれ實に不名譽なり法制は企業主に對し其管理能力に付き嚴格なる報償を爲す道德的責任を負はしむるものなり。

文化進み市場擴大せられ發明増加するに従ひ企業主の事業も亦著しく増進す労働者の地位と企業主の地位とを比較するに毫も類似する處なし労働者は企業の結果に對し著しき影響を及ぼす商業的方面に付き干與せざるなり又労働者は生産に影響を及ぼすべき弾力性を有する市況屢々其必要ある仕事の生産方法又は結合の變化につきては何等豫知せざるものとす。

企業主の職能は筋肉労働者が必要とする資格と異なるものを要す善良なる企業主は最も勤勉なる労働者と同様の勤勉を必要とし又經驗學識創意稀有の智能的道德的能力萬難に抵抗する意思力敏速に利益を獲得する決斷心を有せざるべからず。

優秀なる職工工場支配人と雖も企業主とは其地位を異にす支配人にありては人類の需要と趣味の變化により生産物の價格の動搖を卜知し研究するに必要な資格を有し商人の手腕と組織者の才幹を結合するに要する資格の一部を有すれば足る。

以上叙述したる才能は企業の重要に従ひ其程度を異にするも工業商業農業の創設を爲す者に對しては總て必要な處なりとす。

若し何が故に生産行爲は企業主の負擔に屬し労働者に歸せられざるかと問ふ者あれば次の如く答へん組織及管理の業たるや立處に成るものにあらず又無限に分割する能はざるものとすこれ純然たる智能的仕事が有形的肉體的労働に勝る所以なり生産に對する計畫を抱き生産要素を結合し自己の資本あればこれが利用を爲すため其全財産を提供し又は借用せる資本を用ゆるに

當り自己の名聲を提供する者は、自己の有する全財産の一小部分を提供し或は企業に對し肉體的に限定せられたる協力を課すに過ぎざる人に比較する時は生産を支配する資格を有すること大なるは正に當然のことなり。

農商業の如き明に平和事業たる産業と戦時に備ふる軍隊との比較を試むるは煩に過ぐる嫌あれども前者は自由に募集せらるるに對し後者は強制によりて爲さるる差異あるも相互共通の一條件を有す管理統轄は最高重要なるものにして良將と良企業主とは非凡の資質を有せざる可らざるもこれが從屬者の大多數は均しく非凡の資質を有する者とは云ふ能はざるなり周到なる結合的精神は品性の力と等しき特質を有す約十二人の企業主を以てするも其意を強ふするに足る況んや約百人の恰憫なる企業主が仕事完成の方法に注意し絶えず浪費を除去し原料品に對する良好なる蓄藏市場と製作品の販路を探索するに於ては一國の産業能力と富を開發すること廣大なるを得べし。

第八章 分業

勞力の組織——勞働者の協力或は勞力結合——分業又は仕事の分割——領土的分業——
世襲的分業——分業の條件とこれに對する批評——産業組織の改善

勞力の組織——生産の各部門を組織的ならしむる人工的原因是は人類勞働の生産力に影響するものなり其主要なるもの二あり分業と機械これなり。

社會主義者と經濟學者は屢々論争し後者は現社會に於て勞力は組織的なりと主張し前者は勞力の組織的なることに異論を唱へ勞力組織改造の必要を斷言せり。

文化及び發明に富める社會の真相につき見るに勞力は不斷の組織と改造の中において種々の結合と方法に對し自然的に屈伸し個々の單純と全體の複雑とに合一せんとす。

大組織の工業例へばクルーズ工場及附屬工場を嚴密に審査する時は其組織廣大にして仕事の種類多く各種の職工が協力せるに一驚を喫すべし巨大なる生産事業は人心を混亂せしめ混沌を避くる能はざるが如く思はる。

然るに仔細にこれを點檢する時は此巨大なる企業に於ても各職工の仕事は正確にして限界あり豫め一定せられ規則的なるを看取すべし斯して近代産業の二大特質なる複雑と單一とが結合せらるるを認むべく此結合は實に良好なり人類勞力の生産力は勞働者の協力と勞働者の分業により著しく増加せらるる而して相互に異なる二種の現象を生ずる所以なり。

勞力結合——一人の力を以てしては百日間或は千日間を要して爲し能はざる仕事と雖も十人又は二十人が協同して勞働する時は僅に一日又は二日間を以て完成することを得重荷を引上げ木を切り木材又は石材を裁り干草又は麥を集むるが如き場合に當り五人が合同して同時にこれ

を爲すときは五人が孤立してこれを爲すに比し多くの仕事を爲すことを得べし今假りに複雑なる機械存在せず全く原始的の産業を爲す者につきてこれを見るべし大なる浮舟に十人の漕手を乗する時は一定時の仕事に於て十隻の小浮舟に十人の漕手を孤々に乗する場合に比較し其速力大にして多量の貨物を運送することを得べし勞力結合の利益の他の一は一組中の人々は互に交代することを得るものなれば行爲の繼續を維持することを得るにあり大浮舟に乗れる十人の漕手は十時間又は二十時間は中止せざる力を供給することを得其内の一人が休息する間他の者これに代ることを得然れ共長時間勢力を繼續することは十隻の浮舟に各々孤立せる十人の漕手を乗するに依り爲す能はざるなり。

少なくとも集合的の仕事につきては五人十人又は二十人の勞力を結合するにより生ずる結合力は同一人數による孤々の力の單一なる者に比し勝ること極めて大なりこれ通常勞力の協力又は結合の行はるる國家に於て其生産力増大せらるる所以なりとす。

分業は仕事が専門的なるにより獎勵せらるる特種の組織現象にして深遠なる結果を有するものとす分業は一の仕事を性質の異なるに従ひ區分されたる仕事の階段に分界し永續的に特種職工の部類に所屬せしむるものなり斯くして時計製造に於ては箱を製作する職工あり表示板を造る者あり止針を造る者あり撥條を製する者あり小輪を製する者あり其全體を調整する職工あり以上例示せし處は一の不完全なる想象に過ぎざるものにして近代機械的産業に在りては分業は

遙に進歩せるものとす倫敦に於ける時計製造業には特種職工の種類二百部類を數ふべく米國に於ては低廉な時計を製造し名聲を博すと雖も其仕事の種類はロンドンに於けるよりは遙に細別せらるるが爲め時計の値上げを爲さざるを得ざる状態にあり。

最も複雑なる仕事例へば機關又は懷中時計の製作の如きものに於ても極めて簡單にして劃一的段階に別たれ二十、四十、百種類の部類に屬せる職工が絶えず其生涯中同一の作業を反覆するに至れり分業は生産の見地よりすれば以上の如き大なる利益を齎すものにしてアダムスミスの如きは總ての經濟を分業の結果に歸せしめたるものとせらる然れども社會的又は智能的見解よりして分業に對し異論を唱ふる者あり分業の不便弊害につきては絶對にこれを默過すべからざるものとす。

分業の利益——分業が與ふる利益を述べれば、

(一) 分業は單に筋肉労働のひならず智能的労働に従事する者に對しても職業的熟練を發達せしむるにつき巧妙を増加することは争ふべからざる處にして筋肉精神孰れをも容易に一定の職業に従事することを得せしむ常に同一の運動を反覆する時は其運動機械的となり速度と正確とを大ならしむるものとす案内者は其歩行容易となり海上を見る者は其觀察力微妙となり製糸場の紡績工は糸を繋ぐこと敏速となり辯護士は演說流暢となり會計係は計算迅速となりピアニストは音樂精巧となるこれ等は人間天賦の才能か一定の職業に絶えず従

事するにより發達する専門的能力の實例なり。

(二) 分業第二の利益は時間の空費を節約することを得るにあり各職工は其位置と器具とを變更することなく常に同一の區分に付き同一の器具を使用し中止することなきに依る。

(三) 分業の組織は就業時間を短縮すこれ利益あると同時に弊害ある處にして往時に於ては一の職業に熟達するが爲には四年乃至五年の修業を必要とし職工の家庭に取りては重き負擔なりしが今日に於ては數箇月にして少年を生産の區分に馴れしめ賃銀職工たることを得せしむるものなれば少年は速に其生活費を得るなり生産は有利なり多量生産と低廉なる點に於て特に然り他方に於て職工は一の職業を殆んど完全に知ることを得ざるに至る錠前製造の大市街なるウォルベルハムトンに於ては錠前職工は十年を経過するにより一の完全なる錠前を製作すること能はざるに至るこれ職工の一般的智識より見るも亦生産物の品質より見るも弊害たるを免れざるところなり。

(四) 分業は機械を人類の手工に代はらしむることを得二十年以來北米合衆國が優良なる時計を生産したりし所以茲に存す廉價なる點は非常なる有利の結果を齎らし相當の柱時計も八法乃至十法にて買ふことを得べし又五法乃至六法にて正確に進行する懷中時計をも買ふことを得るなり以上分業の利益は區分せられたる職工が大發明を爲したるが爲なりとは言ふ能はざるなり然れ共職工は世人が通常仕事の手間と稱する仕事の節約を爲すものとす次

に分業に付き特に述べべきは分業は最も複雑なる生産の各段階を簡單にしこれを劃一的ならしめ機械を輸入する一種の分析的方法なり機械が有利に作用するが爲めには各自が極めて簡單劃一的となり不斷の反復を爲し得るが如く仕事が細分せられざるべからざるものとす。

(五) 分業組織は各人を其能力に従ひて使用することを得せしむ又女子及少年の如き弱者をも利用することを得べしこれ等の者が家内産業殊に田舎に行はるるものに於て特種の地位を占むるは明なり然れども極めて細分せられたる生産に於ても女子及少年の力を要求することは大に増加せんとする傾向あり。

地方的分業——分業は各個人に限らるるものにあらずして地方的にも其範圍を擴大せんとするものなり自然的歴史的條件によりて人類仕事の地方的區分を生ず地方的分業はこれを變更すること不可能なるに非らざれども之を覆すことは困難にして長日月を要するものとす。

地方的分業は第一氣候及地質の如き自然的原因に依る鐵石炭棉花葡萄コーヒーは自然の到處に散布せらるるものに非らず社會の進歩と交通の完成とは増進して底止する處を知らず同一國內例へば佛國につきてこれを見るも其内海に面せる各州は酒類を除きては殆んど生産することなしノルマンディーに於ては家畜、乳製物、林檎酒の外産出せられずポースに於ては小麥羊肉家禽の外産出を見ざるなり。

尙之を詳説すればノルマンディーの田舎オウヂエ地方に於ては家畜を生産し飼育することなく單に肥養するに止まりコウタンタンラメインスル、リムーザンの如き地方に在りては家畜の肥養を爲さずして飼育するに止まるものとす。

工業に就て見るも敢て異なる處なし絹織物につきてはリヨンを中心とする五六の州が重要な産業上の地位を占む此地方に於ては蠶の飼育以外なす處なし佛國に於ては棉花製造業の如きはノルマンディーとノルドとの二州及びレの二三州に限らる製乳業に至りてはノルマンの二州レ州の内棉花製造に従事せざる二三州及びミゾの五六都市に限定せらる羊毛輸入、羅沙フランネル製造工業はフウルミー、カトウ、レイム、ルウベエの四五の都市に匿れ羊毛精選工業はエルブフ、セダンに於て盛なり。

地方的分業は通常之を生せしめたと同一の狀況に置かるるものとす地方的分業は世界全體に對して其利益を與ふ工業と職工は益々精巧となり競争は活潑となり進歩は一般的に迅速となる商人の事業は簡單となり僅々一兩日間にしてルウベエ又はエルブフの如き同種貨物の製造工場を訪問することを得るを以て佛國全領土を駆け廻る必要なきなり。

地方的分業に反對するものは商業上の恐慌が一定の産業區域に及ぶ時例へば一八六〇年より一八六五年に至る間下セーヌ地方に於ける棉花工業の恐慌シゾーの葡萄虫の如く一地方を慘酷に荒廢せしむることありと云ふにあり分業は企業主職工の兩者を聰明ならしむるものとす。

一國の産業發達すること大なるに従ひ地方的分業も顯著となるは英國及び北米合衆國に於て見るが如し。

世襲的分業——個人的分業及地方的分業の外一種の世襲的分業なるものあり世襲的分業はこれを撤去すること不可能ならざれども一大勢力を有するものなり。

時間又は空間より全く孤立せる人類なるものを想像することを得ず人類は祖先の連系に結合するものなり人類は能力の遺傳を承繼しこれに教育及び境遇の力が附加せらるるに依りて成るものとすされば他の條件同等なりとせば職工に於ても主人に於けると等しく祖先傳來の産業に忠實に従事するを以て利益あるものとす狹隘なる場所に於て立處に新しき手業による産業を起し同一地に數世紀以來存在する同一種類の製造所に對し優勝なる競争を爲すことは困難なり世襲的産業も一大勢力を爲すものなれどもこの危険に脅かされる弊あり惑溺及慣習これなり。

分業の條件分業に對する批評——分業が發達するには到る處一致せざる一定條件の存在を必要とす (一)人口の稠密、人煙稀有にして人口少なき國に在りては各人は數種の手工業と商業とに従事せざるべからざるものとす (二)交通の容易なること (三)資本の潤澤 (四)或る程度の智能的及び科學的發達を爲せること。

分業に對する學者の主なる非難に付き論述する處あるべし。

(一) 分業専門的に過ぐる時は人類を精神的にも亦身體的にも毀損するものなりとする者あり

り人類は恰も生ける機械に變化せらる毎日一本の針の百分の一に相當する小部分の製作に一生を献ぐるが如きは人類を機械に變せしむる證左なり。

(二) 労働者は不時の出來事により左右せらるること大なり例へば恐慌製造方法の變更機械の發明等ある時は労働者の生業を奪ふこととなる昔時にありては織物職工暫時其産業に従事する能はざる場合に於ては農工の業に従事することを得たりしを以て如斯結果を生せざりしは明なり。

(三) 工業的分業は往々職業の自然的分科を阻害す例へば婦女子より家政を奪ひ兒童を工場に投せしむるが如し此非難は或は根據を有すれども誇大なきにあらず仕事の専門化は左迄職工の精神を卑くし又は身體を必然的に衰弱せしむるものにあらず如何なる時代に在りても劃一的の仕事に従事するものなきにあらず昔時の挽白人今日原始的文明國例へば東洋諸國に於ける都市の職工の如きは農工労働に於て見るが如き慰安を有せざるものとす職工は針の極小部分を製作せずして完全なる針絨をも製作することを得べく又靴の踵を製造することを得るものなれば職工の精神は之を向上せしむることを得るなり労働者階級を變化し損壞せしむるものなりとは古來よりの定説なれども何等正確なる證據なきものとす機械的労働者又は大工場の組立工は高度に達せる分業に従事するものなりと雖もこれを古代の鍛冶工に比すれば其の精神は精微なるものなり又劃一的仕事の反覆は精神に自由を與ふるも

のなれば緊張と疲勞を負擔せしむること少なし平均して生命が延長せるは其身體的條件を惡化することなき證左なりと云ふべし。

分業に對する調節——分業に對しては一定の調節を必要とし世人が通常行へると趣を異にせる智能的制度的制度を容さざるべからざるは眞なり。

分業の一條件は精神を過度に緊張せしめざるが爲め又痴鈍に終らしむることなきが爲め労働時間を短縮せざるべからざることなり仕事の細分せらるる處に於ては一日十時間労働を以て充分とせざるべからざるなり生産を増加することを得る分業は社會に對し損失を與ふることなく各労働者に對し日々の労働時間を短縮せしむるものとす。

分業は又餘暇を優良に使用すべきことを要求す手工労働者を十時間以上労働に従事せしめず又初等教育を授け其智識を完成する手段を講じ労働者は其精神の教養と開發とに注意せざるべからず文化は労働者を修養し得べき地位に置きたり世襲的慣習を有する者即ち手工労働者を新なる資質を體得せしむるには二三代間を要するは疑なき處なり分業が餘暇と賃銀の騰貴とを得せしむるに依り家族的又は家政的生活も益々有利なるべし婦女子又は兒童を工場内に閉鎖するは不條理なり多數の法制が定むる如く十二三歳未満の者はこれを採用する能はず若き母親は出來得る限り早く工場生活を止めしめ婚姻年齢の少女は小資を蓄積せば家政を助くる爲め工場を去らしめざるべからず已に成長せる兒童を有し家政を害せざる婦女は其一家の收入を増加す

ることを得るものとす加之産業の進歩は瓦斯電氣壓搾空氣の如き小動力を廉價に供給し家内工業に對し或る生命を與ふ家内工業は最も完成せる勞力の結合せられたる大工場を抑壓することなく複雑なる家政的義務の種類に能く適應する條件を具ふる勞働者の地位を存するものとす。分業の大なる利益は之を利用し其弊害は緩和せしめよ神は人類に財を讓渡するに當り幾分高價なる代價を以て賣却することあり然れども人類は其智識を以て日々經濟的進歩を爲し其代價を僅少ならしむることを得るなり。

本章の始に述べたるが如く自由と個人的責任とが認められたる制度の下に在りては人類の勞力は人類が組立て得る新勢力を利用し得る不斷改造の方法なり。

第九章 機 械

器具及び機械——機械に對する偏見——機械の利益、機械使用の必要的條件——機械に對する批評——機械保護の結果

器具及機械——分業は産業に機械が使用せられたる以前に遡る能はず。

人類は文明を始めて盲探せし以來弓矢捕漁網挺等の基本的用具により其四肢の力を助くるに努めたり其後に至り人類の補助物は著しく増加し多種となりしが二種類に分つことを得べし所謂器具及び機械これなり。

第一種に屬するものに在りては動力は直接人類より來る器具は人力の増加即ち一種の力の乘數に過ぎざるなり例へば鐵鎚は握拳勦は平手に柄杓は手を窪めたるものに鋸は齒に箸は指に端は肺に該當するが如し人類は伶俐なる比較に依りて以上の物體を作製するに至りしなり。

所謂機械に在りては動力は人類より直接生ずるものにあらずして自然により供給せらる動物の力、水力、風力、蒸氣、瓦斯、電氣、壓搾空氣等の如し以上は人類が其力を増加する爲め外界即ち自然に助力を仰ぐことの發達したるに依る經濟的見地よりすれば動物は單純なる機械に過ぎず。

機械に對する偏見——機械は生産に對し異常の奉仕を爲したり而して總て機械が發明せられたる當時に於ては一の例外なく機械は世人の非難する對象物なりしなり今日に於ても尙其傾向あるを見る各人の繼續的憤怒憎惡程教訓的なるものはなし人類が其考案したる機械に對し讓歩せざりしならば吾人は優に産業を支配することを得ずして永久に痴鈍裡に沈澱せしなるべし。過去四世紀以來機械の發明に對する鬭争の實例を述べん寫字生が最初の印刷職工を破門せんとしたる實例は世人の普く知る處なり。

十六世紀ダンテツヒの都市に於ては最初リボン職工の輸入を禁じ夫れが爲め發明者は多數の住民に依り溺死せしめられたる災厄に遭ひたり十七世紀英蘭フランドル、スイス獨逸に於ても

同様の發明を禁止したるがハンブルグの元老院は其職人を燒殺したり。

一五八九年エリザベス女王は織製造機械の輸入に反對し佛王ヘンリー四世は此改良を爲したる發明者を保護したりしも王の死後人民は之に對し迫害を加へたり。

ハルツに於ては官憲は木製フイゴの發明者を革製フイゴ製造職工の憤怒より免れしむるが爲其身邊を警戒したりしなり和蘭に於ては一六二三年風力を利用する木挽工場を禁止し佛國に於ては當時機械製のフイゴを禁止せり。

最近にありては魚漁者は最初造られたる蒸氣船を粉砕したりしなりリイオンの工事審査會はジャカルの名を有する有名なる機械の發明者たるジャカルの住居を燒毀しジャカルは殺戮の危険を恐れて逃走すること三回に及びたり。

紡績機械の發明者ヒアグリーブは職工に追捕せられ悲惨なる最後を遂げたり一八三〇年リユリッドの名に依り(一八一一年より一八一六年機械破壊の暴動を起せし職人の團體)英國に蜂起したる労働者は新しき鞏完全なる農工器具を破壊したりしなり。

現代に於ても同様の事例なきにあらずメキシコの主領サナタアナは憚むべき驟丁の利益を保護する爲め鐵道敷設の計畫に反對せりベトインは水汲人の仕事を容易にする爲めチダの市街に引水せる運河を破壊したり歐大陸の多くの港灣に在りては仲仕は暴力を以て穀物揚卸機の設備を妨害したり。

∴近時白國に於ける玻璃製造職工の罷業は玻璃の製作を迅速にし安價ならしむる弊害を粉砕せり。

以上の如く印刷機械木製フイゴ鞣及リボン製作機械紡績機械風力を利用する木挽工場蒸氣力を使用する木挽工場農工器具蒸氣汽罐等總て便益なる器具は其始め世人の非難を招きたるなり若し各時代が如上の有力なる補助物即ち貴重なる勞力の節約者に依り財貨を富ましむることなかりせば人類は如何なる状態に在るべきか其結果思ひ知るべきのみ。

機械に對する偏見は今尙存する處にして佛國議會の調査に依る供述に於ても傲慢なる生ける實例を見るなり。

機械の利益——機械の利益を簡単に述べ次に機械に對する批評に及ぶべし。

(一) 機械の第一の利益は身體を疲弊せしむる一定の仕事に對し人類の疲勞を減するにあり穀物の挽臼を廻轉する奴隸の仕事或は古代羅馬の軍艦に用ひられたる大なるオールを想像する時は何人と雖も驚くべし風車水車蒸氣車暗車船又は帆船等は以上の不便を除くものとす重荷を頭上に戴き運搬する人、曳船に従事する婦女は動物の力を用ゆる新しき發明に依り代られたり硝子を完製することに必要なりし硝子吹工の仕事は機械が之を代用するに至りしを以て最早肺を使用し疲勞することなく仕事時間を節約することとなり。

機械活動の利益は恰も博愛家の親切に似たり人間たるの品位は機械が代用せらるる場合に

表はるるものとす。

(二) 機械は大多數の人間を結合するも爲す能はざる仕事を爲す事を得又機械は無量大の仕事を得すに付き優良なると同時に無限小の仕事を得すに於ても優良なり大冶金工場に用ひらるる機械槌は八千キロメートル乃至一萬キロメートルの物をも壓することを得べく一分間に二百乃至三百回打鍛することを得るものとす汽船に装置せらるる蒸汽罐は八千乃至一萬馬力を有するものにして二萬乃至三萬人を用ふるも此力を生ずる能はざるものなり又ベールの發明に係る細分機械は一ミリメートルを三千の平等部分に分割することを得尙此説明を例ふれば機械は綿一斤より糸三千英尺即ち五百二十キロメートルを製することを得べく鐵道用の印刷機械は一日に七萬枚の切符を製作することを得るなり。

機械は無量大に於ても又無限小に於ても著しく人工に優る以上の如く驚嘆すべき處は個人の結合を以てするも爲し得ざる處なり。

(三) 機械は異常なる腕力を有する男子を必要としたる仕事につきても普通の力を有する男子又は婦女子をこれに代りて當らしむることを得これ人類を完全に利用することを得せしむる所以なり。

(四) 機械を用ゆる時は仕事を爲すに當り常に疲勞を生ずることなく迅速に爲すことを得しむこれ時間なきが爲め又は時間を變化することにより仕事に損失を生ずるが如き場合に於

て特に著しき利益あるものとすされば農業につきて見るに刈草を干燥する器具及び刈秣器を用ゆる時は僅少の日數を以てこれが收穫を爲すことを得るものなれば氣候の不順に依り損壞せられ又は變質する恐れある麥、干草の一部分を貯藏するを得るものとす。

(五) 最後に述ぶべき機械の利益は經濟組織につき最も著しきものなり機械は無量に同一型の一定量を復生産する能力を有すこれ機械が其勢力を得たる所以なり帽子製造用の廻轉機械は一分間に四十八萬に達する編目を製造することを得べし十人の植字工と五人の印刷工が安全なる施轉印刷機械を使用する時は五世紀以前に於ける二十萬乃至三十萬人の寫字生が爲したると同一の仕事を得るなり。

以上述べたるが如き機械の計る可らざる利益は機械を使用することを得る産業にして原料品の價格少なきものに於ては大なる割合を以て生産費を遞減する結果を生ず曾ては非常なる贅澤品なりとせられたる物も現在に於ては人類全體に行き渡るに至れりこれが實例は絹織物書籍寫眞術の恩恵に依る寫眞等につき見るべし。

一四二八年に於ける伊太利辯護士の著述に係る全集十六卷は現今貨幣に換算して三千九百七十九法と評價せられたり騰寫の聖書一卷に對しては五百フロリン即ち一千法を仕拂ひたるは通常なりき今日に於ては有益にして著明の作物と雖も一法五十サンチム、二法乃至三法を以てすれば購ふること能はざるもの殆んど稀なり普通の出版物なれば五十サンチムにて買求むる

を得るなり。

人類の深遠なる苗床には人類が自由に處理することを得る多數の有益にして興味あり教訓的にして人世を優雅ならしむる物を包含すれば人類は絶へず仕事の器具を完成し得る能力を賦與せられたることを天に謝せざる可らず人類は敬虔の念を以て機械の發明者に叩頭し半神としてこれを祭壇に立つるが如きこと太古の如くならざるとするも少なくとも其肖像を公にしこれを尊敬して永久に記憶せざるべからざるなり。

機械使用の必然約條件——機械使用の範圍は日々擴大せらるると雖も一定の條件に限定せらるるものとす其條件は分業に對すると殆んど同様なり建築物裝置機械器具の設備等種々のものに要する莫大なる前貸金を供給する爲めには資本が潤澤ならざるべからず市場極めて廣汎にして世人が劃一的生産物の大生産量を容易に求むることを得るが爲めには交通容易ならざるべからず微妙なる器具を操縦し利用し修理し得る能力を有する職工を募集し得るが爲めには世人に對し教育と技術的巧妙とを充分に宣傳せざるべからず機械は富裕にして文化發達し大産業を實行せる國に適合するものなり。

以上一般的條件の外機械の使用が容易又は困難なる生産物の性質による特種の條件あり機械的用具を使用して利益を受け得るが爲めには常に小賣行はれ規則的にして歴々起る市場の變動により左右せられざる極めて消費力の大なる貨物を生産するに努めざるべからず又趣味技術が

商品の主要なる地位を占むるものにあらざるものなることを要すれば機械は共通なる日用品の製造に適合するものとす機械の使用は一定の變化と嗜好とを要する贅澤品の生産につきては極めて限定せられたる部分に適應するに過ぎず機械は綿製造業に用ひらるゝよりは絹製造業に用ひらるゝこと少なし無地の絹布よりは刺繡ある絹布の製造に用ひらるること少く金物製造よりは寶玉細工に及ぶこと少なし。

手間賃は機械の使用により影響を受くるものとす賃銀低き印度の如き地方に於ては農業に従事する者よりは機械工業に従事する者の受くる賃銀少なし賃銀高き英米の如き國に在りても機械により製作する能はざる商品を除きては手工に依り製作すること殆んど稀なり。

労働者の要求と同盟罷工とは機械の發明と機械使用の傳播とに與りて力あるものとす。

機械に對する批評——吾人は機械の利益につき諒解せり他方に於ては此利便多き器具に對する非難あるを免れざるなり多くの學者はこれを機械の破壊的結果と稱す。

機械の發明は労働者に對し毫も其の賠償を與へずしてこれより仕事を奪ふものとせらるる常に必ずしも然りと云ふ能はざるも機械の發明少なくとも一時労働者の腕の需要を遞減し他の職業を求むるにつき永き期間を要するの止むを得ざるに至らしむることあり又産業を不安定ならしむると労働者の生活を支配する危険とを増加することあり。

此批評は全然眞理なきにあらざれども通常世人の述ぶる處誇大に失するの嫌あり。

歴史的經驗の證明するが如く機械は長く労働の需要を減少する結果を生ずるものにあらず人類の欲望は實に無限にして一の欲望を以前に比し容易に満足することを得るに至れば未だ満たされざる欲望を得んとするに努む機械あるの結果例へば一足の靴が五法を要せずして三法の價に過ぎざるに至れば消費者は多くの靴を消費するものとす又節約により得たる處を以て以前には顧みられざりし他の商品を購入するに至るれば労働に對する需要は機械發明の以後により異なる處なく單に異種の商品に對する労働の需要あるのみ。

機械自體も新しき労働の需要を創造す機械はこれを製作し維持し修理せざるべからず其結果冶金職工を必要とし次に石炭を補給せざるべからざる炭坑夫の數を増加す次に製作場に器具の装置を爲さざるべからず爲めに煉瓦工、大工、家根職人等に仕事を與ふる結果となる機械が直接節約したる手業に對する報酬は充分あるなり。

新しき機械は其周邊に以前存在せざりし新なる産業の一部分を生ず斯くして寫眞術はそが必要とする器具と設備との爲め約一萬人が従事せる生産の一部門を組織するに至れり。

古昔修道院には數百の寫字生ありたりしも今日に於ては其千倍以上の印刷工と植字工とを見るなり佛國に於ては二十萬乃至三十萬人を鐵道事業に使用すると雖も其結果馬匹馬丁の數が四十年以來毫も減少せざるなり。

然あれ手工産業の盛に行はるゝ處に急劇に機械を輸入する時は振動と一時的障害とを或る種

類の労働者階級に與ふることなきにまじらず本世紀の始め三十年間に織物機械が出現したる際これを視たりしなり今日にありても尙以上の弊害を生ずることなきにあざれども極めて部分的なるものとす。

機械保護の結果——大産業は總て機械を有するものとす吾人はこれを改良し完成するも其改良完成たるや通常繼續的にして漸進的なり高價なる機械を備ふる大産業に於ては優良なる機械あるを知るや直に従前の機械を去除くものにあらずして徐々に其用具を改良するのみ漸進的なることは通常労働者に對し全く急劇なる變化を與ふるを豫防するものなり新しき機械が應用せられ産業を支配するに至る迄には二十五年間を要す帆船は汽船の爲に全く姿を匿すことなく覆輪装置の汽船は暗車装置の汽船に對し其存在を失はず走錘紡績器は本世紀の初めに發明せられたるものにして其勢力今日は微弱なりと雖も自動紡績器と稱する完全なる機械に對し尙對抗す瓦斯が電氣に鐵が鋼鐵に普通の鋼鐵がベッセメ鋼鐵に對し各々其影を匿むるに至るは一日のことにあざざるなり吾人はダイナマイトを使用すると同時に尙火藥を消費するものとす。

然るに本世紀の初に當り機械は全く武器を有せざる人類の空手に對し挑戦せり例へば紡錘竿は紡績者の手或は家内織物職工に對し挑戦し容易に虚弱なる敵手を征服したりしなり今日に於ては新しき機械は明に不完全なる古き機械を征服するものなれども大多數の製造業者は高價なる自己の資本を毀損せしめざらんが爲め徐々に古き機械を廢止するに至るのみ從て其變遷は遙

に安全なりとす機械を以て單に労働者の生活を不安定ならしむる者に過ぎずとなすは狹隘なる見解なり恐慌の場合に於ては機械産業は手工業に比し休業の影響を受くること少なきものとす手工機械の今尙盛なるリイオン地方に於ては商業緩慢となるや製造家は機械を有せざるを以て直に其製造を中止し手工機械は運轉せられざるに至るボスジュ、リユール、パールワンに於ける如く機械により綿の製造を爲す者に於ては事業緩慢なる場合にも機械と云ふ廣大なる用具を備ふる製造家は全週ならずとも数日間、全一日ならずとも毎日幾時間かの仕事を繼續せしむる程度迄は之を維持するものとす機械の必要を殆んど見ざる建築事業玻璃小間物製造業の如きにありては恐慌襲來する時は労働者を解備す冶金工業鑛山業の如く機械的組織を良好に維持せざるべからざる處にありては恐慌に對して苦闘するものなれば労働者の全部又は一部分を長く使用するものとす。

されば世人が不安定的原因として非難する機械は休業に對し又不景氣に對し間接に労働者を保護することを得機械自身の利益を計りこれが毀損せられざる爲めに産業上の器具に用ひられたる資本は常に一定の労働者を使用する者なり機械は遂には全く永久的なる職業を組成する産業を生せしめたり例へば鐵道大汽船會社の如し。

然れども或る限られたる場合及數ヶ月間は新なる機械を輸入したるが爲め労働者より其の熟練せる仕事を奪却することあるべきは眞理なりこれ總ての進歩が拂はざるべからざる代償なり

其結果人類の聰明が發達するものにして吾人は活潑有利なる仕事を爲す當時に於て恐慌時に對する資源を用意せざる可らず常に精神を緊張することを要し恰も軟體動物が岩礁に固着するが如く一の職業に對し絶對的に膠着すべきものにあらざるなり労働者自らが危険より保護する能はざるが如き特別の場合又は避くべからざる場合に對する資金を調達することは労働組合職業紹介所人事相談所博愛又は慈善制度等が爲すべき職務なり又相互扶助組織保險等を適用することを得るものとす。

日々輕減せられつつある如上の弊害は機械が人類殊に労働者に對し評るべからざる奉仕を爲すことに想到せば何等論するに足らざるなり。

第十章 大生産と小生産——生産増加に對する妄想

近代の大生産を發達せしめたる條件——大生産の利益——其弊害——生産に對する制限——經濟の實際上の進歩は外見上の進歩より後る——經濟的進歩に對する幻想の實例、

近代の大生産を發達せしめたる條件——一定社會の生産力は單り生産の三要素自然資本及び勞力の各價值によるものにあらず所謂産業の構成と稱するものに大なる關係を有す以上の見解に基き所謂製造工業商業及農業の三種に區別するものとす今特に第一種のものに付き論述し農

業につきては後章に之を留保すべし。

大工場の集中生産は如何なる時代にも其實例なきにあらざれども特に本世紀の後半に於て隆昌となり廣く行はるるに至りしなり資本の増加と多數人の出資による無名會社の設立が容易になりたることは大規模の工場を建設するに必要な資源を結合することを付せしめ交通機關の改良は市場と販路を擴大して大生産存在の理由を與へ遂に機械の進歩と科學の發達とは多くの場合大生産が小生産に勝ることを明にせり。

小生産に對し大生産の優良なることは著明なれども普遍的なりと云ふ能はず大生産は其性質上分業及機械の範圍に入ること能はざる商品に對してはこれを適用すること能はざるなり何人と雖も繪畫美術的彫刻其他多くの贅澤品を大生産の經營に置かんとするものはあらざるべし一般的に消費せられざるもの、一人又は二人の手工を以て製作せざるべからざるもの、思想を要するもの等は總て小生産の領域に屬す大生産は畫一的にして其趣味平凡なるもの及美術的見地よりすれば凡俗に赴かんとする傾向を有するものに適應するなり。

商品の修繕保存の如く多様にして規則的に行はれざるもの多くは大生産の範圍に屬せず大規模の工場に於ては商品の製造を爲し得るも其修繕に至りては殆んど爲す能はざるなり。

大生産の利益——除外例を置き大生産の利益を述べし。

(一) 設備と維持に對し大なる節約を爲すことを得、五十萬鍾の絲を生産し得る製絲工場は

五萬鍾の絲を生産し得る工場が要する土地と建物との十倍を必要とせず二百萬馬力の蒸氣機は二十萬馬力の蒸氣機罐の十倍の價に達することなく又前者は後者の要する二十倍の石炭を費消せざるものとす三百ヘクトリツトルの容量の樽は三十ヘクトリツトルの樽の十倍の代價を要せざるものなり如斯例は枚舉に遑あらず。

(二) 大生産は通常生産が高價なる爲め備ふる能はざる機械を使用することを得例へば原料品又は製造品を一の工場より他の工場に運送する爲め敷設せられたるデコビュー式の小鐵道の如き、地下室より高所に貨物又は原料を掲げる爲め用ひらるる昇降機起重機の如き、工場の所々に中繼する要なき電話機の如き總て大生産に於てこれを使用することを得るなり。

(三) 大生産に見る他の利益は所謂製造に關係なき費用の大部分を占むる一般經費が通常生産の一般の經費の増大に比例して増加せざる點にあり一人の職工長は職工六十人が従事し整頓宜しきを得たる廣大なる作業室を監督し指揮し得るとは十五人乃至二十人以上を收容し能はざる小作業室を監督指揮すると毫も異なる處なし或る引渡港に於て羊毛又は綿の一千梱を買ふが爲めに要する運送貨移轉費手数料等は百梱の羊毛又は綿を買ふ場合と其費用大差なかるべく五百噸の石炭を買ふ場合と百噸の石炭を買ふ場合とを比ぶるも大差なし又大量を購買することは其條件有利なり多くの機械を利用するときは賣主にとりても其引渡

により同時に大量を處分することを得せしめ便宜多し鐵道會社にせよ汽船會社にせよ運送の企業者は大量運送に對し其運賃を遞減す運送者にとりては一人の生産者の爲め用ひらるる貸切馬車貸切貨車又は貸切汽船は二十人乃至三十人の商人製造家の所有する少量の各種貨物を運送するに比し其取扱費牽引費を要すること多からざればなり。

(四) 商工業に用ひらるる大規模の建物は規模の小なるものに比し世人に知らるること多し苟も其經歷にして世の尊敬を受くるものとすれば直に信用を博し種類多からずとするも確實なる顧客を有するを以て優越なる信用の條件を享有するものとす。

(五) 今終りに述べんとするものも以上述べし所と等しく大生産に付き優越なる點なり大生産にありては生産の參謀部に才能あり學識あり發明の才ある人士を使用することを得て益々智能的分業を進めしむるものとす若し經營者が識別力を有する場合には理事には第一流の人を選択することを得べく又年を定めて雇傭する技術家特殊の化學者を養ひ依て製造方法改良の爲め其經驗を重ねしむることを得べしされば完全なる機關を組織することにより生産物の單價に要する費用を比較的少ならしむることを得るなり。

以上述べたる所は大生産の利益なるが其結果予の想像する所によれば三萬法の資本と一千人の労働者を使役する事業にして其經營當を得ば三萬法の資本を有し百人の労働者を使用する十個の事業よりも更に良好にして廉價なる生産を爲すことを得べし。

縦令大生産には往々中小産業を崩壊し又は破壊する弊害なしとせざるも中小産業にはこれが消失するまでには長日月を要する有利なる條件あるを以て之に代るに共通的貨物を生産する資本及び労働者の集中を如何なる限度迄に定むべきかは困難なり而して其限界は日を逐ふて擴大せらるるものとす。

大生産の弊害——大生産は其管理に對して精力を用ひざるに於ては濫費に陥り易し廣大にして複雑なる機關に對する監視を少しにても油斷するときは無益なる費消、拙劣、材料の濫費を來す管理者の眼は廣大なる工場に對し同時に行渡ることを得るものに非らずされば世人は通常近代産業の意識と稱する簿記の正確と完成とにより其缺點を補足せんと努む。

然あれ大生産が中生産に對し其の長所を消失せざるが爲めには不斷の注意を必要とす又大製作場は特に其管理の如何により大なる影響あること恰も一人が指揮し勇氣を鼓舞せざるべからざる軍隊の如きものあり一寒村も精力絶倫にして聰明なる人人ありしが爲め一躍して大都市と化したることあり有名なる建設者クルツプに依りてプロシヤのエッセンが又ヒナイデルに依る佛國のクルーズが設立せられたるが如きは其適例なり大生産の隆昌を維持するが爲には管理即ち事業主又は取締役會も其建設者と等しく積極的勤勉にして有能ならざるべからず大生産の缺陷は中生産に比して其反響と普及との速度及強度遙に大なるを以て危険に瀕したる場合に於て製作所の建換を爲すが如きことは極めて困難なり多くの大工場が其創立者の死後又は隱退後數

年ならずして萎靡振はざるに至ることあるはよく世人の引用する所なり大産業に於ては企業主の人格の重要なことは他に其の類例を見ざるなり。

常に大生産を脅かす濫費の傾向あることは或程度まで中小生産を維持すべき一の原因を爲すなり中小生産は常に人類活動範圍の一部分を保留す例へば贅澤品の生産は其生産を著しく増加するに放任せらるることなく一般貨物の修繕を爲すものにつきても亦同し。

以上産業につき述べし所は商業に對しては其適用の度少なし賣主の顧客に對する個人的關係は商業にありては左迄重要にあらず又物品の移轉を爲さずしてそれを需要する人を求むることを選ぶべければなり。

農業に就ては本書中後に述ぶる所あるべきも土地の開拓に對しては大生産に於て認めし大利益が如何なる變化を及ぼすべきかは其時諒解することを得べし。

生産に對する制限——吾人は生産を増加する原因に就き學びたり此増加に對し限度ありや。

生産の三要素なる勞力資本及び自然の中前二者は絶へず増加す勞力は人口の増殖により増加し尙仕事に對する個人的生産力の増大によりて増進すこれ特に人類の智識と熟練が完成せらるる結果なり。

生産の第二要素たる資本も亦其質と量に於て共に殆んど無限に擴大せられんとす資本は其量に於て増加す聰明の普及せる國家にありては節約は日々潤澤に赴くものなり又質に於ても利す

科學進歩の恩恵により新しき資本は古き機械に比し遙に有力にして巧に組立てられたる機械に化するものなればなり。

残る處は生産の第三要素たる自然なり自然も亦増加するものなるか？ 人類の行爲によりては自然は物理的にも化學的にも如何とも爲し難し面積に於ても性質に於ても自然は自然其儘なり。

然れども比喩的の意味即ち相對的の意味に於ては自然は本來の儘に放任せられずして擴張せらるるものとす自然は人類により諒解せられ之に對し奉仕することを得るなり。

縦合存在せる物も吾人が其存在する事實を知らざるに於ては其物は恰も存在せざるに等し其存在を吾人が知得する日の來るまでは相對的の意味に於て其存在を始めざるなり例へば一四九二年以前の歐洲にとりては亞米利加大陸は存在せざりしなりオウストラリヤは一七八七年以前に於ては存在せずコンゴの存在は尙四十年を経過せざるなり。

文明人種に對しては自然は増加し地理上の探檢發見及自然を支配し征服する發見と發明により今尙其増加を持続せんとす蒸氣力はババン以前の人類には存在せず又電氣はアンペール以前の人類には知られざりしなり尙大多數の力が熟睡せるは明にして他日覺醒せられ人類活動の資に供せらるることあるべし。

以上述ぶる如く世界の現状に於ては生産の三要素たる原料勞力資本及び自然は擴大せらるれ

ども其間各重要なる差異あり前二者即ち勞力と資本とは絶對無限に擴大せらるるも第三要素たる自然は相對的意味に於て増加せらるるに止まるものなれば遠き將來に於ては或限度に達し中止せらるべきものなり。

經濟的進歩も吾人が豫見し得る數百代の終に於て到達すべき極めて渺たる遠景の限界により脅威せらる、二三の英國の思想家マルサス、リカード、スチュアルトミルの如きは已に其限度に達し又は其限度は極めて切迫せるものなりと爲したり。

吾人は後章に於て地代説なる名稱を受けたる有名なる學説につき學ぶ所あるべし今茲に於ては單に近き世紀に於ては土地は人類に對し缺乏せざること、石炭及金屬が發掘し盡さるるまでには無限の時間あるべく農業科學の進歩は尙生活資料を増加する廣大なる土地を人類に提供するものなることを述べれば足る。

斯くて自然が勞力及び資本に比し人類に對し缺乏するに至るべきは數十世紀の後なるべく生産は三要素の各主力により尙永久に増加するものとす。

然れども經濟的進歩は週期的及連續的に或る種の困難を隨伴することあるべきを忘るべからず前世紀の末葉より始まれる吾人の生活時代は經濟的進歩特に活潑にして豊富なりしを以て平穩と活動との連續が相當永く持續せられたるなり。

經濟的立脚地より人類の苦痛を遞減し其享樂を増進せしむる經濟上の進歩が異狀なる發達を

爲し得るとするも其發達は規則的に又は確平たる歩度によりて爲さるるものにあらず。

人類の實際上の進歩は外見上の進歩より後る——他方に於て人類の進歩が如何に著しきものとすも實際上は外觀上の進歩に後ること甚しきものなることは重要な觀察なり人類の進歩は一部の幻影を包含す此幻影は多數の人を苦しむ欺瞞と多くの人を激昂せしむる不平と憤怒との原因なり。

機械、設備、鐵道種々の發明等は多數人の頭腦を眩惑せしめ實際上に人類が獲得したる現實の進歩を誇大にしたり或る經濟學者の機械に對する統計と讚辭とは一方に於て不動の眞理を有すると同時に他方に於て誤謬と誇張の文辭とを包含するものなり。

經濟的進歩に對する幻想の實例——今茲に社會的見地よりして甚だ危險なる幻想の一例を擧ぐべし佛國に於ける一九〇七年の蒸氣機關の總計は學者の計算によれば軍艦を除き一一、二九三、九〇九馬力を表すものなりとせらるるさて各馬力は約二十人の力に匹敵す又現存する勞働者一千萬人は佛國人民中壯年男子の一部を表す而して我國に於ける機械勞働者は二億二千萬人あることとなる尙各勞働者は其の監督下に二十二人の機械工業に従事する奴隸を有すると同一なりと述べ其の結果より佛國の生産は一世紀以來一に對する二十二の比例を以て増加せられたるものなりと論斷せり。

以上の幻惑的統計は大多數の者を熱狂せしめたと同時に多くの人の憤怒を招きたるなり。

人類の境遇が稍々改良せられたるは明なり而してこれ等の人類は人類社會の進歩が人類生活改善の進歩よりは遙に速なるものなりと思惟するが故に人類は文明の犠牲者となれるものなりとなせり驚異すべき産業の進歩のため一、二九三、九〇九馬力は約二百二十萬人の力と同等の力を表はすものなれば各佛國人は二十分の一の勞働力を有するものとせらる。

以上の如き經濟學者の冗長なる敘述は誤謬を有す一、二九三、九〇九馬力は約二百二十萬人の力に該當するものとなすは單なる不正確又は幻影に過ぎず。

八百八十萬以上の馬力は水陸運輸に使用せられたるもの換言すれば人及び貨物の移轉に用ひられたるも直接には何等生産する所なきなり（七、五六四、三七三馬力は鐵道及び電氣軌道に用ひられたる蒸氣機關の力を表はし一、二五五、六九〇は軍艦を含まざる運送船及び曳船の動力を表はす）其結果は曩に述べたる地方的分業を増加するなり或國に於ては酒類を生産せず又或國に於ては家畜の外生産せられず而して生産の超過部分は交易せらる都市は膨張せられ貨物の移轉は頻繁となる實に人類の消費する貨物の生産は鐵道及び航海の發達するに伴ひ増加するものとす。

残る二、四七三、八四六馬力中二、三一一、七四三馬力は製造工業に使用せられ、唯一六二、一〇三馬力が農業に用ひらるのみされば生活資料品の生産は今日に至るまで機械使用の影響を蒙ること少し。

尙重要なる觀察を要することは學者が吾人に示したる一、二九三、九〇九馬力は實際は多く重複して使用せらるることこれなりこれ等機械の大部分は直接消費せられざる他の機械又は器具の製作に用ひらるれば冶金工場の機械槌汽罐は機關或は軌道の各部を製作するに用ひらるものとす。

又總馬力を動かすには地下を採掘する約二十萬人の坑夫と略々同數の運送業者とにより得らるべき石炭を必要とす又勞働者に住宅を興へ建造物を作らざるべからざるを以て一團の煉瓦工をも必要とす加之、總馬力はこれを保存し改良せざるべからず數千の勞働者は機械の保存と改良に必要な鐵金屬石油塗料油を求めざるべからざるなり。

然らば一、二九三、九〇九馬力が二億二千萬人の人間に相當すと云ふは總力を言表はすものにして純力を指すものにあらず此の重複を避け純力を計算するがためには其の五分の四ならずとするも少なくとも其の四分の三は之を減少せざるべからざるなり。

且一馬力が二十人の力を表すものなりとするは誇大に失する嫌あり。

されば經濟學者又は統計學者が産業の進歩に對してなしたる多くの讚辭は極端に實際より離れて誇張したる思想なりと云ふべし生産力が一世紀以來著しく増加したるは争ふべからざるも其か實際上の効果は皮相的試験が信せしむる所より遙に小なり眞理は常に知るによく言ふに可にして現今の如き狀況にありては眞理により短氣を鎮め苦痛を柔げ怨恨を輕減せしむることを

得るものなれば眞理の確定は重要なりと言ふべし。

第二部 富の分配

第一章 近代社會に於ける分配の一般的條件——

自由と所有權

經濟の各作用——生産物の分配は全く立法者の專斷に依るものなりと信する謬説——近代社會の發達を支配したる一般的條件、自由と所有權——個人自由の繼續的發達——個人的所有權の進化及發達

經濟の各作用——自然資本及び勞力の各異なる三要素が生産に協力するものなることはこれを明にせり今茲に三要素の間に於ける生産物の分配寧ろ三要素の代表者を支配する自然的法則を研究すべし。

自然は自然力を占有する代表者即ち所有者を有す資本は一人又は二人の代表者を有す第一の者は資本を創造したる者又は資本を相續し或は贈與に依り受領し自己が利用するも之を他人に貸すも自由なる状態にある者にして第二の者は自己の資本を有することなきも他人より之を借り來り利用し得るものなり勞力は極めて多種多様の代表者を有す各種の智能的勞働者各階級の

筋肉労働者の如きこれなり。

文化發達せざる時代に於ては所有者資本家企業主労働者供給衣食者が同一人に化體すること多し斯くて佛國人の四分の三は少なくとも賃銀労働者たると同時に所有者又は資本家なり農業者の大多數は一方に於ては自己の腕を貸し他方に於ては實際土地を占有す大多數の労働者は貯金管理局に預金を爲し又は定期金證書債券を所有する者にして謂はば資本家なり。

所有者資本家企業主賃銀労働者の四個の異なる資格を一人が併せて有することなきにあらざれども必其所得の大部分を爲す有力なる資格を有す此主たる資格に基きて先に述べたる四階級の一に分類するなり社會的見地よりして古く自由なる文明國に於て多數の人が小所有者なるや又は小資本家なりや單に日傭労働者の資源を有するに過ぎざるものなるやを注意することは重要な點なりとす。

生産物の分配は立法者の專斷によるものにあらず——生産物の分配はこれに關する最高の法律制度により支配せらるるものなりとなす者あり本書に於て此思想の誤れることを明にすべし氣候、國、時の異なるを問はず政體の如何を論せず常に同一の影響を及し毫も法制に左右せられざる生産分配の法則が存在することは觀察の證明する所なり法制の專斷は事物自然の潮流を妨ぐることを得べし然れども法制は全く自然の潮流を阻止し或は矯正すること能はず立法者は何時にても利子資本の利益地代賃銀商品の價格等の最高率或は最低率を一定せんとすることあり

り而して此目的のため無謀にして傲慢なる立法者により多くの企圖が試みられたることありしも常に失敗に終りしなり其企圖が事物の性質に反する時換言すれば共同分割者の各異なりたる階級の間における分配に對する自然の結果及び人類産業の自由開發に反して行はるる時は民法又は刑法と雖も無勢力なり此法制たるや擾亂者たるに止まり有效なる調節者たること能はず法制は徒らに活動し紊亂し阻害するに止り緩和的に規則的に事物の順序を創設すること能はざるものとす。

生産物の分配に對する公權力の行動が問題となる時には吾人はモンテスキューの下したる聰明なる定義を喚起せざる可らず即ち法制とは事物の性質より抽出せらるる必然的關係なりと吾人をして經驗により事物の性質及び必然的關係を探究する所あらしめよ。

近代社會の發達を支配したる二の一般的條件、自由と所有權——近代社會を觀察する時は其作用と發達とを支配する二の一般的條件あることを認むることを得べし自由及び所有權これなり。

近代社會の特質をなすものは個人の自由と所有權とが極度迄擴張せられたる點にして古代の社會と異なる所以茲に存す自由と所有權とは謂はば雰圍氣自由なる空氣毫も障礙なき環境とを作り富の分配に對する自然の法則を活躍せしむるものとす。

自由及び所有權の停止せざる進歩は人類史上に謂はば同時に發生して並び行はれし所なり人

類は漸次數十世紀間の努力により奴隸又は農奴の壓制々度より個人的自由制度に達し原始的共有制度より私有財産に移りたるものなり種族宗教言語習慣により互に分立し他を解せざる社會に於ても其進歩の跡は殆んど同様なるものありこは反射的事業にあらずして哲學者諸侯會議よりも遙以前に存在したる思想なりとすこれ人類の本能的發達にして文明の發達せざる所に於ても到る處其存在を見る而して人類の本能は自由と私有財産制度に進化するものなり此進化は支那及日本印度東部ヨーロッパ又はアメリカに於て見るも確證することを得るなり。

個人の自由と個人的所有權と併行して發達せる結果は各人の責任觀念を増加し其個人的努力と才能とを利用し其過失と不徳の結果を受忍し社會が抱擁せる總ての勢力を刺戟し社會をして更に繁榮ならしめ更に進歩せしむるものとす。

個人的自由の繼續的發達——人類の勞働を免除するに與りて力ありしものは第一に奴隸の廢止次に農奴、賦役、同職救護組合、勞働義務年限、年期徒弟職業の就業に對する試験等の禁止、居住の自由にして單に博愛的又はキリスト教主義のみの賜にはあらず固よりキリスト教主義が貢獻したる所大なりしは疑を容れざる處なるも尙發明發見交通産業の改良及技術的改良に對し古代の如き嚴格なる制度なかりしに依る。

今日自由權能は西方ヨーロッパに於ては殆んど絶對的のものなりと考へらる奴隸は事實上舊世界に於ては野蠻人の侵入と基督教により廢止せられたり英領殖民地に於ては一八三三年佛領

殖民地に於ては一八四八年にアメリカ合衆國にありては一八六五年相繼で一時存在せしに止まりイスパニヤのアンチウブラジルに於ても奴隸の姿を匿し今日總ての國人は自由の世界に遊べるものとす。

回々教徒の國家、中央アメリカの拜物教徒の小種族の間に於てのみ個人の自由と私有財産制度を認めざるなり。

一二五六年以來ポロニユに於て伊太利の農奴は廢止せられ佛國に於ては一二九八年以來農奴を廢止し十九世紀に於て我國には殆んど農奴を見ざりしと云ふも不可なく一七八九年の佛國革命は數千人の農奴を解放せしに過ぎず英國にありてはエリザベス朝十七世紀の末葉に於て農奴の解放を完成したりロシアが農奴を廢止してより凡そ三十年を経過せり人類の自由に對する第二の障碍は一七七六年佛國ツルゴール内閣が一度は其束縛を禁止したる功績を負へる親方及職工組合なり産業の自由を侵害したる此組織はツルゴール失政後再興せられしも一七八九年の革命は決定的にこれを廢止せり凡そ四五十年にして西方ヨーロッパの他の國々も先に述べたる例に倣ひ獨逸は完全に居住移轉の自由と婚姻の自由とを認めたり集會の自由組合及集會權例へば職工に對する身元證明書作製の義務の廢止の如き總て一種の束縛とせられたるものの廢止は以上の解放を更に確實にし今日に於ては其完全なること個人の自由につきて見ると異ならず。

個人所有權の進化及び發達——所有權は自由の發達と同様の發達を遂げたり所有權とは人が

自己努力の生産及び第一に自己がこれを利用することを得る事物に對する絶対權なり所有權は自由と不可離の關係を有し又自由と同様の發達を爲せり人類が漁獵又は採取により自然の産物を蒐集するより外に其途を知らざりし時代に於ては原始的共有行はれ次に族黨又は邑による團體的所有に移れり人口の増加と人智の進歩とが不定にして廣汎なる休耕區域と不耕地を有する原始的農業時代に達することを得る時は先づ絶対的共有より人類が解放せらるるなり人智の新しき飛躍は農耕完全に行はれ不平等に集約的となり資本開拓の巧妙、所有の永續が大なる收穫を得るに必要な條件となるに従ひ徐々に個人的所有權を組成せしむるに至れり。

私有財産が團體の使用に委せらるることは漸次其數を減じ其重要を輕減せられつつありと雖も長く行はれたる所なり團體の使用とは例へば封建制度の賦課金隣接所有者が一定の同種耕作を爲す義務、徵收命令、貸下げ粉礮小屋、貸下竈一定の都市又は市場の食糧生産物の貯藏等なり。

緩慢不斷の解放は現代に於て吾人をして完全絶対的なる所有權を獲得するに至らしめ所有主は自己の所有物に對する完全なる使用權の外移轉權贈與權をも認められたり。

之と同時に所有權は正確となり其性質日を逐ふて明瞭に且つ完全となれり所有權は其領域を擴大せすんば止まず例へば労働用具の所有、家畜の所有、食糧の所有、家屋及び隣接圍繞地の所有、私人により開拓せられ利用せらるる土地の所有の如きこれなり土地及び用具の進化する

所以茲に存す然れども所有權は漸次全く無形の權利をも包含するに至れり工業所有權發生し普及せられ次で化學的所有權技術的所有權著作權普及せらるる文化發達し人類の慾望擴大し精練せらるるに従ひ新しき性質の所有權現はる。

吾人は株(商業上の)商業財産の所有權、商標權、作曲權、工業品の製法權、詩歌權、單純なる歌曲に對する權利の如きをも所有することを得。

所有權の擴張は人類の責任と生産力との發達に一致す。

第二章 所有權の起源及び基礎——相續の効用と

公正

所有權の理論——土地所有權の起源及び發達——所有權の歴史的階段——所有財産の社會的關係土地所有權に對する論評——土地所有權は國家存在の基礎なり——私有財産永續の理由——相續

所有權の理論——多くの學者は所有權の基礎につき論議せり此の問題につきては四種の學說あり即ち(一)先占說、其の以前何人にも歸屬せざりしものを最初に先占したる人が其所有者となるにあり(二)法定說、所有權は立法者より直接流出したるものなりと云ふにあり(三)

勞働及節約説、私有財産の根柢をなすものは一の物體又は發見に對し其價値を増加したる個人の努力なりと云ふにあり (四) 社會的效用説、之は以上の總ての學説を簡略にしたるものにして所有權の起源と辯明とを一般的利益に求むるにあり吾人は生産者を發奮せしむる爲めには生産物の永續的所有權を確保するより他に良法なし此制度は世界を通じて其適用を見るものにして吾人が活動によりて獲得したる所有權と雖も怠慢によりて喪失することあるべく此制度の下に於ては總ての生産者は其功績に従て待遇せらるるなり他方人類が此の方法を採る時は共有制度又は本制度と異なる他の制度により供給せらるるよりは遙に多くの各種生産物を其意に従ひ生産し得るものとす。

以上四の異なる學説は各其眞理を含有すれども各自孤立しては不完全となり所有權なる社會的大現象の思想を充分に説明する能はず更に事物の觀察を嚴格にせざるべからざるものとす。所有は本能的事實にして熟慮に先ちて存在し人類に對して重要な言語交易社會組織家族制度又は母國の組成の如きものなり以上述べたる重大なる事實は確實なる契約明示の約束より出づるものにあらず人類の生活及び發達に必然的なるものなれば自然的のものなりと云はざるべからず以上重大なる事實が遂に其定義と説明とを發見したるものとす。

土地所有權の起源及び發達——所有權は勞働及び節約の慾望より生ず又人類共同の利益と個人の利益よりも生ず且つ權利の觀念中にも其根據を有す。

所有權の由來と其發達とを考察する爲め或る原始的社會例へば今尙其殘骸を止むる露のミル(町村會)ジャバのデサー(集團)等を審査するを便とす。

始め土地は決して絶對的共有物なりと考へられざりしなり土地は太古に於ては種族或は偶然孤立して占有したる種族又は家族の所有に屬せしものとす狩獵人民又は遊牧人種の集團的所有權に對しては平穩と平等とは確保せられざりしなり狩獵人民又は遊牧人種の有する土地の限界を定むるにつきては其間常に鬭争ありしものなれば平和を缺きしことは明なり歴史を繙けば文明國に遊牧人種が侵入したる記録に富めり。

其當時に於ては民主的人民も、農業に専心し私有財産を保有する家居的人民も存在せざりしを以て平等は確保せられざりしなり而して家居的人民は集團的制度の下に於ては桎梏を受けて個人的行動と人格の飛躍とを許されしものとす此對象として我アルゼリヤに於て共同的所有者にして貴族的組織をとれる純アラブ種族と個人的所有者にして民主的組織を有するカビル種族とを擧ぐることを得べし。

試に原始的社會の跡とも云ふべき前述したる露のミル、ジャバのデサーを繙ぬる時は所有權は徐徐に自然的結果として人類の努力より生じたるものなることを明にすべし。

以上の共有制度につきても二種の私有財産の起源を認むることを得べし (一) は家屋及其隣接圍繞地なり文化の第一階段を踏破したる人民に於ては如何なる者と雖常に共有に屬せざる家

屋或は小家と其周圍に數尺の土地を有すこれ人間の品位家族家政等の事情が然らしめたるものなり (二) 第二の私有財産は原始社會に於て見ることを得べく動産即ち勞働用具食糧家蓄これなり。

同一集團の人類間に於ける不平等は動産の所有權に始る動産所有權の不平等と云ふ事實が星霜を経るに従ひ原始的共有の桎梏を破り土地自體をも私有財産の目的物とならしむるに至りしなり。

土地の共同的所有を實施する露のミル、ジャバのデサに於ては住民に對し其村落を圍繞する田野を分配すと雖も器具食糧家蓄等に至りては各住民が所有せしなり其中のある者は儉素を守り伶俐にして其配當分を管理し周約的に耕作し雜草を艾除し家蓄を保存し其得たる生産物の全部を費消せずして一部分を貯藏すかくして比較的富裕となるなり。

他の者は活動すること少く怠慢にして聰明を缺き土地の管理當を得ず收穫少く食糧の貯藏をなすことなし家蓄勞働用具の保存をなさず從て家畜種子適當なる器具を所有せざるに終るものとす。

次期の分前來るも其分前を利用する能はず自己よりも精勵にして伶俐なる同村の人々に談合せざるべからざるに至りこれに其分前を讓渡し使用せしむ家蓄勞働用具を管理する能はざる者は土地の分配に與るを得ざるものなりとする村の慣習をすら生ずるに至るかくて多數の家蓄と

多くの貯藏を有する者は至る所重きを爲すこれ事物自然の性質なりと云ふべし資本なき者は自己の計算に於て耕作する能はざるものなればなり。

かくの如く原始的共有に於てもやがて住民の二階級を生ず露のミルの言葉によれば強大なる家族貧弱なる家族と呼ぶものこれなり強大なる家族は勞働に對する熱心利發聰明を有するものにして貧弱なる家族とは天性怠惰にして濫費の習癖ある者なり事物の性質上土地は前者の所有に歸し後者の手を離るるものとす。

以上の如き原始的小社會に對し土地所有の不平等を生せしめたる他の理由あり當時にありては村落の附近に所在せし耕蕪地遠隔の休耕地又は川筋に存在したる土地も分配せられしなり然れ共以上の土地は勞力を要すること大なりしを以てこれが耕作を見ざりしなり。

さきに述べたる強大の家族は勞働趣味と方法を有し流動資本器具貯藏家蓄を備ふるを以て不毛に委せられたる土地を開拓しこれに圍繞を施し播種し小石を除き乾燥し灌漑するに至らんかく爲すにより損害を被る理なし強大なる家族は有利なる貨物の生産を増加し農業勞働の需要を大ならしめ開拓資本を管理する能はざる不明の者に對し報償的先占を取得するに至る原始的社會に於ても荒蕪地森林は除々に開拓せられ土地は凡て私有財産となるなり。

村落の附近にありて原始的に分配し又は割當てられたる土地と雖も年々二三年目五年目十年目二十年目の間には大なる差異を生ずるに至る通常文明國に於ては土地は終に永久的所有物と

なるものとす。

生産改良せられ人口稠密となるに従ひ土地は短日月を以てしては報償を得又は回收—能はざる資本の前借を要す例へば土地の乾燥、灌漑工事、果樹の栽培、初めは簡易の建物より後には堅牢の永久的建物を要するが如し—一時的又は短期の所有に土地に資本が化體することを許さず労働用具家畜の保存貯藏をなすことを怠り自己の計算により耕作をなし得る状態外に置かるる者あるを以て住民間に土地の分配を仕直すも何等用をなさざるものなりと言はざるべからず。

以上述ぶる所は不動産所有權の正確なる起源なり歐洲の東部、亞細亞に残存せる農業社會に於ては今日も尙其特質を有するものと認むることを得。

土地所有權の發生は勞力と節約によること大なり。

所有權の歴史的段階——於此社會の進化に従ひ所有權の段階を生ず第一は單純なる動産にして勞働より直接生ずる果實獲物捕獲したる魚類土地より生ずる果實等は原始的私有財産を形成するものなり次に擧ぐべきは各人が製作せる労働用具にして矢網鉄鶴嘴これなり第三に來るものは精英なる人間により爲されたる貯藏なり蔽舎、小屋、天幕、草小屋の如く材木と粘土とにより作られたるものを生ずるに至れば私有財産は既に完成せられたるものなりと云はざるべからずこれと同時に人智の發達は家畜を馴育し注意を以て之を保存し繁殖せしめ個人の主要なる

富を形成せり社會進化の程度更に高まるときは村落に居住する家居的人民も其一般的本能により家屋及び近接圍繞地果樹園の私有財産を有するに至る特別地の一角に行き届きたる周約的耕作を爲すにより人類は自然の支配者となる其後節約及び企業心に富める人々の努力により荒蕪の状態より耕作に適するに至りし土地も私有財産の範圍に入れり人類の行爲は牧場に對し鋭敏ならざりしかば牧場は永久分割せらるることなかりしなり森林も山間の土地と等しく多年個人的所有物とならざりきこれこの種の土地に對しては人力の及ぶ所極めて少く資本の影響も大ならざりしを以てなり佛國に於ては一小部分に過ぎざれども獨逸スウイスにありては森林、高地の牧場、アルプス地方は少く其其の大部分は團體的所有物として村邑市町村國家の所有に屬せり然れ共其他の團體的所有權は全世界に所屬するものとなすは正確にあらず各村又は各地方は其附近の村落、地方新來者、新興の住民がこれを使用するに對し熱烈に防衛するものなればなり私有財産權はかくして所謂團體的所有權と同じく人類の本能に出ず換言すれば私有財産權が隣人の侵害に對し警戒的熱心を以て守護せらるゝと等しく地方又は國家の共有財産權も他の地方又は國家の共有により侵害を被るを防禦するものなり。

以上は土地に對する所有權發達の順序にして始め貨財は凡て人類の共有として現れ來りしなり前章に於て論述せるが如く所有權は漸次發達して科學文學藝術等領域にまで及び又人民が漸次所有權を承認するに至りしたため所有權は日々無限に其數を増加し種々の權利を創設せり。

私有財産に對し行ふべき社會の役目——人類は本能により行動するものなれば之に對し束縛を加ふるは人類をして肉體的又は智能的に大なる努力をなさしむる上に拙劣なる方法なりと斷定せらる又各人の精力を最大限度に達せしむる唯一の可能的有力なる方法は之に拘束を加へて時間の制限をなすことなく各人の生産する事物及び事項に與へられたる手段と改善を正當充分に享樂し得るを保障することにあることを明にせり所有權には其個人的持分よりは遙に超過せる社會的持分なるものあり英佛の北部の如く周約的に耕作せられたる地方にありては所有者は小作料として僅に總生産の四分の一、五分の一、六分の一を受くるに過ぎずして殘餘は賃銀各種の費用租税に充當せらる製造工業にありては企業主が總生産額の一割乃至一割五分以上を利得するものは稀有なり性質高等なる所有權に至りては大に寛容すべきものあり技術家ベセメルは世人の傳ふる所によれば特許證により二千五百萬法の財産を作りたり然れ共ベセメルの製造方法により節約するときは二億乃至三億噸の鋼鐵製造に付き年に六七百萬噸の増收を以て生産し得るなり國家彫刻家詩人は一枚の繪畫一個の彫刻一の戯曲により一萬法二萬法乃至五萬法を獲得することを得一見其報償高きに過ぐるが如しと雖もこれにより無數の人類が數世紀を通し其作物を觀想し或は讀書して享樂することを得るものなるを思へば必しも高價なりと言ふべからざるなり。

されば所有權はこれが社會に與ふる大なる利益と其永續性に對し社會が支拂ふ輕き年賦金な

りと考ふることを得べし。

土地所有權に對する批評——所有權又は特殊の所有權に對し批難を加ふるものあり而してこれ吾人の默過する能はざる所なり。

多數の國と言はんよりは總ての國家の歴史に於て見る如く太古にありては始め土地は征服者借奪の目的物なりしなり紀元四五世紀に於てフランクはゴールに於て羅馬人の所有を掠奪せしなり而して羅馬人は屢々ゴール人の所有を侵したるなり九世紀より十世紀に亘りてノルマン人はある州に於てフランク人の所有を沒收したりしなり。

私有財産權は恢復し難き惡徳に感染したるものとなすべきか現今佛國領土の一片を占有せる中産階級及び農民は不正なるものとして論駁すべきものなりや

この説の維持し得べきものにあらずして嘲笑すべきものたるは明なり始めの借奪は極めて古きものにして借奪せられたる土地は連続せる數十代の家族の勞力により買戻したるなり今日見る土地は圍繞を有し肥料を施され植物繁茂し建築物設置せられ種々の耕地改良を加へられたるものなればゴール、フランク又はノルマンの海賊が有したる土地とは全然異なるものなり其土地は八十代乃至百代の勞働者が相繼ぎて勞作したる地層なれば侵略の跡を尋ぬるには特に微妙なる人心の作用に待たざるべからざるなり。

然も尙論駁すべき一事ありゴール、フランク、ノルマン以來十世紀十五世紀十八世紀間を通

し住居せる家は無かるべく又この間同一の土地にありて他より掠奪を被らざりし所有者は殆んどこれを見る能はざるなり。

現在假に佛國に於て七百五十萬乃至八百萬人が土地を所有するとし此中一百乃至二百人が古代よりの所有者なりとすることは博學の士と雖も之を認むること難事なるべしこの微細にして粗漏なる統計は暫く措きて論せざるも佛國に於ける現在の土地所有者は總て自然の狀態に於て在るが儘の原始的土地を得たるものにあらずして之を買求め又は祖先が獲得し或は對價を支拂ひて得たるものを祖先より讓渡せられたるものになりと考へざるべからず土地所有者は契約により之を占有取得したるとき通常對價を支拂ひたるものなれば土地の自然的能力の利益を獨り享樂するものなりとして批難するは當らざるなり地租は通常所得の一割二歩乃至一割五歩に及び財産移轉税は少くとも一世紀に付き三四倍甚しきときは七八倍に達し社會に對する土地の價格の主要部分をなすものなれば土地が大なる勞力と數世紀を経て土地に化體したる無量の資本を要せずして自然に生産する報償よりは遙に大なるものとして表るるものとす。

現在の土地所有者に對しては強請する所なからしめよ土地の取得者又は最近現金勘定により取得したる者に對しては太古行はれたる借替につき其責を負はしむべからざるものとす如上の歴史的考察に基き土地所有の是非を云爲する者は次の有名なる標語を忘却したるに由る「時効は人類の保護者なり時効即ち延長せられたる時の行動により又は自然に生じたる新しき狀態に

より經過したる長き時間は最初罪惡なりと確認せられたるものをも償ひ以て人類を平穩に生活せしむる唯一の手段となるなり時効を認めざらんか世界は混沌たるに至らん」。

私有財産權は國家存立の基礎なり——國家も亦個人と等しく時効の保護を受くるものとす。國家が其の領土の所有權を保全するため主張し得べき權利は個人が其の田畑を保護する權利と同一のものなることは今日に至る迄尙充分には認められざりしなり國家及び市町村が有する所有權と自由權とは不可離の關係に立ち個人の所有權と自由權とに結合せらるる所有權と自由權とは公法國際公法及び私法の基礎をなすものなり。

國家が占有する領土の所有權を是認し得る唯一のものは其永久的占據と數代に亘る不斷の勞力となり個人的所有權が問題となる場合には占有と傳來は毫も價值なきものたるを確認せよ諸君にして單に國家的領土に對する人民の所有名義を發見せんとする者あらば予は其愚を笑はざるを得ざるなり。

例へば佛國人民が五二八、〇〇〇平方キロメートルの土地を有しノルド平原の富、セイヌ、ロアル、ロース、ガロースの豊富なる流域を含み凡て優等品を生産し有名なる酒を供給し美麗なる葡萄の産出を祝福するが如き特殊の場所を所有する理由如何佛國人がボメラニアブロシアの如き砂地の平原に住する人民に對し正義に違背する所なくして豊饒なる土地を獨占することを主張し得るは如何なる權利に基くものなりや佛人は如何なる權限に由り其の主張を維持し得る

かこれ單に永久的の古據と世襲的の移轉に由るのみ然れ共以上の條件が個人的所有權限を創設せざるならば共有財產權を創設することなく又國家の所有權をも創設せざるなり。

若し自然が生産を助けたるがためなりとの理由により個人の所有者に對し、シャトールマルゴ、クローブージュの潤澤なる葡萄を保存する權利なきものなりと抗争するものあればボルドレー又はブルニョアの市町村は其の特權的富の所有權に代り如何なる權利を有するに至るべきか又以上の如き富より除外せられたるアベイヨンの高原或はロゼル高原の住民は如何なる權利を有すべきか新參者換言すれば野蠻人、中央アジア高原のタタール、南方アジア沙漠のアラビヤ人、及びアフリカ人は何が故に自己の分前として葡萄生産地、灌漑せられたる美しき牧場地、豊饒にして收穫多き土地を要求せざるか小部分の土地はこれを先占し維持し耕作し子孫に傳ふる者の所屬とすべきか又は市町村にも國家にも屬せずして人類全體の所有となるか二者の中孰れかとなるべし。

國有財産の唯一の基調をなす私有財産を禁止せんか國民は自己の領土所有を正當に主張する權利を有せざることとなり世界は擧げて混沌たる勢力に委せられ貧弱にして野蠻なる國民は古き文明を有し富裕なる國民に對し強請權を有するに至るべし。

永久的の所有權存在の理由——私有財産權に對する他の批難は其の永久性に關してなり假令世人の欲する所なるにせよ終身所有權少く共百年又は二百年の所有權を以て満足すべき理由何處

にありや永久的の所有權制度は大なる損失と恐慌とを國家より除くものとす。

所有權の効果を大ならしめんとせば所有權は之を創設したる努力の生産物と同様に永續するものとなさざるべからず動産の所有權は動産自體と永存の期間を同ふし器械の所有權は器械自體と家屋の所有權は家屋自體と其の生命を同ふすこれ等物體の所有者が忠實なる注意と不斷の節約とを怠らざるときは財産は常に完全なる状態に在るものとす消失せしめざる様注意を用ひ之が修繕をなし改良を加ふときはそれ丈け長く所有權は存續する理なり家屋の如きは數世紀間建設せられたるが儘に存在することを得るなり。

土地に施されたる改良工事は永久性を有する土地自體と之を區別すること能はざるなり堅牢なる障壁、良好の状態に維持せられたる運河、大なる注意を以て保存せられたる水道等は數代間永存することを得べく若し之が修繕をなすに於ては無限に存續すべし今日に於て現にメソポタミアには古代バビロニア人の作りたる運河の遺物を見るなり建築物、植込地、開拓地果樹の如きは數代を経過するまで消失することなし多くの改良工事は土地を目的として施され常に之を保存する義務を負担するものとせば土地は言はば無限の期間存在するものと云ふべく土地が永續性を帯ぶる正當の理由茲にあるなり。

加之永久的の所有權に代ゆるに終身所有權、百年或は二百年を限度とする所有權を以てするとき其結果は實に戰慄すべき恐慌と生産の激減となる報償を得るに六年以上を要するもの例へば

永久的飼葉とする苜蓿ウツゴヤシの耕作の如きに至りては所有權の終了すべき確定期日の五六年前に其耕作は中止せらるべし況んや牧場を耕作地に變するが如きものに於てをや終了期限に先づ十二年又は十五年に於ては最早や葡萄の栽培をなすものなかるべく悲しむべき期限の二三十年以前には林檎樹、巴旦杏樹、柑橘類、橄欖樹の如き八年乃至十五年後にあらざれば殆んど收穫を擧ぐる能はざる果樹に至りては之が栽培を中絶すべく土地享有期間の五六十年以前には果樹の苗木を作らざるに至る苗木は通常五十年七十五年時には一世紀を経過するにあらざれば其價值少く共大なる價值を有すること能はざるものなればなり一時的占有期限に先づこと二十五年又は三十三年にして永久的改良工事例へば灌漑用柵木乾燥工事の如き又高價なる建築例せば床下造酒場葡萄耕作地方に見る酒窖の如き巨費を要するものは凡て中止せらるべしされば百年とし又は二百年とするも期限付所有權は生産を奨励する方法としては永久的所有權に對抗する能はざるなり一時的所有權は假令これが期限を長くするも必ず一定の期限を有するものなればこの期限の終了するに先づ五年十年二十年三十年五十年にして種々の修正改良即ち土地に對する資本の化體は中止せらるるものとす。

國家は土地所有者の所有期間を延期するため豫めこれと協調することを得べしと論ずるものあり然れ共相互の了解は實に難事にして疑惑、腐敗、行政權の壓迫を生じ人民の自由權を減殺すること大なるを忘るべからず官吏を使用する國家は其の領土内の土地所有者の全體に比し其

の地位恰も今日の地主と小作人との干係の如きものにあらす小作人は小作人たる待遇を受け得る數千の土地所有者を其眼前に有し各土地所有者は其の土地の管理に付き大なる利益を擧げんことを焦慮す國家が種々の事項につき創設したる大規模の專賣は必ずや壓制に流れ腐敗し易し輕微なる程度のものにせよ一國に於ける地租を全く改正するには非常なる困難を伴ふものなるは吾人の知る所なり佛國に於ては二十年以來土地臺帳の修正をなさず一時的土地所有權は長期にして一世紀又は二世紀に亘るものなりとするもこれを採用するときは政治上行政上社會上の危機を生ずるものなり土地臺帳の改正の如き之に比照するときは其弊害論するに足らざれ共尙其改訂は容易に行はざるなり。

私有財産の永久性を認むるは國家をして以上の如き恐るべき社會的危機を免れしむるものとす私有財産の永久性は改良に對し脅成を與ふることなく之を中止せしめざるものなれば生産の發達を圖ること大なり。

されば所有權が其果實を生産し國家が恐るべき社會的動搖を感ずること少く從て最も鋭敏なる商業上の恐慌を輕からしめんとせば永久的所有權に由らざるべからざるなり。

相續——所有權は相續を認容す換言すれば近親の血族又は明に指定せられたる者に死者の財産が移轉することを認むるなり其の一の形式は遺言無き相續と呼ぶるものにして第二は遺言に由る相續なり二者共に社會にとり尊重すべく重要にして利益あるものとす相續は所有權と等

しく人性の自然に基く重要な本能的事實にして歴史の發達言語政治組織の異なるにより互に獨立せる國家の間に於て多少の差異こそあれ相續を認むることを得べし。

相續の觀念は所有權及び家族の觀念と密接なる關係を有す。

所有權と家族及び相續とが密接の關係を有することにつきては皮想の觀察者はこれを否認したり家族制度は個人の所有權と相續を認むる國にあらざれば強固なる組織を見る能はずされば正確なる身分を有し姓氏を傳ふる一夫一婦の家族制度は家居僻を有し農業に従事し私有財産制度を實行し個人の相續を尊重する人民の間であらざれば殆んど之を見ること能はざるなり。

これに反して一夫多妻にして親子關係嚴格ならず身分及び特殊の姓氏を有せざる家族は團體的所有權と不確定なる相續の行るゝ所例へばアラビヤ民族又は中世の族黨に於て其の存在を見る鞏固なる家族を組織せしむると同時に個人を解放するものは私有財産制度と相續なり。

人性の本能的事實たる相續は漸次發達し確保せられざるには各種立法に於て殆んど類似的法律文例として表れたり法律は相續につき規定し努力により或は智識により又は節約により富を創設したる者は其の愛する人に之を讓渡することを得るものとせり正確なる遺言を缺ける場合に於て其最近親者が死者を相續すべきものとせらるゝは死者と特殊の愛情關係に立ち直接又は間接に死者の富の作成に參與したるものは通常寡婦、子時には兄弟にして死者と傍系血族とは富を蓄積したる共通の祖先より出でたるものなればなり。

經濟的見地よりするも相續は社會を利すると同時に個人に大なる利益を與ふる資本の増加と其保存を爲す目的とを有す相續は人類の活動と節約を刺戟し且持續的ならしむ相續は人類精神に對し其の眼界を無限に大ならしめ其事業に對し永久性を與ふるものなり。

相續を認めざらんか個人の努力と節約は一身の需要を満足する程度に限らるべく晩年の安息と逸樂との保障を得るに於ては四五十年にして勞作を止め特に節約することなきに至り生産は遙に減少し資本の創造豊富ならざるべし獨身者の生涯の後半を見るときは家父に比し勞苦すること少く貯蓄に乏しきは事理の當然なり。

相續は假令節約家を生ずることありとするも他方に於て怠惰者を作るものなりと論ずる人あり往々世に見る如く祖先より讓渡せられたる財産に對し利用厚生するの道を知らず之を浪費して懶惰の生活を營む者あるは事實なりこれ一の弊害なれ共其弊害の重大なるを誇張すべからず浪費者はやがて浪費の結果により苛酷なる處罰を受く所有權に對し生涯注意を拂はず管理を怠り自己の資本につき深く意を用ゐず其經營を忽諸にし又社會自體にとり微妙にして重要な事業例へば文學科學技藝の研究に従事するにあらざる眞正の懶惰者と認むべき者の數は世人の重大視するが如く多數に上るものにはあらず又怠惰者の地位は一般的に漸次低下せらるるものとす。

以上を綜合するときは社會に於て近親者又は友人に遺産を移轉するにより創設せらるる勢力

と節約の増加は怠慢なる相続人により消費せらるる資本の總額に比し遙に大なり相続財産の全部又は一部を國家に歸屬せしむるときは生産と資本とを著しく減少し社會の進歩は停止せらるる相続の特定人に對しては資本となるものも國家の所得となるときは國家は全部之を消費するを以て遂に廢頽に陥る國家は官吏の飽くなき欲望と飢へたる議員連の預算に對する強請により常に苦めらるるものなれば極めて拙劣なる節約者なりと言はんよりは寧ろ大なる浪費者にして資本の破壊者を以て目すべきものなり。

死者の直系親族又は傍系親族を缺く場合に國家の相続權を認め國家が特定物を相続すること決定するは一國の資本に進歩的改良を加へんがためなり換言すれば永久的資本により國家の活動を助け進歩を容易にし漸次資本の改良を圖らんがために外ならず。

第三章 小作料と地代——大地主と小地主

地代理論の説明——學者の結論に對する辯駁——國家が土地を占有すべしとなす社會主義者の系統——大小地主の各効果

地代理論の説明——今世紀の初め地代説と稱する著名なる學說現れたり地代説は社會主義者其他の經濟學者に對し土地所有權が其始めに於ても亦現在に於ても正當なることにつき抗爭す

る武器を供したるものなり此學說は英國の有名なる經濟學者リカルドの唱へたるるところにしてリカルドは所有權に付きては毫も論ずるところなかりしと雖もリカルドより熱心にして自負心強かりし門弟等は各種の沒收的制度を高唱するため之を利用したりしなり。

經濟學の概論に於てこれが詳細を述ぶるは其所にあらざるを以て茲には此學說の根本を約言するに止むべしリカルド曰く一國内の凡ての土地が未だ占有せらるるに至らずして人口極めて粗なる時代には人は其附近に隨意處分することを得る優良の土地を多く有するを以て農業者は何人と雖も小作料地代の支拂を爲さずして土地を利用すると得土地所有者無き所に於ては選擇自由なればなり然れ共一定年月の終りに人口増加し第一等地と市場に近き土地とは凡て所有せらるるに至り新たに來れる農業者は前のものに比較して收穫少き劣等の土地又は遠く市場より離れ多くの生産費を要する土地にあらざれば得ること能はず不利の地位にある新參者が劣等にして市場より遠き土地を占有することを好まざる場合には優等又は地位便なる土地を有する者の下に來り土地の使用料として地代の支拂を爲すべきことを申し出づるを以て利ありとす地代は優等地の自然的生産力と劣等地の自然的生産力との差に相當す例へば一エクタールに付き第一等地は二〇エクトリツツルを第二等地は一〇エクトリツツルを生ずるものとすれば一〇エクトリツツルが地代なり地代は又市場の近くに位せる土地とこれより遠き土地との運搬費の差なり例へば遠き土地の收穫物の運搬費が近き土地の收穫物の運搬費に超過すること一エクター

ルに付二〇法なりとせば其二〇法が地代なり。

小作人が優等又は位置良好なる土地の所有者に對し支拂ふ賦課金も亦世人はこれを地代と呼ぶ。

人口は常に増加するものなれば其人口を養ふためには劣等又は不便なる土地を漸次使用せざるべからざるものとすされば優良にして良好の位置にある土地を所有する者は殆んど確定的に所得の増價を得て不當に増價を擴大せんとするものなり。

土地所有者が惰眠を貪れる間も地代は常に自然に増大せんとす而して地代は漸次大なる割合を以て國家所得を吸収するものなりと以上はこの學說の結論なり。

地代説より抽出せられたる結論に對する反駁——リカルドの觀察が眞理の核心に觸るるものなることは争ふべからざる所なり一の都市又は國家に於て新參者が先占者の有する優越なる位置又は豊饒の土地に對し地代を支拂はざるべからざるは事實なり然れ共學者の所謂リカルドの法則より抽出せられたる結論は吾人の經過し來れる時代社會につきて見るも謬れるものなることの争ふべからざるは明なり。

地代説を武器とせる社會主義者は現代の土地所有權は不當なるものなれば國家は必要に應じ所有者に對しては報償を與へずて沒收すべきものなりと結論するものなりと雖もこれ次の三事實を忘却せるに基因す第一世界は結局人口を以て充滿せらるる運命を有するものなれ共現代

に於ては然らざるなり第二交通機關は絶へず完備せられ文化は常に運搬費を低下す運搬費の低減は良好の位置を有する土地の特權を破壊し又は減少す第三農業技術進歩して以前劣等又は惡劣とせられたる土地に加工し良好なる農耕法を適用し收穫を著しく増加し嘗ては良好なりと看做されたる土地の優越なる收穫を減少せしむる場合多し。

以上三の考察が眞理を包含するものなることは明にしてこれ以上を論ずるは無益なりとす其結果はリカルドの法則によれば古くより所有せられたる土地は絶えず増價せらるるものなりと雖も此の法則は現代に於て一も適用せらるるものにあらず恐くは數世紀の後にありても適用を見ざるべし。

世界地圖に双眼を投じ北アメリカ南アメリカ中央及び北方アジア、オーストラリア、ニューギネア、スマトラ、ボルネオ、アフリカ全土の廣大なる領域を見るときは耕作の使用に留保せらるる土地あるは明なり。

又處女地がある年月を経過するときは十五年二十年三十年耕作し來れる古き大陸に對し同等の費用を以てして然も優越なる生産力を有するに至ることあるを思へば地代は常に増加せんとする傾向を有するものなりとするリカルドの法則は恐くは二十一世紀又は二十五世紀に至らざれば其適用を見ざるべく現世紀又は近き世紀の狀況には何等の關係を有するものにあらざることを知るべし。

他方に於て機械の進歩航海術の改良港灣の設備、地峽の開鑿等は運送賃を低下せり例へば十三ヘクターノの小麥一噸をニューヨーク又はブラーターよりハーブルに運送するには十法乃至十五法の運賃を要するのみ同量の貨物をボンペーよりマルセイユに運送するには二十法乃至二十五法を要するに過ぎざること、に想到するときは地代は常に昂騰する要素を有するものなりとする學說の空虚なることを更に確認し得べきなり。

世界が人口の増加により充滿せられ全く開拓し盡さるるが如きことは數世紀間到來することなきは明なれども若し斯くの如き場合ありとするも地代が規則的に昂騰する傾向を有することは不確實なり實に科學を主とする現代にありては農業の技術的進歩は廣大にして異常のものあるべく將來に於ても過去に於けるよりは著しきものなるべきを看過したるによる。

資本と科學とは常に自然の害惡を征服し其弊害を減少す不毛と看做されたる砂地に美しき森林と葡萄園を創造し瘦土に富潤なる牧場を創設することを得優等の土地劣等の土地と云ふ言葉は確定的のものにあらず唯農業技術の一定状態に準じて言ふのみ劣等の土地も完全なるものとなり昨日までは嫌忌せられたる土地も翌日に至り良好の土地なりと言はるゝことあるなり。

ある改良が一樣に行はるゝときは一國領土内の地代を漸次低減することを得良好の種子を用ゐるときは小麥の收穫を今日に於て二倍又は三倍となすこと可能なりとなすものあり農學者グランドー氏は一ヘクターの通常土地より四五十ヘクトリツトルの小麥を得べきことを確めた

り若し此理論が眞理なりとして顯れ麥畑の收穫が二倍又は一倍半となるに至らば此新方法を始めて適用したる者は大なる利益を受くべし然れども時の経過するに従ひ一國の全體に亘り小麥の量は今日の二倍となるものなれば一定時期の後において地代は昂騰せずして却て低下するものなるが小麥の價格も其割合に應じて亦低下せらるべし。

文明人種は生活資料品に缺乏し又はこれが騰貴を見ることなきものとし地代は物價と等しく時代に從ひ極めて變動的なる動搖を被るものなり。

國家が土地を回收すべきものなりとする社會主義者の學說——リカルドの學說より抽出したる一派の學者の結論に従ふときは國家は土地所有者にのみ歸屬する所謂自然増價を利するため土地を買ひ上げべきものなりとなすなり其結果如何なるべきか。

リカルドは一八一七年かの有名なる學說を發表せり其當時にありては地代は一般に昂騰を繼續せしなり予の考ふる所によれば地代は一八二〇年より一八二五年に至る間は非常に高價なりしを以て英國政府は田舎にある全耕地の買上をなすべかりしなり然るに數年を経過したる一八三〇年の頃には觀察者も實驗せる如く地代は一〇%乃至二〇%の比を以て下落し始めたりされば政府は莫大の損失を被り財政上悲境に陥りしなるべく失望の結果再び土地を私有財産となしたるは疑なかるべし然れ共予の想像する所によれば英佛に於ける國家による土地買戻は一八六〇年より一八六五年の頃迄試らるべかりしものなり地代は年々自然的に増加するもの如く大

飛躍をなしたりしなり。

國家は此進行が尙繼續すべきを確信し其當時の收穫を基礎として土地所有者より土地の買上げをなすべし然れ共一八七七年又は一八七八年の始より予が本書を記述する頃迄は地代の昂騰は既に止み強烈なる農業上の恐慌起り全舊世界の農業所得は二割三割時には四割の激減を見しなり所得は絶えず増加するものなりと確信し土地の買上げをなしたる國家は財政上の破滅を招きしなるべし。

以上述ぶる如く地代は主として變動的にして種々の影響を受け時には急激なる影響をも被ることあり地代は國民所得中の増加部分を表すものなりとなす説も亦大に誤りされば佛國の耕作地が生ずる純所得は國家所得の全體に比して二億五千萬法に上ることなし而して國家所得全部は二十五億法なりと評價せらる地代が國家所得に對する割合の論するに足らざるは明なり。

一派の社會主義者例へば米人ヘンリージョージの如きは國家は土地の買上げをなさずして凡ての自然的増價を吸収する地租を重課すべきものなりと主張せり此種の學說系統は古くより世に知られ又實行せられたる所にしてトルコ人及びマホメット人の間に行はれたり地租は甚だ變動的にして開拓費に超過する部分と土地所有者に對する僅少の利益を吸収するものなるを以て其の結果行政上非常なる煩累を生じ官吏の腐敗專斷となり遂には農業者を失望せしめ農業上の進歩を生ぜざらしむるに至る。

社會主義者の學說は往々幸運なる機會のため利益を受くるものなりとの觀察に基きて奇異なる實際上の結論に達し個人が利用し得る凡て幸運なる機會はこれを奪はざるべからざるも個人が其身を滅すに至るべき不幸なる機會は之を放任せざるべからずとなすなり不幸なる境遇はこれを忍ばざるべからざるも幸運なる境遇は利すべからずとなす條件に於ては個人は落膽し失望と怠惰に陥り生活に必要な以上の努力は毫も試みざるに至り進歩の見るべきものなく社會は遂に廢頽に赴くべし。

大土地所有者と小土地所有者との效果——永久的私有財産は公共の繁榮と自由とに便利なる唯一の制度なることにつきては既に述べたり今茲に論せんとする他の問題は大地所有者と小土地所有者との效果如何二者中孰れを可とすべきかと云ふことなり。

通常大生産は小生産に比し其の利益大なることを説けるか右の觀察は特に商工業に其の適用を見るものにして農業に關しては多少の變更を加へざるべからざるものとす。

小土地所有と小農耕とを唱ふる者は小農の效果を述べ小土地所有者は大土地所有者よりも周約的方法により耕作すること多しとなす土地は其所有者に對し嗜好を著しく活潑ならしめ考量と注意と慈愛との對象物となる小土地所有者は其土地に對し自己が貢獻する時間の測定を忘れ通常一日労働時間よりも多くの補足的時間につきても喜びて労働す小土地所有者にして一日労働時間八九時間を下るものは稀有なりこれ恰も母の子に對する注意の如しされば小農夫は往々に

して岩層の土地を變じて田圃又は農園とするが如き奇蹟をも爲すこれ等の奇蹟は倦ます量るべからざる勞働より成り其の勞働は大なる報償を伴ふ喜悅に於て之を見る。

大農業の監督は大工業に於けるよりも遙に困難なりと論ずる者あり農業の仕事は其の種類多く又不慮の天候の變化によるものなれば工場に於ける仕事の如く一定不變の方法によりて爲す能はざるものなり勞働者は工場に於けるが如く一室にあらずして田野に散在するものなれば其管理容易ならず農業會計は工業會計に於けると同一程度の精密と正確とを有すること能はず其の結果農業經營にありては大生産の有利なる原則は甚しく輕減せらる然れども小土地所有者の主人の眼は田野の勞働に於て却て其効果を發揮するものとす。

農業に於ては機械の效用大ならず而して設備の經濟は所謂製造工業に於けるより容易ならざるを附言する者あり然れ共この觀察は前の觀察に於けるが如き眞理を包含せざるものとすアメリカに於て證明せらるゝが如く機械は農業生産に於て大なる地位を占むることを得而して其地位たるや日進歩する科學により擴大せらるゝなり。

例へば耕作機械、播種機械、收穫機械、刈取機械、打穀機械、輕便鐵道電話等の如し稍工業的性質を帶ぶる葡萄甜菜の耕作家畜の飼養の如き大設備を要するものにおいて若し小設備を併合して大設備と爲すに於ては同一の生産に於ける資本及び一般費用を著しく節約することを得べし。

一二萬ヘクトリツツルの酒を容るに足る巨大の樽を藏し得る廣大なる穴倉、數十萬斤の牛酪又は乾酪を製造し得る牛酪又は乾酪製造所、廣大なる蒸溜場又は澱粉製造所等は多數の小工場を合せたるものに比し其建築費用少くこれが維持と手間は二十分の一又は百分の一にて足り然も小工場を併せたるものと同等の生産を爲し得るなり。

穴倉、牛酪製造所、蒸溜場、澱粉製造所等の小規模に散在分立せる高價なる設備を有する多數の者を糾合するときは大なる集中設備の出現を期し得べし實に結合的精神は小農業に於ては困難なるものに屬すれども漸次一の必要物となれるなり小農業が生存し繁榮せんことを望むなれば漸次結合的精神に感染せられざるべからざるものとす。

尙經營良好なる大土地所有者に對し殘されたる利益は智識上及び科學上の優越なる點にしてこれに資本の優越が合致するものとす大土地所有者の主要なる智識の優越と其應用とは農業進歩の一條件なり南フランスに於て葡萄を殘害する葡萄微菌を絶滅する硫黃の輸入を爲したる者は大土地所有者なり其後に至り葡萄微菌を豫防するため炭素の沈澱物又は炭素硫化物を使用し葡萄病を絶滅するため硫酸銅を用ひて破壊せられたるフランス産の苗木に代ゆるに抵抗力強きアメリカ産の苗木を用ひたる者も亦大土地所有者なりしなり北部及中央フランスに於て順繰り耕作法を變更しグラントー氏の教示したる完全なる種子を試用し甜菜糖を輸入し家畜の特質を改良したる者は凡て大土地所有者なりしなり大土地所有者にして才能あるものは小土地所有者

を教導して範を垂るるものとす大土地所有者なければ一國の農業は舊慣に陥るべく大土地所有者は科學應用の源泉たるに止らず大事業の資源をなすものなりカントン内に於ける經營良好なる私有の大土地は何物も之に代る能はざる郡立の學校なりと云ふことを得べし。

然れ共農業と工業とは其間差異あり通常大工業は小工業を破壊するものなれども大農と小農とは却て全體として和合し相互に其用を爲すものなり大農はこれを圍繞する小農に對し極めて有用なるものとす大農は小農に良好なる仕事を與へ小農が餘分の時間を有する場合には自己の田圃の耕作に従事することを得しむ其餘分の時間の多少なるを論せずそれにより生産する所は兩者を利す小土地所有者の附近に管理良好なる大土地の存する限り小農は最も良く其繁榮を期し得べし。

大中小各種の土地所有者が存在することは三者中一も消滅せらるべきものにあらざるを期するにより其利益を有するものとす。

小土地は都市の郊外又は村落に存在する場合に於て特に其位置良好なるものと云ふべし小土地は往々過度に區分せられ錯雜を來すことありこれに對しては法律は租税の免除によりこれが移轉を容易ならしめざるべからず又小土地所有者は土地を伶俐に改作せんとする者に對しては快く承諾をなすべく往々獨逸に於て見るが如く法律により強制するの必要を生ぜざるに至らしめざるを可とす。

第四章 利子分配に於ける資本の作用

利子附貸借の性質——利子は資本の性質上必然的に生ず——利率に影響を及すべき條件——

——利率に對する文明の一般的傾向

利子附貸借の性質——本書の始めに於て資本の生産に對する主要なる奉仕を明にせり資本に對し報償を與ふるは正に然るべき所なり資本に對し與へらるる報償は利子なる名稱を受く一定の時又は國に於て資本使用の慣習に従ひ資本の借主が貸主たる資本家に對し一年間其金額の使用に對し該金額返還の外に各百法に付き四法、五法又は六法の支拂を爲すときは利率四歩、五歩又は六歩なりと云ふ満期日に返還せざるべからざる百法は資本を成すものにして借入期間中毎年支拂はざるべからざる四法、五法又は六法を利子と云ふ。

利子附貸借の正當なることにつきては一派の哲學者宗教家社會主義者より反對ありしなり嘗て一派の人々が資本の利子が正當なることに關し疑惑を抱きたる理由は世人が資本と其の代表者にして單に資本の處分を甲より乙に移轉する用を爲すに過ぎざる貨幣とを混同したるに基因す金銀貨幣としての百法は一年の終りに於ては確實に元のままにしてこれより少きものにもあらざるなり世人が利子を以て貨幣が貨幣を生じたるものなりとなすは明に其性質に反す。

この觀念の誤れるは明白にして世人の争ふ能はざる所なり資本は金錢と混同すべきものにあらず甲が他人より一千法又は一萬法を借用するときは其貸借は現金又は同額の爲替手形或は小切手即ち銀行手形の引渡によりて終了するなり然れ共以上の外見により終りを告ぐるものにあらず。

借主の現實に取得する所は貸主に屬する力なりこれ節約又は過去の勞力により得たるものにして一定價格の限度まで社會の財産より自己が欲する各種の目的物を獲得するものとす一千法一萬法十萬法の借入金により借主は自己の好む所に從ひて小麦家屋田畑犁家畜各種の勞働器具を買ひ求むることを得るなり。

所謂資本と稱するものを組成するものは勞働用具及び貯藏なり古代にありては基督教は資本と金錢とを區別すること能はざりしがため資本の利子につき好感を有せざりしなり其後基督教會が幾多の分流を生ずるに至り其中の二宗派は資本の利子に對する解釋と辯明とを與へしなり一はカルビンにして他はゼニスと教徒なるが資本利子のため其冤を雪ぎたる效績を有し資本利子は自然的現象にして毫も正義に違反するものにあらざることを證したり。

カルビン曰く貨幣が貨幣を生むものにあらざるは明なり然れども貨幣を以て土地を買ふときは土地は凡ての手間賃を支拂ひて純所得を生ずべく賃料を與ふる家屋を購求し得べく、牛乳を與へ其飼養と保存に要したる費用を支拂ひ得る牡牛を購ふことを得べしカルビンは貨幣により

獲得する實際の資本と資本獲得の手段たるに過ぎざる貨幣自體とを明に區別したりしなり。

ゼニス派は正確なる分析を試み商工業に於て資本のなす職能を明に識別せり。

利子は資本の性質上必然的に生ず——資本の特質は其程度に於て差異はあれども凡て人類の生産を助るにあり野蠻人に小銃を、職工に裁縫器械を、土工に兩輪腕車二輪車又は馬を、漁業者に小舟を貸すとせよ野蠻人は空手と山間の馳驅によりて得るよりは小銃を用ゐるときに多量の獲物を得べく職工は單純なる針を以てするよりは裁縫器械を用ゆる時に多くの仕事を爲すことを得べく土工は兩輪腕車荷車或は馬を使用する場合に於てこれ等の用具を用ゐざりし時に比して多くの土砂を運搬することを得べく漁業者は小舟を有せざりし時に比し多量の魚類を捕獲し得べきこと明にしてこれ等の例は枚擧に遑あらざるなり農業器具器械機關車につきて見るも其理由同一なりとす。

資本は借主の生産力を増加するものなれば借主が資本の貸主に對して自己が得たる生産の増加の一部分を與ふべきは自然の理なり資本の貸借をなさずして貸貸をなすことあり例へば小銃裁縫器械一輪車馬箱車乾草器械刈取器械を貸貸するが如しこれ等の用具を長く使用する必要なくこれを購ふ能はざる場合には一日一週一ヶ月一定の金額を出して貸貸するものとす貸借は貸貸に同じされば世人は資本の賃料は利率を指示するものなりと云ふなり。

箱車馬裁縫器打穀器を借りたる者は貸主に對し一ヶ月或は六ヶ月又は一年の終りに生産器具

を以前の如く良好なる状態に於て返還すべき義務を免せらるるものなりとは何人と雖も主張せざるべし借用せる物の使用によりて仕事を爲し其生産力を増加したるものなれば増加の一部分たる何物かを附加して返還せざるべからざるものとす。

他方に於て資本の貸主は一時資本を奪はれたるに等しきものなれば自ら損失を被る貸主が其用具を必要とする場合を生ずるも其器具を自己の手計に所有せざるを以て損害を招くべければなり且貸主は器物を毀損せらるる危険を負担し又往々にして滅失せらるることもあるなり何となれば借主は器具の使用につき誠實を欠き又は拙劣にして無資力なることあるべければなり貸主が以上の如き危険に對し其報償を受くべきは自然の理にして半年一年六年の終りに於て單に貸したるものの返還のみを受くることは貸主に對し一の報償をも與へざることとなる其故如何と云ふに毀損及び滅失の機會につきては今暫く論せずとするも人生は短く其運命も亦窺知すべからざるものなれば將來の富は現在の富と其價值を同ふせざるものなり現在の富を將來の富と交換することは現在の富を引渡す者に損害あるものなり然るに一方に於て借主が伶俐にして努力家なる時は借用額を以て生産力の増加を圖ることを得他方に於て貸主は貸借期間中偶然自己が必要とすることあるべき物件の使用を奪はれ且毀損滅失返還の遲滞による危険を負担するものなれば資本が利子を生ずるは寔に正當なるものとす。

利率は一の射伴契約にして一定の金額に對し豫め一定せられ上述の理由に基き貸主が正當に

受くべきものなり。

資本金子の借主に對する利益——資本金子は借主に對しても亦利益あり資本の所有者が貸借により毫も利益をも得る能はずとせば其所有する金額を貸與せざるに至るべし友誼献身慈善にあらざれば最早や貸與することなかるべく而して以上の場合には全く例外に屬するなり。

貸主は仕事の用具を得るがため借金をするものにあらずして單に其消費享樂を増加し生産的部分を抽出するにあらずして資本を浪費する弊ありと論する者あり。

如此場合を生ずることあるは事實なれ共通常貸主はこれが區別を爲し得るものにあらず借主は其借用金額を合理的の使用換言すれば生産増加のため用ゆるものなりと考ふるものとす。

尙貸主中には極めて高利なる金銭貸借をなすため無謀の人をして過度に不生産的濫費を奨励する輩ありこれ世人の高利貸と名くるものなり高利貸の弊害は利率の極めて高きことよりも不正に少く共不道德の悪用により無謀の人々に對し借金を奨励し遂にこれを破滅せしむるにあり高利は悪弊にして利子附貸借の腐敗なり法律は往々高利を處罰す然れ共高利に對する法律の干渉は不道德なる悪用手段が明に證明せらるる場合を除きては其効果を顯さざるものとす然れども少く共道德が利率を増加し單に弱者の感情を利用せんと努むる貸主を罪人として烙印を附したるは理由ありと云ふべし。

利率に影響を及す條件——利率は全國につき一定の期間をとりて考察するときは一一般的原则

に支配せらるる利率は純然たる氣まぐれにより定るものにあらず其結果 (一) 流通資本の潤澤 (二) 資本が現在の農商工業條件に於て有する生産力 (三) 借主殊に生産的借主の量と熱心例へば工業家商人農業者の如きこれなり (四) 一國の一般状態及び各借主の特殊の地位が受くべき部分的又は全部的損失の危険利率は資本の通常の報酬の外に危険の蓋然性に對する保険料の如きものを含むものなれば危険の大なるに従ひ利率も亦昂騰するものとす。

利率は通常舊國より新興國にして自然の生産力大なる所に於て高しこれ新興國にありては資本潤澤ならざればなり資本は未開拓地及び文化事業未だ其の緒に就かざる國に用ゐらるに於て生産力を遙に大ならしむることを得要する新興國に於ては社會の基礎未だ安定ならざると同時に企業家大胆にして資源鮮きを以て其危険大なり。

社會に活氣を添へ生産的に使用せらるる巨額の資本を要するが如き大發見ある時は利率は忽ちにして上騰す始めて蒸氣力を機關に應用したる當時一八五〇年より一八六五年の頃に於て見たるが如し然るに大事業完成を告げ舊國に於ては通常の經營以外殆んど其要を見ざる場合例へば一八七五年以降の歐洲に於ては利率は低下せられしなり。

されば利率は屢變動し動搖するものにして感受性大なる商工業に於て特に然りとす。

利率に對する文明の一般的傾向——文明により影響せらるる、一般的の傾向は時に避くべからざる動搖あるを免れざれば共漸次利率を低下せんとするものなり。

利率を低下せんとする傾向の原因と見るべきもの左の如し。

(一) 正確にして敏活なる裁判及び商工業者より漸次一般的に普及せられたる手續の確實により取引の安全は益擴大せられんとす法律の不確定裁判の專斷不秩序より生ずる一般的の危険も亦減少せりされば危険に對する保険料として顯るゝ利子の一部分は通常の場合に於ては減少せらるるものとす。

(二) 節約による資本の絶へざる増加は益々大ならんとす無名會社は大企業經營のため零碎の金額を集むるに容易なるを以て有價證券株券債券は廣く世に行はれ銀行は各地に支店を設置し幾多の貯蓄銀行郵便貯金局生命保險會社等は節約心を刺戟し投資の機會と方法を増加したりされば節約の一部分は往時に於ては少く共一定の期間利用せらるることなかりしも今日にありては一定の形式により直ちに資本市場に顯るるに至れり貸銀の増加せるため現在に於て勞働者は往時に比し多くの節約を爲し得るに至れり教育は先見の慣習を開發し嘗ては其根淺かりし節約の苗を深からしめたり逐年新なる資本が潤澤となりしことは長日月に亘り利率を低下せしめたり。

(三) この傾向は發明と發見が重要な地位を有することなく平凡なる適用の行はるる時期に於て直ちに實現せらるるものとす社會の凡ての時代及び凡ての狀況が資本の大生産力に對し便宜を有するものにあらずされば一八五〇年より一八六五年に至る迄大鐵道網建設の

ため使用せられたる資本及び主要都市の水道及び瓦斯企業に用ゐられたるものは著しき生産力を顯したれども一八七〇年より一九一〇年に至る迄第三級の鐵道を建設したる時は運輸の利益を受くること大ならざりしなり又小都市に水道及び瓦斯事業を起したる際も其生産力少かりしなり主要なる文化事業の完成を告げたる舊國にありては利率は低下せられんとする傾向あり。

されば資本利子を低下するには通常三大原因あるものとすこれに反して偶然の三原因が往々利子低下の進行を緩和妨止することあり即ち (一)大発見大發明ありて廣く急に實際適用せらるる場合、これ等の発見及び發明は巨額の資本を要すると共に大なる報償を受くるものなり (二)資本が新興國に輸出せられ主要なる文化事業が未だ完成せられざる時この輸出は人を移住することなく單に外國會社又は外國の株券債券の應募によりて爲さる舊國に於ける資本の過度の低下を妨止するものなれば資本の輸出は害惡なりと言ふべからざるなり (三)戦争及び國家又は個人による過度の奢侈に基く出費、この第三の原因は一も報償を與へずして資本を破壊するものなれば弊害あるものなり。

以上を綜合して考ふるときは一般的三原因は永久的に資本利子の低下に影響を與へ他の偶然的・一時的三原因は往々この低下を阻止せんとす然れ共以上諸原因進行の結果は利子を低下せんとする決定的傾向を有するものなり。

作事や十の割合で
半は老、減る人

第五章 企業主の利潤——利潤の原因及び要素

企業主の役目——利潤要素の性質——企業大利潤の特殊要素——ある種の企業主が例外的利潤を得るは其企業が社會全體に對し利益を與ふる證據及結果なり——社會主義者の企業主の職能に對する説明の矛盾——利潤低下の傾向

企業主の役目——工業商業農業の企業主の職能は社會經濟の作用中最も高等なるものなりこれ等自由職業にして法律の規定により何等妨げらるる所なく各人は其才能に従ひ分屬するものとす企業主は生産の中樞をなし全部終局的責任を負ひ純結果は利益物質的損失名譽恥辱等となり凡て企業主に歸す茲に恥辱なる語を用ゐる所以は企業主の無資力は往々家資分散を生じ之に對して立法者は人的尊敬を侵害する結果を付したるを以てなり。

企業主の役目につきては茲に論述せざるべしこの問題に關しては宜しく本書の始めを参照せらるべし經濟上利潤と言ひ通俗語に於て儲けと呼はるる企業主に對する報償は如何なるものなるかを探究するに止めん。

利潤の性質及び要素——企業主の得べき利潤の性質及び要素につきては二種の不完全なる學說あり一は特に英に於て行はれ他は獨に於て採用せらるる甲説は企業主の利潤と資本利子を同一

視し乙説は企業主の利潤と世人の管理賃銀と呼ぶ俸給と賃銀を混同するものなり前章に於て資本利子と企業主の利潤とは全く異なるものなることを明にしたり資本利子は言はば借用額の使に對し貸主に支拂ふ報償にして同一時に於ては企業に對し同等の危険を現し同一國に於ては殆んど差異なきものとす同一程度 of 安全状態にある所に於ては利子の差異二十分之一又は五十分之一に達するを見ること少し

反之企業主の利潤は甚しく變化的なるものにして一の他に對する割合は二倍三倍四倍二十倍に達することあり企業主の人格は利潤の範圍につき重要な地位を占むるものなれども貸主の人格は利率に對し殆んど或は全く影響するものにあらざるは明白なり。

利子は一定の時及び一定の國に於ては殆んど不變安定にして緩慢漸進的の波動を受くるに過ぎざるが如きも企業主の利潤は變化し動搖し個人的なり企業主の利潤を以て賃銀の一種となし労働者の賃銀よりは更に高率なるものとする學說に至りては絶對的に謬れるものなりとなすべからざるも不完全なるものなりと云はざるべからず

企業主の利潤中に第一要素として企業主の勞力に對する賃銀を包含せしむるは正確なり此に人あり多くの場合労働者と趣を異にせる仕事に従事するとせよ彼は生産の要素を結合し注文をとり原料を購ひ製造を監視し生産品を販賣す其の肉體的労働著しく大にして智能的労働は更に甚しく東奔西走して其頭腦は企業成功につきて充滿せらる然るに労働者に至りては一日十時

間の労働を終れば精神自由となり家事、妻子に對する愛情、娛樂等につき考慮するに止り之を企業主の重要な任務の企業計畫に對する注意とに比較するときは同日の論にあらず企業主は夢寐にも其重要任務の考量と工場計畫の注意により脅威せられ閑暇の時と雖も尙之を眼前に思ひ浮かぶるものとす。

同一の仕事と雖も連續的にして長時間を要し變化的なるときは多くの賃銀を受くるものなること明なれば管理賃銀なる語は企業主の勞苦に關する報償を表すものとして巧に發見せられたるものなりと言ふべしされば企業主が各自の計算に於て事業を經營し一年に八千法一萬法一萬二千法の利益を擧げ假に六千法を自己の俸給として給與せられたりとせば其俸給額は工場の僱用人又は管理者となりたるがため得たるものにして其總年所得中より企業に使用せられたる通常の資本利子を控除したる残額の管理賃銀に超過する部分のみを純所得なりと考ふべきものとす。

世人は企業主の管理賃銀は通常労働者の賃銀に影響を及すある種類の原因に由り左右せらるるものなることに注意せり其原因とは企業主間の競争即ち企業管理に對する道德的又は技術的適格の多少によるなり凡ての者が進歩せる教育を受けたる國にありては企業家たるに充分なる教育を受けたる者少き國に於けるより企業主の利潤低き傾向を有す且労働の危険が労働者の普通賃銀を増加すると同様に企業危険は企業者の利潤を増大するものなり何人と雖も永久的に危

險を伴ふ苦痛を甘受するものにあらず社會に殆んど知られざる新事業は古くより行はれ安定せる事業に比し企業主の利潤大なる傾向を有す要之に肉體的精神的に不愉快なる事業又は職業は高き利潤の報償を受く下肥汲取掃除の如き者が優雅にして社會的優等の地位にあるものに比し其利潤僅に高きのみなりとせば何人も之に従事する者なかるべし。

以上述べし所は正確なる企業少く共同一の企業に干しては一般に其適用を受くべきものとす所謂管理賃銀なる語は企業主の報償を表すにつき適切なる言葉にあらざることは依然として眞理なり賃銀は勞務一度提供せらるるときは結局獲得せらるべき報酬にして給料と同一なり各週又は各月拂に定められたる賃銀給料は勞働者使用人に屬するものにして將來の事情は其權利を無効ならしむる能はず企業主破産の場合に於ても勞働者又は使用人は其の賃銀又は給料につき他の債權者に比し多くの特權を有するものとす。

世人が企業主の管理賃銀と稱するものは全くこれと異なる管理賃銀の支拂は一年間停止せられ財産目録勘定が利益を擧ぐる年度未即ち總收入額が總支出に超過するときに於てのみ結局利得するものとすこれに反し一年間の財産目録中其受入額及び出費額の總勘定に於て出費が明に受入に超過するなれば企業主の過去一年間の苦心は水泡に歸し己れは成果を收むる權利なく徒に勞苦したるに終り勞働者及び使用人は各其分計を立て得たるも企業主に於ては然らざるなり。茲に至れば所謂管理賃銀の問題を生せずして却て管理補償なりと云ふべく而して此の補償は

一年の總勘定に於て事業經營による總受入額が總出費に超過すること鮮明となるに及び終局的に企業主の蒙るべきものなりされば企業主の利潤を構成する最も通常一般的なる主要素は一は企業主の蒙ることあるべき危険に對する賠償にして他は企業主の肉體的精神的勞苦に對する補償なり。

商工業に於ける大利潤の特殊要素——利潤少く共大なる利潤は他の要素を包含す他の要素とは著しく變動的にしてある種の企業家が有する特別的例外的才能なり。

技術的知識を具ふる状態に於ては社會はある種の工業が得せしむる満足又は生産物に對し一定の價格を支拂ふことに同意す而して此價格は製造費用を償ふに必要な總額と同等に至る其總額は利益資本の償却勞働者の賃銀企業主の事業に對する危険と苦心とに要する一般費用正當なる賠償の全體を包含するものなり。

然るに大なる活動力と才能とを有する企業主は慎重なる管理、新しき仕事の結合、器械の發明、又は其他の條件により通常賣價の基礎をなす一般元價より低廉なる生産をなし元價を低下せしむることを得るものとす企業主が以上述べたる效績と幸福を有する場合に於ては企業主の利潤は固有元價と競争價格との差異又は競争價格の大部分との差異を増加するものとす。

一工場の生産品の元價が他の競争工場の生産品の元價に比し低廉ならずして往々工業上の利潤を生ずることあるは企業主が同一の元價を以て競争工場に於けるよりは優秀純粹完全なる生

素品を提供し得るを以てなりこれがため華客は二倍三倍又は十倍となるものなれば企業主の喜ぶ所なりと言ふべし。

これ工業上大なる利潤を生ずる原因にして工場に於て同一の製造品を生産するため其の元價を低下しこれが減少を計ることは元價を増加せずして優等品を得ることとなるなり。

以上は企業主の利潤が變動的に往々巨額に達する所以なりある工場に於て品質を低下せずして通常より低廉なる價却ち十四センチメートルを以て麻布一疋を製造することを得又は五六法以下にて鐵一噸を製造することを得るとせば其利益は忽にして巨額に達すべし。

ある種の企業主が例外的利潤を得るは其企業が社會全體に對し利益を與ふる證據及び結果なり——例外的利益は社會の損失によりて得らるるものにあらずして却て社會はこれがため大なる利益を受くるものとす企業主の損失は社會自體の損失を表すものなり換言すれば社會に提供せられたる満足と生産物とはこれに對し拂はれたる努力の總計に相當せざるなり。

他方に於て企業主の利潤極めて大なるは企業主が社會に對し生産物と満足を與ふるに當り其企業主の工場又は生産方法に於て用ゐられたる努力が有效にして他の同種工場が要する努力より其程度少きことを表示するものなり例へばベセメル(英人)は鋼鐵製造費の低減により二千五百萬法乃至三千萬法の富を得たりベセメルが此富を作したるは社會の損失に於て得たるものにはあらずして其發明的才能により鋼鐵生産の必要費用を一般的に低減しこれが適用を廣く社會に普及したるものなれば社會は却てベセメルの技術的活躍により大なる利益を得たるものなりと言はざるべからず。

顯著なるベセメルの例は暫く措きあり觸れたる範圍につきて之を見るに麻布製造業者、鐵器製造業者が仕事の管理、有益なる仕事の結合、原料品の巧妙なる撰擇、優良なる使用により其工場に於ける生産品の價格を他の競争工場に於ける價格に比し一メートル又は一キロメートルにつき十五センチメートル、二十センチメートルを低減することを得たりとせば企業主の利潤は多く巨額の富を作すに至るべく其莫大なる利益は社會に損失を與へたる結果により得るものにあらずして其工場の製造元價が他の競争工場の元價に比し低下せられたるがために外ならず。

大なる利潤は社會進歩に對する幸福追及の結果なりこれ工業企業者階級が最も優良なる階級の代表者なりとせらるるに拘らず活動的に伶俐に注意深く不安を有するものとせらるる所以なり各企業者は其生産品に興味を加へ完全ならしめ元價を低減し以て他の競争者の地位を奪はんと努む而して世人は其の生産品が他の同種類の生産品に比し品質優良又は廉價なることを確むるにあらざれば其企業主に對し大なる利益を與ふることなきものとす。

企業主の才能を分ちて二とす商業的才能及び企業的才能これなり商業的才能は安く買ひて廉價に賣るにあり單に注意と應用に關するに止らず機智と直覺に待つべきもの多し即ち原料を最も完全にして廉價なる地に求め舊市場に優る新市場を發見し生産品が最も有利なる價格を有す

る時と所に賣りこれが普及を計るため新販路を外國購賣者の新しき苗床に發見するにあり企業
的才能は社會の需要品を卜知し其價格を適意に定め次に人間に對し有用又は嗜好に適する生産
品を製造するため企業を結合するにあり即ち地方的の物器械労働者通常生産費種々の仕事を最
少の費用を以て産業上の成果を收むる様組立つるにあり。

社會主義者が企業主の職能に對する説明の矛盾——獨逸の社會主義者カールマルクスは企業
主を以て獄吏に喩へたれども企業主の職能は大に之と異なるものなることは既に會得せしなら
ん假りに新舊世界より優秀なる獄吏を連れ來り單純なる企業を管理せしむるとせば其失敗に終
るや火を見るよりも明なり。

又一派の社會主義者は企業主を以て單に科學上の發明或は發見を自己の利益に壟斷するもの
なりと論ずるものあれ共これ亦誤れる主張たるを失はず果して企業主が科學上の發明又は發見
を壟斷するものなりとせば企業主は凡て成功せざるべからざる理なれ共十人中の二三は破産又
は家資分散の悲境に陥り五六は其財産を維持し或はこれを僅に増加し通常の生計を營むに止り
唯一二の者が巨萬の富をなすに過ぎざるなり。

大なる利潤は前にも述べし如く一の工場に於ける生産品の元價が同種の他の工場の生産品の
元價よりも低下せらるゝにより生ずるものなり然れ共この利益は必ず一時的にして消失的性質
を有するものとす不幸なる競争者は奮然覺醒し相手方の優越を來したる原因に付き探究し新奇

なる生産方法及び最も有利なる手段を察知しこれが應用をなすに至るべし利潤は最も優秀なる
刺戟なり。

以上の理由により企業上の優越は常に一時的のものにして優越を得たると同様の方法注意發
明心によりて防禦することを得發明成功するときは生産品の價格を下落するも以上の理由に基
くものとす鋼鐵が一噸に付き一一五法乃至一二〇法に下落したるは一世紀以前のことと過ぎ
ず。

企業主にして元價を引き下げ又は新奇にして完全なる發明をなす能はざる者は勢ひ通常の利
潤を獲得するのみ而して通常の利潤は企業主の負擔する危険を償ふ外資本利子を供し仕事の管
理に對する僅少の報償を與ふるに過ぎずされば廣く世人に知らるる舊來の安定的企業は未だ世
に行はれざる新奇の企業に比し其受くる利益極めて少きものなり。

企業主の利潤は労働者の損失又は消費者の負擔により獲得せらるるものにあらずして主とし
て管理者の人格によるものとすこれ工業を經營する無名會社は企業主の人格多數の個人に分散
せらるるを以て管理當を得たる個人企業に比較し良好にして恒久的結果を得ること困難なる所
以なり。

企業主の利潤は低減せらるる傾向あり——利率に於て見たると同じく業(業)主の利潤は舊き文
明國にありては漸次低減せられんとする傾向あり利率の低下は公債所有者及び徒食者の數を減

少す、文化は商工業者階級の熟考を促し其職業の競争を激烈ならしめんとす、教育は商工業經營に必要な知識と道德的條件を普及す商工業經營に對する危険は市場、過程、及び生産方法に關する知識の普及により減少せられ全く新奇なる産業を創設するは益々困難ならんとすされば往時にありては著しかりし利潤の率も通常の事業に於ては一割一割五歩二割なりしが六歩八歩乃至九歩に低下せらるるに至れり。

第六章 分配に於ける労働者の分前——賃銀—— 賃銀決定の方法——利益配當加入

賃銀の性質及び其通有性——賃銀は事物の性質より生ず——賃銀契約の労働者と企業主に對する各利益——賃銀契約の順應性、賃銀の配合は無限な——累進的賃銀——完全賃銀の實例——賃銀率決定の原因——賃銀に最も影響を及す原因は労働者仕事の生産力なり——人口の賃銀に及ばず影響——賃銀契約に對する社會主義者の反對——利益配當加入制度——本制度の一般適用を妨ぐる原因——各種職業により賃銀に差異を生ずる原因

賃銀の性質と其通有性——生産に於ける労働者の分前は通常豫め定められたる報酬により表さる其報酬は通常供給したる労働時間日數により或は完成したる仕事の量例へば一定時間労働

者が生産したる綿絲又は綿布の長さ或は石炭の噸數により表さるるものとすかくの如く定められたる報酬を賃銀と言ふ。

この報酬方法が適用せらるるは單り筋肉労働者に止らず人類職業の大部分をなす純然たる智能的職業に對しても其適用を見る使用人は豫め約定せられたる賃銀表により一週一箇月又は一年を標準として支給せらる醫師の謝禮は往診の回數により計算せられ著述家は著述の行數により教師は授業と其時間により報酬を受くるものとす。

人類のなす契約中仕事の時間により仕事の各單位を基準とする賃銀表により豫め報酬の定められたる賃銀程國の異れると時代の隔りたるを論せず凡てに通じ一般的に廣く行はるる契約は又他にあらざるべし如何なる契約と雖もこれと同程度の普遍的性質を有するものはあらざるなり。

社會の各階級を通觀するにこれが例外を認むることなく賃銀により衣食する者其大多數を占む若し注意して觀察せんか佛國人全體の五分之四ならずとするも其四分之三は賃銀による生活者なりと言ふことを得べし。

賃銀は事物の性質より生ず——賃銀の要素を述べ其性質の起源につき研究する所あるべし。賃銀は資本金子と同じく射伴契約の一種なり。

今茲に工場を建築し事業を經營せんとする企業家あり石工織物職工を求むとせよ又有望なる

炭坑を發見したりとなし坑夫を募集する資本家ありとせよ尙土地所有者ありその土地は葡萄の栽培に適し且葡萄樹の敵たる各種葡萄菌を撲滅する方法を有するものなりと考へ農園労働者を募集するものありとせよ。

以上三者は各競争的に求めんとする労働者に對し如何なる報酬を提供せんとするか此場合に於ては報酬の方法は事物の性質によりて決定せらる。

此には單純なる合同の問題を生ずることなきものとす労働者と企業主の合同は一般の場合には不可能なり今茲に述べたる三種のものは偶々通常あり觸れたる事業の中より採り來れるものなれ共其合同につきては特に困難となすべきものあり。

單純合同を妨ぐる三種の理由と云ふべきは。

(一) 通常貯蓄を有せず企業主の結果を待てる労働者に對しては不可能なり工場落成するには數箇月を始動機の完成には數年を要したる後にあらざれば其利益を擧ぐる能はず炭坑が生産を始むるには其礦脈發見せられてより採掘には三四年を要するものとす葡萄は十三年の後にあらざれば耕作費を償ふに至らずこの間は相應の收穫を得る能はずして出費を要するものなり直ちに其需要を満足せしめざるべからざる労働者はかく長期間待つこと能はず既に事業を經營せる工場、礦山、又は生産しつゝある農園につきて見るも其生産を賣買して豫め要したる出費を償ふがためには往々數箇月を要す労働者はかくの如く長く延ばさ

れたる報酬を受くること困難なりこれ労働者と企業者の間に單純合同を見る能はざる第一の障礙なりとす。

(二) 合同に對する第二の障害は企業の運命なり企業を考案するものは労働者にあらず多くの場合に於て労働者は企業を考案し又は支配する能力を有せざるものとす今建築せんとする綿布工場は其在荷又は販路につき有利なる條件を具ふるや否や石炭坑は採掘容易にして其捌口を有するや否や葡萄栽培業に於て葡萄樹を脅威する害菌を撲滅することを得て葡萄酒の價格を有利ならしむることを得るや否やは豫め卜知する能はざる所なり以上の事情に關しては通常労働者は知得し與らざる所なりとす労働者は企業の結果に對し疑心を抱く權利を有す未必終局的生産の報償に期待すること大なるは過誤に陥ることなしとせざるなり

(三) 労働者は與へられたる時間の仕事の力或は仕事の力を決定する一定の結果を知るがため企業者に對し正確に劃一的にして容易に測定評價し得る協力を供給するものなり例へば一日に二十米の土地を開墾せりとか綿布二米を織れりとか石炭二噸を採掘せりとか云ふが如し労働者は全く限定せられたる協力に對して豫め定められ決定的に獲得すべき一定の報酬を請求する權利を有するものにして企業の成果遠きと其企業に關知するを問はざるものとす。

企業主が工業又は農業の組織を巧に配合するとせば利益はそれだけ企業主に歸す之に反して

其結果が裏切られ成算を誤り熟慮を缺ける場合に於ては損失はそれだけ企業主が被ることとなるなり然るに労働者は毫も苦痛を感ずることなく常に其賃銀の支拂を受くることを得るものとす。

企業主は破産し社員は企業に投じたる出資を失ひ債権者は其債権の一部を損失することあるも労働者に至りては總ての者に優先して賃銀を受くる特権を有するものとすは公平の觀念に出でたるものにして慈善によるものにあらず生産に用ゐらるる労働者の性質上然らざるを得ざるなり労働者の仕事は限定劃一的のものにして果して企業の組織當を得たるや否やを判断するものにあざれば其結果により左右せらるる理なければなり

労働者及び企業者に對する賃銀契約の利益——賃銀は二の利益を有す生産の結果に對する不知より生ずる責を免れ労働者をして生産の結果を待たずして直ちに自己の需要を満足せしめ得るにあり。賃銀は規則的に日々少く共各週又は二週間毎に支拂はるべきものとす内金を交付することなく毎月にあらざれば支拂をなさざるもの、如きを賃銀の觀念中に入る、は誤れる思想なりと云ふべし。

賃銀は企業主の管理を自由になすことを得しむるにつき大なる利益あり企業主は常に労働者又は使用人とある種類の仕事が有用なりと論議する要なく其光明と智識に従ひて進行することを得べし従業員が其仕事の必要と効果とを評價する能はざる場合にありても企業主の命令ある

ときは従業員は其の作業に従事せざるべからず企業家の進歩的態度は無智の群集の偏見により阻止せらるること能はざるものとす労働者は稀には單純なる組合契約により企業に關係せざりしことを惜むことあらんも上述の理由により組合契約は一般に難事なるのみならず労働者は企業の觀念を有せずこれに對する利害の結果は管理及び指揮の一般的技巧即ち企業主の個人的才能及び效蹟によるものなれば一般費用を支拂ひたる純損失又は利得の結果が單り企業主の負擔に歸するは正當なりと云はざるべからず。

多くの場合に於て労働者が社員とならずして單に賃銀衣食者たることには喜ぶべき理由あり一八七九年より一八八五年に亘り巴里に於て一萬二千戸の家屋新築せられたり石工大工屋根職等の労働者は景氣よく其仕事に従事し一日平均七八法より九法時には十法乃至十四法の賃銀を得たりしなり然るにかく労働者に有利なりしこの事業に於て企業者十人中少く共九人までは破産又は家資分散の悲境に陥りたるなり此事業に對し貸付をなしたる銀行は其富の大半を喪失せり尙同様の實例を引證すれば一八八〇年より一八八七年に至るまで巴里に於て美術家具品を始めて製作したる者は家資分散の危険に頻したりしも却てこれに雇傭せられたる唐木細工職人は一日七八法乃至十法の賃銀を受けしなり。

されば賃銀は事物の性質に適ふ相互自由契約にして全く射倖的要素を含める企業の觀念を有する者は其の思想の如く射倖的報酬を受くるものとす而して此報酬たるや正確に豫斷すること

不可能にして企業の純結果に於て發見せらるこれに反し豫め定められ限定的にして從屬的の協力をなす人は労働時間により或は仕事の個數により完全にこれが測定をなすことを得終局の結果により取消をうくることなく獨立して直ちに其報酬を受け得るものなり。

賃銀契約の順應性賃銀契約組合せの無限なること——最も自然的契約にして普遍的なる賃銀が有する他の利益は最も變化に富む組合せをなし得る順應性を有する點にあり。

先づ第一に見ることを得るは一日拂時間拂の賃銀なるがこは賃銀の原始的にして最も單純なる典型なりこの方法は労働者の自覺心の大なるを必要とし又労働者の仕事に對し支拂を爲すべきものに於ても多大の管理を要すされば労働者の努力の結果を充分正確に測定し得る方法發見せられ前記の方法に代はるに至れり然れ共一日又は時間拂賃銀制度はある種の仕事例へば仕事或は仕事の成果が容易に測定せられざるか或は極めて變化的にして困難なる仕事の量よりも其質を重要なりとするものに於ては今日も尙普通採用せらるる所なり。

單純なる仕事即ち仕事の量又は單位により報酬を與ふるは最も完全なるものなり労働者は糸の米により麻織物羅紗の反數により石炭鐵の噸數により掘りたる土地の尺度により刈取り又は收穫したるヘクターの數により各其れに相當する賃銀を受く此制度を適用するときは其作業に従ひ各人に給與するものなれば正義に適合し雇主は労働者の仕事實行中其監視を弛むことを得るなり然れ共一定の條件を必要とす例へば仕事の困難が均一せるを要するが如し此方法を採

るにより正義に反せざるがためには生産物の各單位を生産するに要する努力の總計が同一ならざるべからざることなり尙これ等の物品は絶對的に同一の典型を有し其の間殆んど差異を見ざるものなるを可とすされば請負賃銀殊に製造工業に於ける賃銀はこの制度に適應す然れ共小工業及び大農耕の初歩的のものに對しても尙採用せらるるを見る。

累進的賃銀——種々の組合せにより請負賃銀は完成せられんとすかくて一定時間に生産したる其増加部分に對しては割増金附加せらる今假に麻布織物製造に於て普通の職工は二週間に八反を織り一反につき五法の支拂を受くるとせよ同一時間に九反を織る者は一反につき單に五法を受くるに止らず第九反目に對しては二法の割増金を受け五法の代りに七法の支拂を受くるものとする制度を立て得べし如何なる職工と雖も二週間に八反の代りに十反を織る者は第十反目に對しては第九反目に於て見るが如く二法にあらすして第二の割増金一法を合したるもの三法を與へらる結局五法にあらすして八法を得るなり。

此種の組合せ方は織物工場のみならず冶金工場其の他の工場に於ても實施することを得べしこれ余の累進的賃銀と稱するものなり累進的賃銀存在の理由は一定時に於て生産増加すれば其れに比例して一般費用賃料管理資本利子は生産物の各單位につき輕減せらるるに由る割増金又は累進的賃銀を伴ふ請負賃銀制度は労働者をして一般費用の節約に干與せしむる一方法なり。

完全賃銀の實例——原料及び損耗の節約をなすときは賃銀に對し割増配當金を加算すること

屢あり火夫又は機關手が一定の力を生産するに當り石炭の消費量を節約するを得ば其節約量に比例して一定額を給與せらるるものとす。

請負賃銀は賣價の漸増に従ひて賞與金に合算せらるることありある貨物の平均價格を二十法なりとすれば其二十法に超過する部分の五歩を労働者に給與するが如しこれ貨物の品質に労働者を干與せしむる方法にして單に多量に生産せしむるに止らず良好なるものを製作するに努めしむるものにして一般的に産業を繁榮ならしむる方法なり。

請負賃銀は生産物の價格に對し一般的數學的に漸進せしむることを得これ賃銀の階段的増減法と稱せらるるものなりこの場合に於ては定率以上の賣價増加による賞與金の問題を生ぜずして價格の如何を問はず賃銀と價格との絶對的關係によりて割増配當金を定むるものなりこの制度は英國北部の冶金工場及び石炭採掘に於て採用せらるる労働者と雇主間に於て豫め契約を締結し石炭一噸が六法に賣却せらるるときは坑夫は其採掘量一噸につき三法を得べく、七法なるときは三法六サンチームを、八法なるときは四法二十五サンチームを得るが如しこの方法は雇主労働者間に屢々生ずることあるべき争議を避くる目的を有するものなり。

かく驚異に價する順應性を有する賃銀契約は他の組合せに對してもよく適合するものなりされば賃銀契約は労働世界に於ける典型的基本的の契約なりと考へざるべからず若し賃銀無ければ何人と雖も企業の遠き不確實なる結果に期待することとなり計算の據るべきものなく日々の

需要を用意すべき道なきを以て大多數の人間の協力を必要とする多くの生産は不可能となるに至るべし。

賃銀率決定の原因——賃銀率を支配するものは何ぞや時所職業に従ひ賃銀率を變更せしむる事情如何

この問題に關しては種々の學說あり。

最も一般的に行はるる法則によれば賃銀も亦物價と等しく需要供給の大原則によりて決定せらるるものなりとなすなり資本豊富にして労働者の數制限せらるる所にありては賃銀は騰貴し資本稀少にして労働者の數極めて多きときは賃銀は低下せらるる其の結論として資本の増加は労働者に有利にして人口過度に増加するときは労働者にとりて不利なりと云ふなり。

この命題が大體に於て眞理たることは論争するの餘地なし然れ共賃銀に影響を及す問題につきては更に深く之が研究をなさざるべからずある者は賃銀は明に労働者が自己の生活を維持し其の家族を扶養するに必要な程度に於て決定せらるるものなりと論ずるは自然賃銀即ち單純なる最低限度の賃銀なりと謂ふべく労働者の報酬はそれ以下に長く降ることなし。

學者説明して曰く賃銀は永續的に世人の所謂労働者及び其家族の生活維持費以上に昂騰することなし賃銀がこの維持費の水平線以上に騰貴するときは勢早婚を促し其結果多産となり人口の増加を來す人口増加は再び賃銀を労働者及び其家族が眞に必要な生活資料を得る程度に低

下せしむべしと社會主義者は以上の理論より多くを推論し文明進歩するときは労働者は永久に悲惨の狀態に呻吟することなしとするも少く其窮乏裡に在るものなりと論結せり。

この理論は毫も正當なる根據を有するものにあらず反省と歴史に徴するも殊に本世紀に於ては労働者の地位改良せられその消費する日用品の種類は増加して眞に生活に必要な程度以上に益向上せられんとする傾向あり白パン牛肉葡萄酒麥酒コーヒー砂糖優雅なる衣類快適なる器具の如き普く使用せらるるに至り上述の理論を破壊せり以上の如き明白なる進歩は文化の發達に従ひ新なる進歩に對する希望を生ず。

賃銀に最も大なる影響を及す原因は労働者の仕事の生産力なり——取引自由にして法律により市民の平等が確保せらるる國に於ては賃銀は労働者の仕事の生産力により増加せられんとする傾向あり仕事が生産的に行はるるとき即ち一定の時間内に於て人類に對し有用にして趣味ある貨物を生産すること多量となるに従ひ賃銀は益騰貴し得る餘裕を有するものとすこれ優秀なる分業農工業に於ける技術の進歩器械等が漸次賃銀を昂騰せしむる所以なり以上の改良は總て生産を増加し雇主の有する分割量と其才能を増進し一般に社會は労働者の勢力に對し多くの報酬を與ふるものとす生産の増加によりて得べき労働者の分前は資本家の分前に比し遙に多し資本利率と企業主の利益は前章に於ても論じたるが如く文化の完成するに従ひ漸次輕減せられんとするなり。

さればある種の労働者又は組合により實施せらるるが如き一時間或は一日の生産量に制限を加へんとするものは結局一國一社會全體の生産物の量即ち分割せらるべき財貨を減少するものなれば労働者全體にとりても不利益なり。

此説は賃銀が仕事の生産力により支配せらるるものなりと云ふ眞理を唯一の論據とするものにして筋肉労働者の境遇が漸次改善せられつつある遠景を看却せる嫌あるものとす。

賃銀を論ずるに當り注意すべきは名目賃銀又は貨幣賃銀と實際賃銀即ち労働者が支給せらるる報酬により得る貨物の量との區別をなすことなり労働者にとり重要なるは實際賃銀なり貨幣は其購買力に變化ありて労働者に對し貨物を得せしむる上に於ては實際賃銀と同様の價值を有するものにあらざればなりここ一世紀以來舊國に於ては賃銀は名目賃銀たると實際賃銀たるとを問はず共に騰貴したれ其後者は前者に比し僅に騰貴したるに過ぎざるなり。

人口が賃銀率に及す影響——賃銀に對する人口移動の影響は次の條件を以て表さる人口の増加が資本の増加に超過し農工業技術の進歩に先行するときは實際賃銀の下落を見る然れ共本世紀に於てはかくの如き場合を生ぜざりしなり人口の増加が技術の進歩及び資本の増加と並行するときは實際賃銀は靜止す而してこれ本世紀に於ける通常の場合にして歴史を通し殆んど同様なり人口の増加が農工業技術の進歩と資本の蓄積に遅るるときは實際賃銀は昂騰すべきものとす。

賃銀契約に對する社會主義者の批難——社會主義者が賃銀につき屢々試みたる批難の一は賃銀契約による報酬の方法をとるときは労働者に對し其が生産する全額を與へざるものなりと謂ふにありこの批難は次の形式より出づるものにして労働者は其の受くる賃銀を以てしては自己が生産したるものを買戻すこと能はずとなすなりこの命題は眩惑的なれ共不正確のものたるや明白なり例へば靴一足を製作するにより得たる五法の賃銀を以て労働者は自己の製作したる靴一足を購ふこと能はず然れ共其理由たるやこの物品には靴職工の勞力以外の事物が合一せられ單に原料たる皮紐彈力ゴムの如きに止らず器具の使用料賃料敷地工場又は器械工場の負擔する燃料電燈料一般費用企業組織に要する企業家の商略苦心得意を求むるため又は代金の回收を計る策略等をも包含するものなればなり。

賃銀は通常労働者が其の勞力により實際生産したる所を表示するものなることを證して餘りあるは次の三條件なり (一) 企業主が労働者に報酬を與へずして仕事の一部分を僭取するものなりとすれば特に無能なるか或は悖徳の企業主を除けば總て易々として大なる利益を豐斷し得る理なれ共經驗は之に反し多くの大小工業の企業主中節約心に富み憐憫なる人も破産し或は家資分散の悲境に陥り又は少く共八人乃至十人につき一人位の極めて少數のものが眞に僅に其富を作すに過ぎず (二) 若し労働者が賃銀として其勞力に對する完全なる報酬を得る能はざるを理由とし生産合同組合換言すれば労働者の組合が個人企業主の助を借らずして工場の經營をな

すとせば充分利益を擧げ忽ち成功すべき理なれ共經驗の證する所によれば生産合同組合を隆盛ならしむることは何物よりも困難なり一八四八年佛國政府の救助によりしもの例へばランバルと名けらるる慈善家の遺産を以て巴里市が試みたる組合、親切なる個人の救助に出て資本を無償に組合の處分に委し僅少の利率を以て貸與したる場合につきて見るも凡て不成功に終りしなり (三) 労働者が其勞力による生産につき正確なる賃銀を受くることを證するものは個人的小企業家なり古靴修理工小時計商小運送業者手間職人小地主は其が使用する資本利子を除けば通常賃銀労働者の所得より多からざるものとす。

利益分配制度——約五十年以來ある種の工業にありては企業主の得る利益に労働者をも均霑せしむる形式の下に賃銀に對し臨時的附加をなすに至れり年度末に於て損益計算表に基き工場数の全員に對してとは言ふべからざるも通常其の三分之一半數或は五分之二に對し職工の在勤年數と熟練の程度により確定せる利益金の五歩一割時には二割を支給するものあり。

この制度は職工をして優良なる生産物を多量に作らしめ原料の濫費を防ぐ熱心を獎勵する目的を有するものなりこの制度の最も著名なる例は巴里のルクレール着色玻璃製造所に於て採用せらる。

この方法は管理と監督をなすにつき大なる困難ある場合、職工が隔離して働く場合、企業主の役目は二次的にして大なる創意を必要とせざる場合、主要の利益は原料の節約と仕事に對

する注意により得らるる場合等に於て特に大なる利益あるものとす。

此制度は通常言はば族長制的のものにして職工をして帳簿の保管又は管理に干與せしむることなし然らざれば小企業は暫く措き大企業にありては多くの場合混亂と無秩序の状態に至らしむべければなり。

利益分配制度の一般的普及を妨ぐる原因——利益分配制度は多くの幸福なる適用を見るものなれ共一般的制度となる能はざる理は企業家の多數が利益を擧ぐる能はざるに由る一八八〇年より一八八五年に至る間巴里の建築業者中其四分の三は破産せり然らば利益分配制度をとるときは右期間此種の事業に従事したりし労働者に對しては單純なる欺瞞に過ぎざりしこととなる大企業にありては利益金分配制度は全く労働者が自己の効蹟あるがため利得するものにあらずして企業者の手腕により利得するの結果を生ずるものなり假令此賃銀制度が族長的色彩を帯びざるに至るも利益分配支給の割前の決定、利益金の検査、原料の消却及び臨時積立金として控除すべき金額等につき雇傭主と労働者間の争議は益々増加すべし。

利益金分配制度は二三の例外の場合を除き通常微細の足し前を賃銀に附加するに過ぎず、ある種のものには年度末に於て十五法又は二十法を労働者に支給しあるものは三十法又は四十法を、あるものは六十法又は七十法を支給することあるも百法を支給するものに至りては極めて稀有なり尙此種の賞與金を受くる労働者は全體の半數又は三分の一に過ぎず。

かく利益金分配制度は僅少の足し前を興ふる用をなすに過ぎざればこれを以て賃銀を廢止すべからざるは明なり利益金分配の賃銀に於ける關係は恰も香料例へば胡椒の主要滋養分に於けるに喩ふべしこの種の香料もある場合に於ては刺戟劑として用ゆるは喜ぶべきことなるもこれを以て眞の滋養分たる賃銀に代らしむること能はざるべし。

利益金分配制度は推賞すべきものなれども法律又は行政により物品支給仕様帳或は賣買仕様帳に基きこれが強制をなすべからざるものとすこれが効果と適用の排列は企業と工場の個別的狀況による。

職業の異なるにより賃銀に差異を生ずる原因——賃銀又は報酬は職業の異なるに従ひ特に差異を生ずれば耕作に従事する者は通常一日二三法を得るに過ぎざれ共巧妙なる彫刻師寶玉細工師は一日九法十法十二法を得るものとす。

職業の差異より賃銀に差異を來す理由は次の如し (一)職業に要する修習期間及び其費用これなり修習期間は通常の耕作労働に對しては殆んど必要なければ共彫刻唐木細工寶玉細工に於ては随分長日月を要するものなり (二)ある種の微妙なる職業は天賦稀有の才能あるを必要とすれ共極めて平凡の才能を有する者にも適應する他の職業あり例へば通常の健康と體力とを有するものは總て拙劣なる職工となり得れ共技術的工業にありては其仕事に従事するに當り教育のみを以てしてはなし能はざる天賦の才能を必要とするものあり (三)災厄又は健康に對する職

業の危険玻璃製造職工の仕事は多年永續してこれを爲すこと能はず通常の體質を有する者は肺結核に冒さるる危険あるものなれば之に對し多くの賃銀支拂はるるものとす (四) 仕事の快適と不愉快官署の従業員の如き職業は教育普及の結果青年の渴仰する所なるを以て他の總ての職業に比較して其報酬少し官署従業員の職業は快適にして疲勞少く衣服を汚損するが如きことなく紳士然として之に従事することを得るに由る。

特殊の智能又は専門的知識を要せざる官署従業員の賃銀は他の労働者に比し多くの賃銀を支拂れざるは正當なり官署従業員賃銀の下落は今日公私經營を紛亂せんとする幾多の空想青年を田野に歸耕せしむる利益あり。

第七章 労働者の結社——シンヂケート——同盟

罷工——協力組合

結社の性質と其二制度——結社の危険——獨占主義と舊制度の結社——閉鎖的職人組合の弊害——英國の労働者組合又はツレードユニオン——同盟罷工——労働者のシンヂケート——協力組合

結社の性質と其二制度——結社は人類努力の分配を良好にし生存の危機又は憂慮すべき状態

に於ける権利回復の請求又はこれが防衛を相互に救助し人類の地位を改善せしむる手段にして集合的勢力によりて同量の勢力を用ゐるもこれが個々に分割せらるる場合に於ては到底獲得する能はざる效果に達せしめんとするものなり。

結社は今日見るある種の法人の如く現代並に西洋文明に固有なる新奇の事實にあらず又結社の古きこと尙世界の古きに等し單り二の形式に表るのみ即ち一は制規の結社と言ひて同種の地位にある人々に對し稍強制的範圍の方法によらしむるものと他は自由結社又は公開結社と言ひて何等の認可を得ることなく隨意承認せらるるものなり。

第一種は通常古代及び中世に於て見るところにして第二種は主として近代國家により採用せらるるものとす。

結社の危険獨占主義舊制度の結合——結合の危険と言ふべきはこの組織發達するときは結局極端なる團結心を生じ獨占主義と壓迫に走らんとする傾向を有するに至るこれ舊制度の團體に於て見る所にして其初め保護制度として表れ遂に苛酷と專斷の要具たるに終れり。

舊制度の結合は羅馬帝國の崩解後相互防衛の目的を以て佛國に於て組織せられたり此制度は往々政治弛緩にして裁判正確を缺きし當時にありては權力の濫用に對し工匠の庇護所となりしなり同一地方にありて同種の職業に従事する者は同業組合を組織せり自ら大親方と稱する首長を選任し規則を制定せり。

本來自由主義を標榜したる組合に於ても獨占的精神一貫するに至れり即ち組合を組織せる者は新參者がこの職業に接近することを閉鎖せしなり同業組合は三階級より成る (一)親方小企業家たると同時に其多數は自ら手工勞働に従事す (二)仲間即ち職人 (三)徒弟これなり仲間が親方の地位を得るための實地見習期間を長くし仲間に対し單り傑作たるを要するに止らず高價なる職工試験作物を完成すべき義務を負はしめ依て漸次親方の數を制限するに至れり通常親方の息子に對しては特殊の利益を特許したり仲間に對する報償としては親方とは別に仲間が激烈なる競争により苦むことなからしむるため多くの職業は局限的に徒弟の數を制限せり。

又同業組合は舊來の方法と異らざる製造方法をとるべきを監視せり新奇にして完全なる方法はこれが採用に大なる氣兼をなし多くの改善は延期せられたり要するに同業組合は各其地方に於ける生産品の專賣を主張し類似生産品を製する他の同業組合と屢争闘し絶へず争訟を事とするに至りぬ例へばパン製造職人と菓子製造職人と靴製造職人と靴修繕職人と及物職人と兵器職人と同業組合の如き數世紀の間互に軋轢せり。

閉鎖的同業組合の弊害——王權は同業組合が公益を害して其組合員に與へたる特權をある程度まで制限し緩和するため法制により屢これが干渉を試みたり然れども政府の調節的行動は常に利己的動機を奪ふ能はざりしを以て壓制的にして不公平なりし以上の制度を全く除却すること能はざりしなり。

同業組合は精勵にして天賦の才能ある多數の人々に對し其適所とする職業の徒弟たることを禁じ企業主たる能力ある場合に於ても仲間又は親方として徒弟の階段を経ざるべからざるものとせしを以て個人の自由に對し大なる障害たりしなり又本制度は同業組合の親方過半數の同意あるにあらざれば生産し發達するに能はず又各異種の同業組合を分界する綱目を辛ふじて通過せしむるのみなるを以て産業の進歩に大なる桎梏をなしたり慣例的特權制度たる同業組合は始めてかの有名なる閣臣にして經濟學者なりしツルゴーにより一七七六年禁止せられしなりツルゴー内閣失政後此の制度は多少の修正を加へ再興せられしも遂に一七九一年四月の法律を以て終局的に廢止せられたり。

この法律は主として産業の自由より出發し勞働の自由を宣言したりしなり漸次歐洲の多數の國は閉鎖的組合を禁止するに至りぬ相互防衛の思想より出でて特權と舊慣に終りし同業組合の制度は之を惜むに足らず。

極端なる個人主義は一七八九年の革命により確立せられたり——時を経るに従ひ同業組合の私に設立せらるるを恐れしかば革命時代の立法者は結社に對しては勿論所謂共通利益防禦のため同業者が協商することに對し輕罪を課したりかくの如く極端に失したるため公の秩序を保護する口實の下に人類の自由たる結合及び組合權を侵害するに至れり刑法は勞働者にも亦企業主にも等しく其團結を禁止せり即ち勞働者間又は企業主間に於て同時に仕事を罷め賃銀の増加一

日労働時間の短縮労働者の利益に關する工場規定の變更或は其反對に賃銀の底減雇主の利益を圖る工場規則の變更をなすが如き相談又は協調はこれを禁止することとなりたり。

排他的にして壓制的なる結合の弊害と復活とを恐怖したることは人類を極端なる個人主義に赴かしめたり。

事物の力は法律の苛酷なりしに拘らず漸次以上の如き困難なる障礙を破壊し立法者をして其不正當なる嚴格を緩和せざるを得ざるに至らしめたり。

英國労働者の結合、同業組合——労働者の結合は法令の禁止する所なりしに拘らず大工業國たる大英國に於て先づ其設立を見たりこの結合の中最も有名なるは同業組合（ツレードユニオン）又は職工組合の名により知らるるものとす。

組合は嚴に禁止せられしも遂に國家の承認するところとなり單に法律上の方式即ち定款の登録を強制せらるるに止れり。

英國の此種組合の利弊につきては大に論議せられたり之を要するに同種の職業に従事する労働者が共通の利益を有するは明にして此問題に付き協議するを禁するが如きは不適法なりと言はざるべからず労働者は雇主に對し正當なる主張を固持し後に述べべき消費組各信用組合生産組合を設立し或は相互救済組合退職恩給組合俱樂部職業教育制度組合を組織するため協調し結合し團體的資金を蓄積する權利約言すれば組合を組織する無形人を創造する權利を有するものとす。

とす。

然れ共労働者組合の實現は平和的手段に出でずして屢争鬪的手段に依ること多きは實に悲むべきことなり。

英國のツレードユニオンは普通憐惻なる人士により指導せらるる場合に於ても組合と産業との關係は全く労働者及び國家産業の永久的利益に反することあるを示せりされど同業組合は屢困難なる活動により發達改良せられ其仕事に従ひて各人に賃銀を給する請負仕事に對しては反對したりしなり組合は又極端に徒弟の數を制限し一地方の仕事より近接地方の仕事を排除し出來得る限り異種職業間の障壁を嚴然維持するに努めたり例へば指物師に對しては石材を動かす建築に従事するを禁じたりこれ大工の仕事に屬するものとせられたるがためなりある同業組合に於ては労働者が一時間に爲す仕事又は一定の用具を以て爲す仕事の最少限度を定めたり例へば一定數以上の煉瓦石を車に積載することを禁するが如し。

かくの如き方法は精力あり天賦の才ある者が仕事を増加し多くの報償を得べき權利に反し又一の職業或は地方より更に有利なる他の職業或は地方に入ることを得べき個人の權利にも反對するものなり同業組合が排他的精神及び不當にして不公平なる規定を有する點は恰も古代の職業組合を復活したるが如き觀あり同業組合も亦人類の自由と進歩を阻害するに至れり。

特に徒弟の數を制限し他の職工の組合に加入することを排斥するが如き主張は全く平等の原

則に反すかかる手段により労働者階級の精英を集め幸福なる職業は總べて組合員のために壟斷し殘餘の人々を生産力乏しき職業に投せしめんとするに至るかとして昔時の市民階級たる第三階級に對し第四階級を組織せしめたり然れ共この排他的思想により最下等の嫌忌すべき生産力乏しき職業中に悲惨なる非人の如き者を禁錮することとなり第五階級を生せしめたり以上を綜合して考ふるときは労働者結合の精神は漸次歐洲の天地に古印度或は古代希臘に於て見たる階級制度を樹立せしめんとす。

吾人は英國同業組合の大多數が少く共主義として以上の傾向に反せるものなることは之を認むるに客かならざれ共其實行に於ては常に以上の弊害を脱せるものと言ふ能はざるなり。

労働者の同盟罷工——同盟組合の主たる事業の一は組合の生存期間中少く共其三分之二の間は同盟罷工を固持したる點にあり。

労働者の同盟罷工に對しては多數の立法例は最近に至るまでこれが禁止を爲したりと雖も如何なる時代に於ても同盟罷工を見ざるものなし同盟罷工は同一工場同一職業同一地方同一地帯に於ける労働者の全般が同時に作業を中止するに在り作業の中止は通常賃銀の増加労働時間の短縮工場規定の改正支配人又は職工長の更迭を要求するための提携を實行するにあり。

時を経るに従ひ凡ての國家は同盟罷工權を是認するに至れりこれ等の國に於ては個人的自由の適用を見る労働者は刑罰に觸れずして自己の危險に於て其作業を中止することを得るなりさ

れば十人百人一千人の労働者も同様の舉に出づることを得同盟罷工又は共謀の禁止は毫も効果あるものにあらず一八五三年より一八六三年に至る間佛國に於て法令が同盟罷工を禁じたる時代に其實例を求むることを得べし雇主の間に見る協調は労働者間に於けるものに比し騷擾極めて少く又公然ならざる方法を以て實行することを得るものなれば同盟罷工禁止權能は労働者全般よりこれを見るときは恰も國家は雇主の利益のみに着眼して干涉を爲すものの如く思はるなりされば暴力を伴はざる平和的同盟罷工は經濟上より見れば憂慮すべき結果あれ共輕罪構成要件たる不道徳を表示するものにあらざるなり。

總ての法制が立法者の遵守すべき公平に一致して同盟罷工を認むるとするも同盟罷工頻繁に行はれ特に強烈なるときは尙産業及び國家に對し致命的結果を有する害惡を與ふるものたるを失はざるなり。

同盟罷工の弊害——同盟罷工權は思慮淺薄にして冷酷なる企業主をして労働者を尊重せしむる上に有用なるものなれども之を最後まで極端に實行するは不可なり同盟罷工は資本に對し大なる損害を與へ又通常労働者團體がこれにより被る損失は假令勝利によりて得たる利益を以てするも尙之を償ふこと能はざるなり今假に同盟罷工が一ヶ月間續行せらるるとせば労働者は一年の賃銀に於て其百分の八以上の損失を被り同盟罷工を實行したる月末に於て賃銀の五歩を増額せらるゝも十二ヶ月目の終りに至らざれば任意休業したる月に被りたる損失を償ふて餘りあ

らざるなり。

同盟罷工は産業の任務と新販路の開拓に對し大なる障害を與へ往々其産業の競争者又は外國の産業に對して利益を與ふることありある種の工業は同盟罷工の行はれたるがため其の土地を去ることあり例へば造船業は倫敦を離れ巴里の唐木細工は同一の理由により獨逸の唐物細工に大なる利益を與へしことあり。

同盟罷工は産業に剛情なる職工を用ゆる代りに新奇の機械を使用せしむるに至ることあり例へば鐵人と呼ばれる、紡績機械は一人の職工を以て一千五百乃至二千鍾を生産することを得同盟罷工は亦ある種の材料を他の種の材料に代用せしむることありされば建築工業に於ては木材の代りに鐵骨を用ゐるに至れり。

勞働者が同盟罷工權を有する理由によりこの權利を屢々用ゐざるべからざる結論を生ずるものにあらず。

同盟罷工の場合に於ける公權力の義務——公權は同盟罷工ありたる場合に於ては秩序の維持私人財産の保障個人の自由につき注意を拂ふべきものとす同盟罷工に加入するを好まず勞働を持續せんとする仲間に對し同盟罷工者が行ふ不當の處理につき其仲間を保護するは正に公權の義務なり警察權及び軍隊の力を用ゆる根據は其の目的に於て明なるが如く公權のために干渉するものにあらず又市町村會縣會をして同盟罷工者或は其家族に對し救助を與へしむることを認

容するは事實同盟罷工に與する結果となり不公平にして有害なる干渉なりと云はざるべからず國家はかゝる性質を有するものは凡て禁止すべく自然の目的に反する矯飾に對しても之を防止せざるべからず。

ある國に於ては同盟罷工を豫防し其結末を促進するため仲裁裁判の制を採れるものあり利害干係者の任意的承諾ある場合に於ては良法たるを失はず然れ共仲裁裁判に服従することを拒絶する勞働者又は雇主に對し仲裁裁判を強制する場合に於て國家は充分公平なる役目より出發せざるべからず。

職業組合——職業組合が英國に於て法律により認められたると同じく佛國法制も亦一八八四年の法律を以て雇主又は勞働者の職業組合の地位を認めたりそは各人が自由に入社し又は退社し得る結社なりしなり公權により寛大なる取扱を受けし後約二十年にして組合は絶対に適法なるものとなされたり。

要するに同種職業に従事する個人が相互に接近し各員が共通職業の利害につき討議し教育救濟産業宣傳機關に使用するため離出金を集むるが如きこれ等の組合は極めて推賞すべき價値あるものとす。

組合は又立法者のなすところと異なる道も採り得るなり。

職業組合聯合部が特に示す危険の一は勤勉なる勞働者全般の從業を禁止せしめ勤勉なる勞働

者は不平にして激昂し易き一派の煽動者の餌となることなり煽動者は單り私の利益のため利害を有せざる多數の一團の名を稱して他の者の權利を擅有せんとするなり。

職業組合は活動的にして熱心なる多數の組合員を擁して猶他の危険を冒さんとす即ち組合に加入せざる總ての者に對し其職業に就くを排斥し個人の自由を制限せんとせり職業組合は昔時の組合又は英のツレードユニオンに於て見るが如く亦再び權利の濫用に陥りたり。

されば立法者は組合を嚴に監視しこれに對し公的又は公務的職務を附與することを避けざるべからず立法者は雇主又は職工の組合に對し自由を與へざるべからず自由以外何物をも必要とせず恩惠又は特權を附與すべからず組合聯合部に於て制定せらるる規約は同一職業の職工雇主組合員に對し隨意脱退することにつき毫も束縛を加ふるべからざるものとす組合聯合部は加入者に對し道徳上の權利を有するに止むべし又前の約款が如何なるものなるを問はず脱會を欲する者に對して脱會權を有するものとせざるべからず組合の加入は修道者の誓約の如きものとなすべく國家は組合の規定實施につき干渉をも又助力をも借すべからざるなり然らざる時は組合聯合部は忽ちにして壓制的制度たるに終るべし。

協同的組合——労働者の組合は往々にして極めて限定的劃然たる經濟的性質を帶び協同的組合なる名稱を附せらるるに至れり。

この種組合の目的とする所は資金を集め置き加入労働者中資金を必要とし相當擔保を提供す

る者あるときは之に對し貸付をなすものにして信用組合と呼ぶるものこれに屬す或は共同的に商品の買入をなし組合員に對し卸値段により賣却する組織を採るものあり消費組合と稱せらるるものこれなり或は同一の製造業に従事する職工より組織せられ企業主の指揮を受けずして其生産貨物を共同的に販賣せんとするものあり世人の産業組合と呼ぶものこれなり。

予は後に信用及び消費につき論述する際前二種の組合につき述ぶる所あるべし。

産業組合につき少しく述べん産業組合は今日に至るまで二三の適用ありたる一種の組織なれ共前二者に比ぶれば其適用の範圍遙に狭きものとす恰惻節約勤勉なる労働者は其貯蓄を集合して商工業を營むため小規模の經營を爲し得るに至るべきは明なり。

これ等の者にして判斷力忍耐力訓練を有し善良なる管理人を選任する道を知るときは限られたる貸銀を以て満足するを其所得の餘剰を資本の増加に充當し多年にして成功することを得小企業に於て殊に然りとす。

然れ共組合が永久的成功を得ることは極めて困難なり通常組合を蹉跌せしむるものは嫉妬不規律善良なる管理者を得るの困難なること及び重大なる原因と云ふべからざるも資本の缺乏なりとす産業組合中成功せしものは通常管理權の大なる集中を實現したるものなり組合は漸次實際の組合員の數を減少し通常の貸銀を以て報償せらるる非組合労働者を使役するに至る終に多數の幸運なる小組合は英國の綿糸工業に於て見る如く單純なる無名會社となる換言すれば資本

の合同にして賃銀労働者を使役せざるものは殆んど無し企業者の役目につき論じたる章下を参照するときは産業組合にして繁榮したるものの數極めて少きを見るも世人は毫も驚くところなかるべし。

労働者組合の發達につき約言せんに重大にして微妙なる問題と云ふべきは組合と個人の自由とを和合せしむる點にありされは昔時の組合の如く公的任務を有する組合は總て之を排斥せざるべからず組合員に對して權力を有することなく組合員は自己の意思に従ひ脱退し得るが如き自由なる組合のみを組織すべきものとす。

第三部 富の循環

第一章 交易——價值——價格

交易は人類の本能的事實なり——交易の二起源——交易の發達——交易の種類——價值の觀念——人類社會に於ける價值の順位——價值の變動を決定する原因——競争——競争に對する例外專売——競争の結果——價格

交易は人類の本能的事實なり——文明社會に於て見る生産の特質は人類が生産するところの大部分を生産者自身のため消費せざること生産は自己及び其家族が消費する割合より遙に大にして人類が必要とする貨物は交換又は通常交換の方法たる賣買により得らるゝ點なりとす製靴工は一ケ年に二三百足の靴を製造するも自己及び其家族は僅に十二足を要するに過ぎず小土地所有者は自己の葡萄園より五十ヘクトリツトルの葡萄酒を生産するも其妻子と共に飲用する量は六七ヘクトリツトルに過ぎざるべし生涯眼鏡の製作に従事する眼鏡師は其視力健全なるに於ては自己用として一も使用せざることあるべし。

近代社會に於ては交易のためにする生産が生産者の必要のための生産に代るに至れり本書の初めに於て分業が如何に漸次古代の家内の生産を消失せしむるに與りて力ありしかを述べたり古代の家内生産にありては各家族は生産するに従ひて除々に消費し直接自己が消費する以上の貨物を生産することは殆んど無かりしなり。

交易の範圍に廣狹はあれ共交易は如何なる時代にも存在せしなり交易は何人も發明したるものにあらざる人類の大なる本能的事實なること恰も言語種族又は社會に於ける組合或は團結の如きものにして何人も交易言語組合を發明したりと云ふ能はず人類は生れ乍らにして交易なる自然的性質を有す。

交易の二の起源——交易の起源を分ちて二とす即ち土地の異なるによる生産能力の相違人の異なるによる生産能力の相違これなり土地の異なるによる生産能力の相違は絶對的なれ共人の異なるによる生産能力の相違は相對的なるに過ぎず。

人類にとり最も緊要缺くべからざる日用品の一は鹽なり自然が鹽を惠まざりし國あり例へばスーダン、印度の一地方の如し其領土外に製鹽場あることを報せらるるや直ちにスーダン及び印度のある地方の住民は自己にとり必要缺くべからずして而も稀なる鹽を得んがため豊富に所する貨物例へば家畜の如きものを提供する道を知るなりこは極めて顯著なる實例なるがこの種の例證は枚舉に遑あらざるなり。

人類生産能力の相異なる結果は最も原始的なる種族の間に於て漸次交易を生せしめたり漁獵種族の間にありて生れ乍ら不具なるか或は負傷し疾病に罹り身體虛弱なる者は殆んど漁獵すること能はざるも弓矢漁叉を製作し小屋を修繕し野獸の毛皮を衣服に變ずるが如きことは之を爲し得べし以上の如く貧弱なる交易商人を生じたることは他の動物と區別せらるべき人類固有の本能が職業の分離を生じたるなりかくして細分せられたる分業は人類の生産能力を百倍するに至れり。

動物は交換する術を知らざれ共人類は益交換を増加し盲目的本能に基きたる交換は熟慮的理性的計畫的行爲となりしなり。

交易の發達——多數の人類は其始めに於いて必要品を得るため單に自己生産品の餘剰部分を交換するに過ぎざりしなり換言すれば自己が所有せずして而も必要缺くべからざる貨物を得るがため自己の生産したる一小部分例へば弓矢、衣服に調製せられたる毛皮を求め或は小屋の修繕を爲さしむるがためには自己が漁獵によりて得たる獲物五分の一又は十分の一を交換したるに止りしなり然るに交易のための生産は益増加し今日に於ては地球上の相互地點に住する人類の生産物と交換するため一般の人類は其生産品の全部とは言ふべからざるも其十分の九は之を交換するに至れり職工作業服はアメリカより輸入せらるる綿布を以て製せられ印度産の藍により染色せられ其ズボンはブラータ或はケープ産の羊毛を以て織られ職工の飲用するコーヒーは